

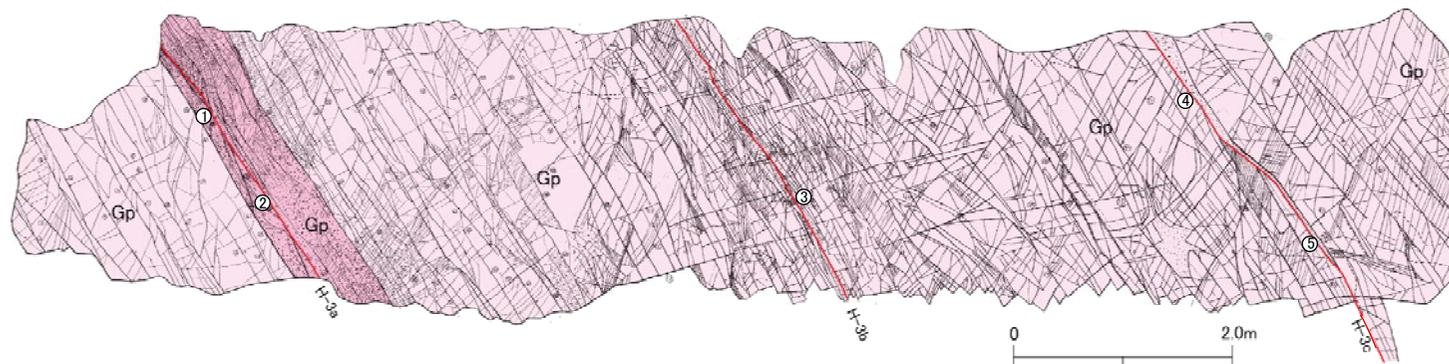
第7.4.4.136図 H-3a 破碎帯 調査位置図
6-7-4-966



□ ブロック, SEMサンプル採取位置



調査位置図



H-3a 破砕帯

- ① f: N22° E82° W
- ② f: N21° E85° W
- ・断層ガウジ 幅 0.1-1.3 cm程度
(灰白色, 暗灰色粘土からなる)
- ・カタレーサイト 幅 15-20 cm程度
- ・下盤側に角礫状破砕部を伴う

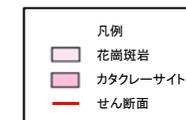
f: せん断面
* 走向は偏角未補正である

H-3b 破砕帯

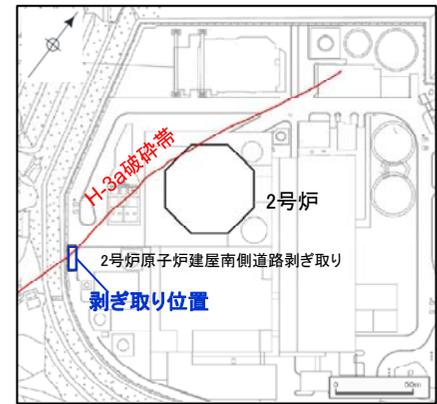
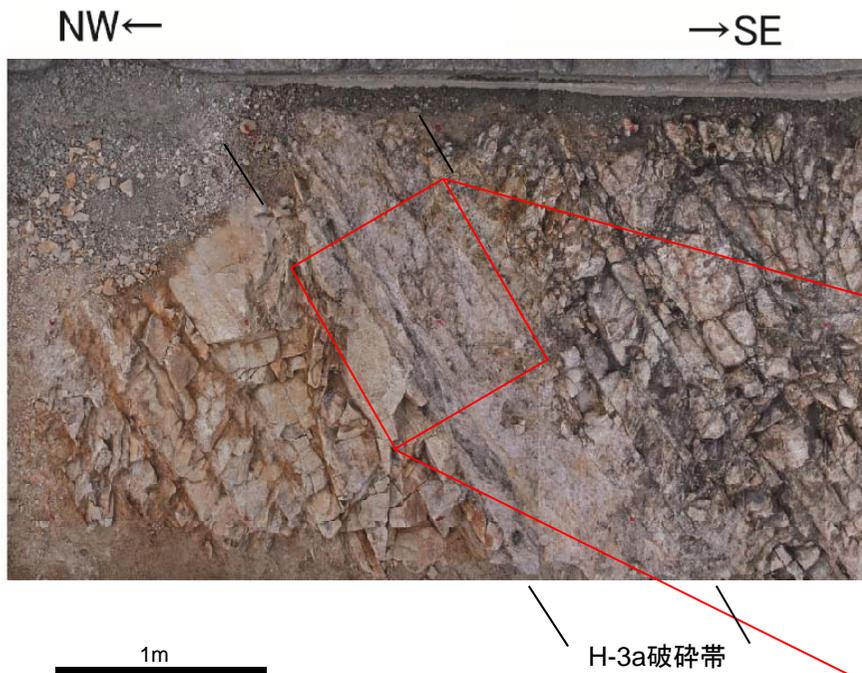
- ③ f: N23° E75° W
- 断層ガウジは認められない
- f: せん断面
- * 走向は偏角未補正である

H-3c 破砕帯

- ④ f: N11° E83° W
- ⑤ f: N12° E85° W
- 断層ガウジは認められない
- f: せん断面
- * 走向は偏角未補正である



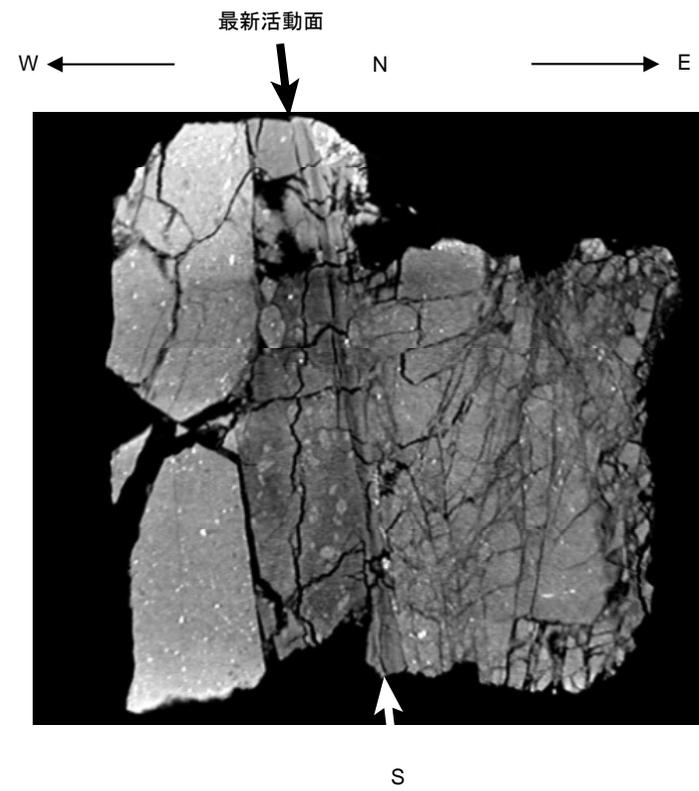
第7.4.4.137図 (1) H-3a 破砕帯 剥ぎ取り調査結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その1)



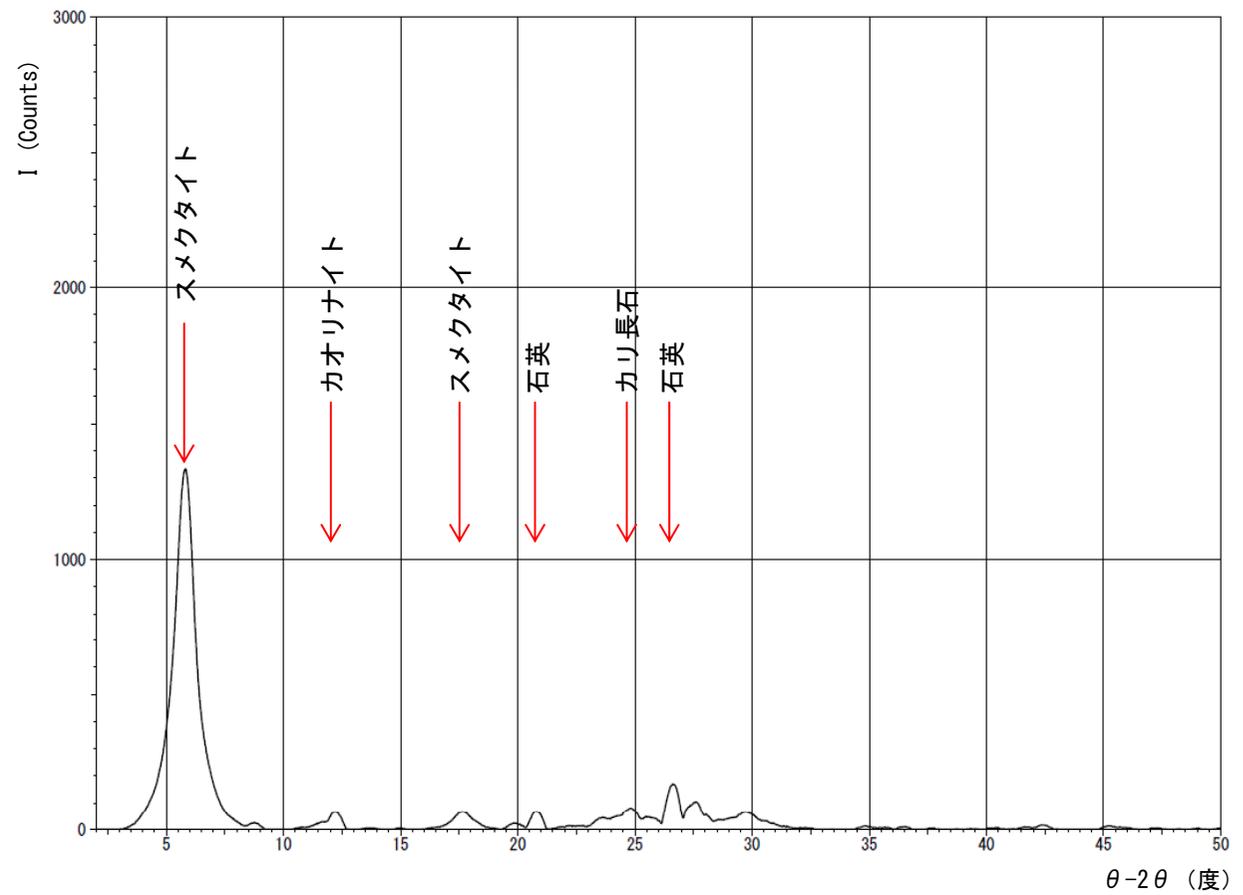
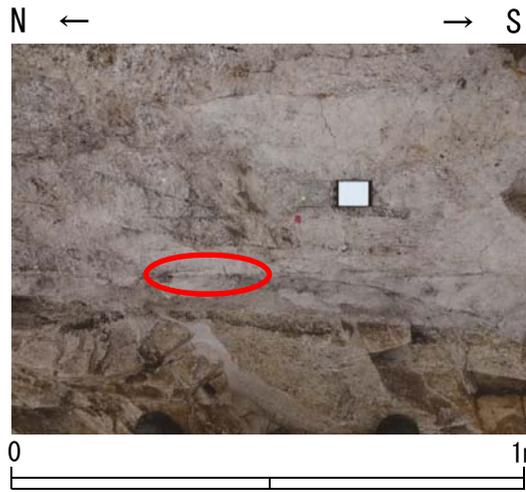
調査位置図



第7.4.4.137図(2) H-3a 破碎帯 剥ぎ取り調査結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その2)



第7.4.4.138図 H-3 a 破碎帯 研磨片試料及びC T画像 (2号炉原子炉建屋南側道路)



第7.4.4.139図 H-3 a 破砕帯 X線回折分析結果 (2号炉原子炉建屋南側道路)

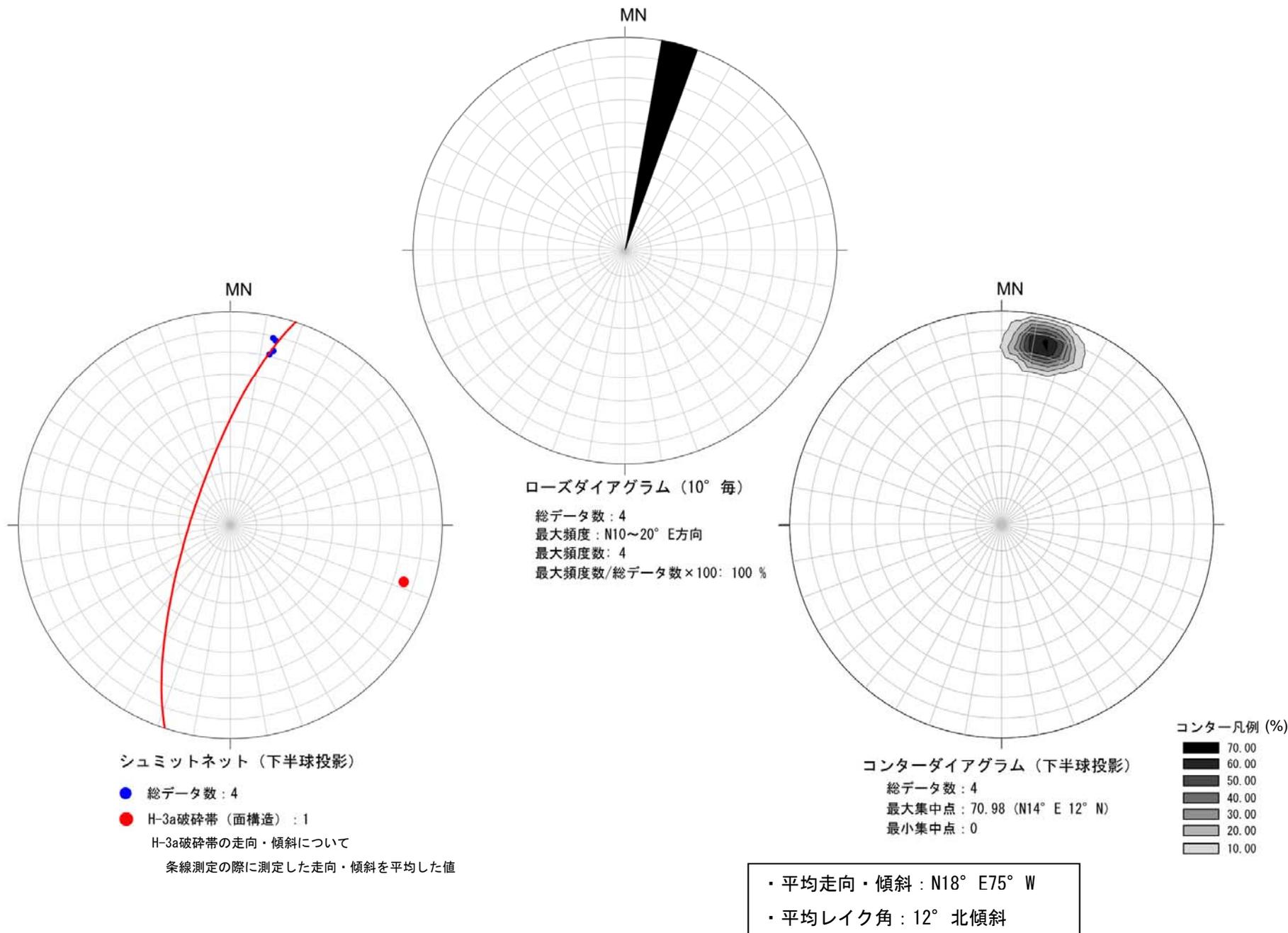


調査位置図

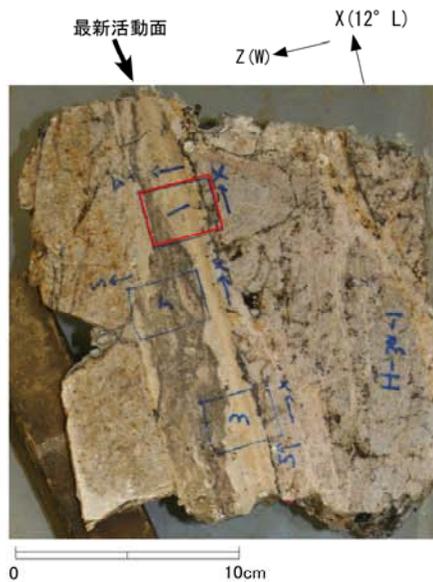


条線の例

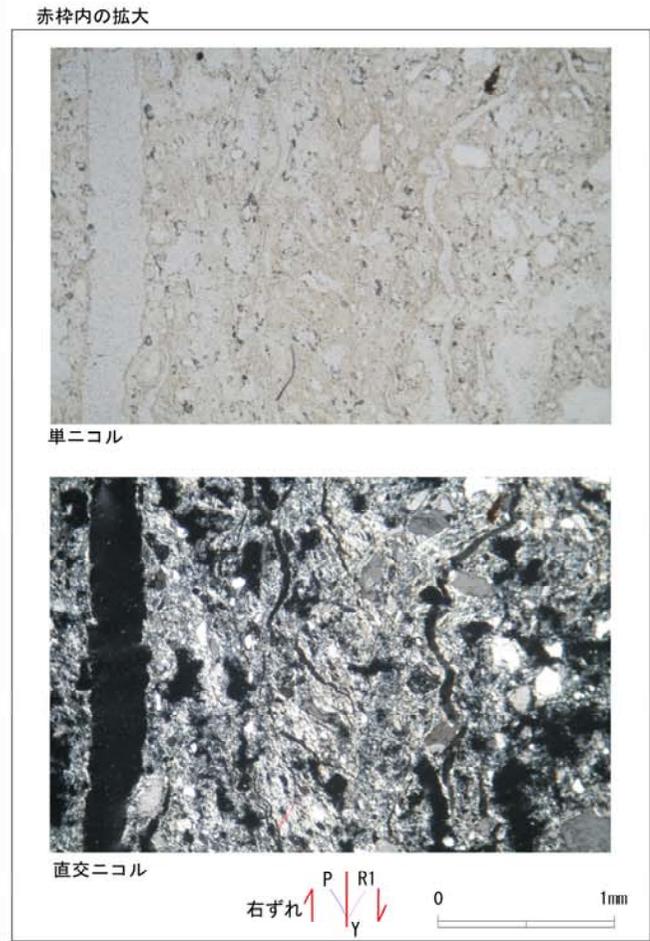
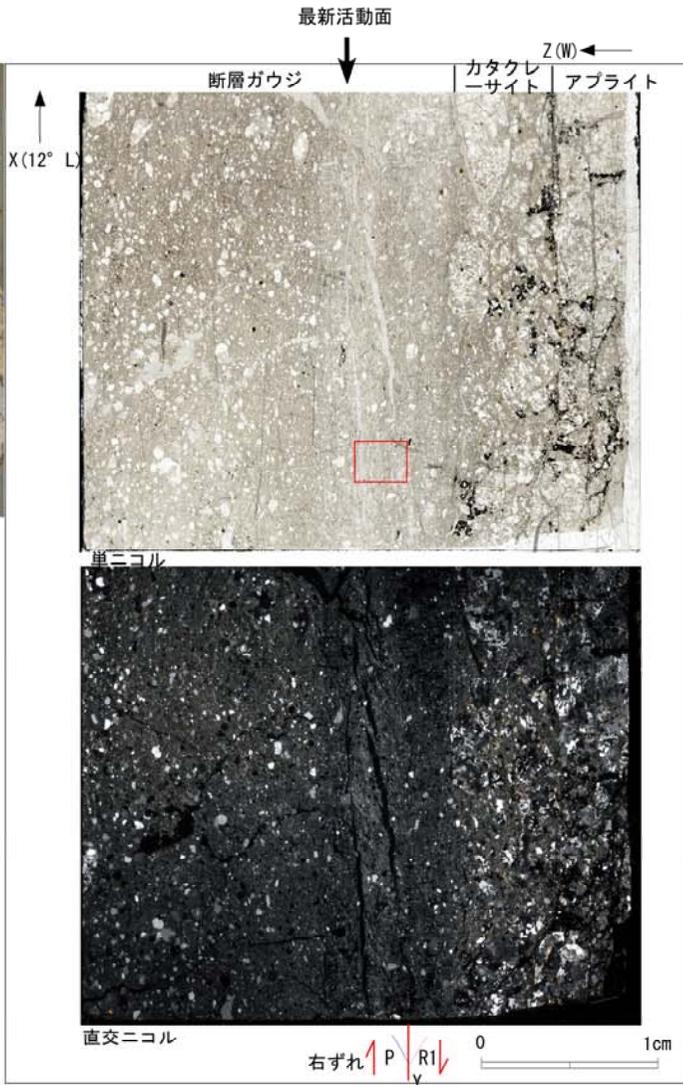
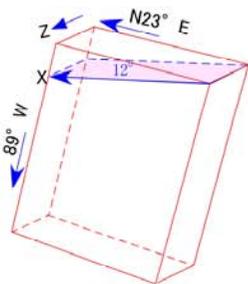
- ・ 平均走向・傾斜: N13° E81° W
- ・ 平均レイク角: 12° 北傾斜



第7.4.4.140図 (2) H-3 a 破砕帯 条線観察結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その2)

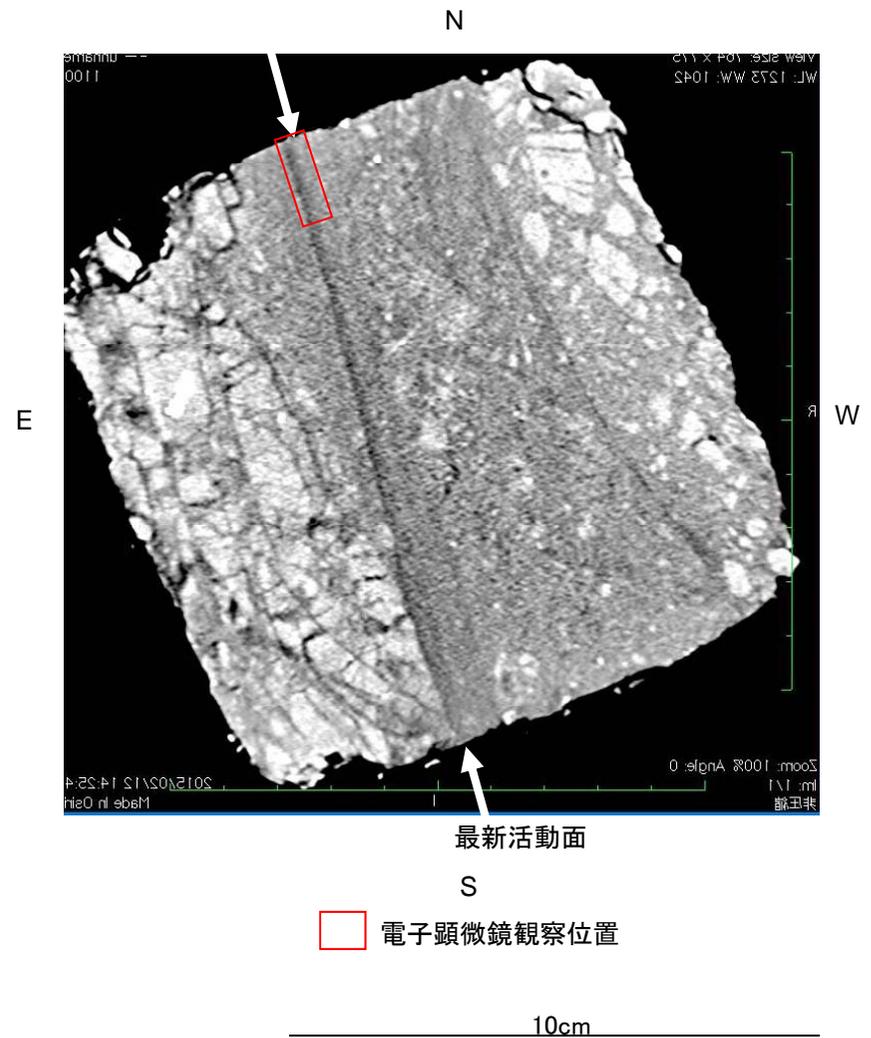
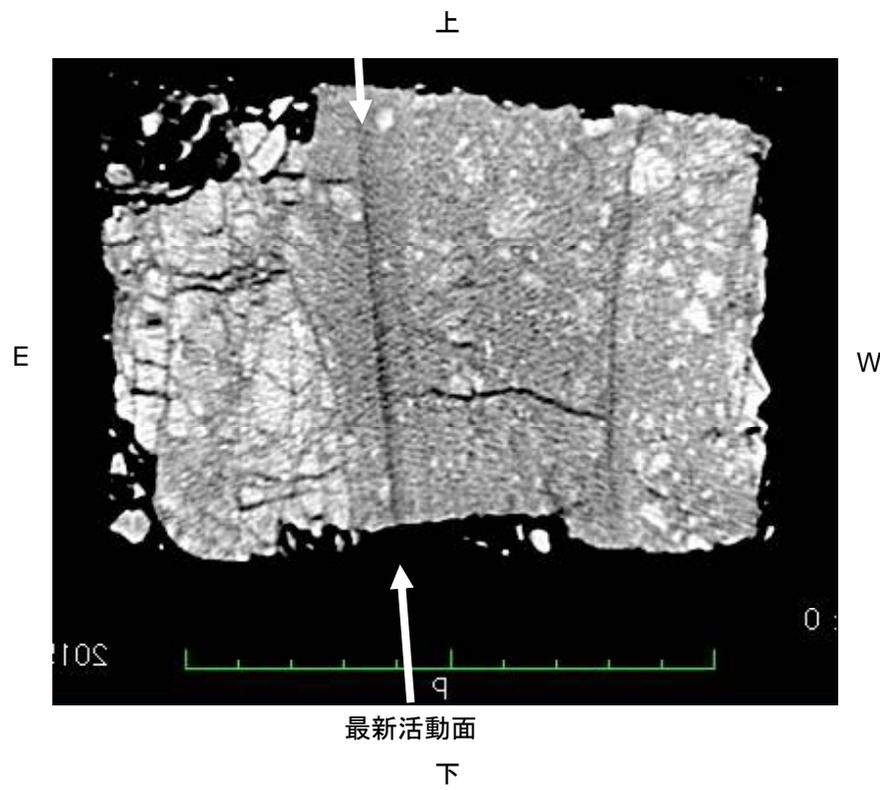


走向・傾斜 N23° E89° W

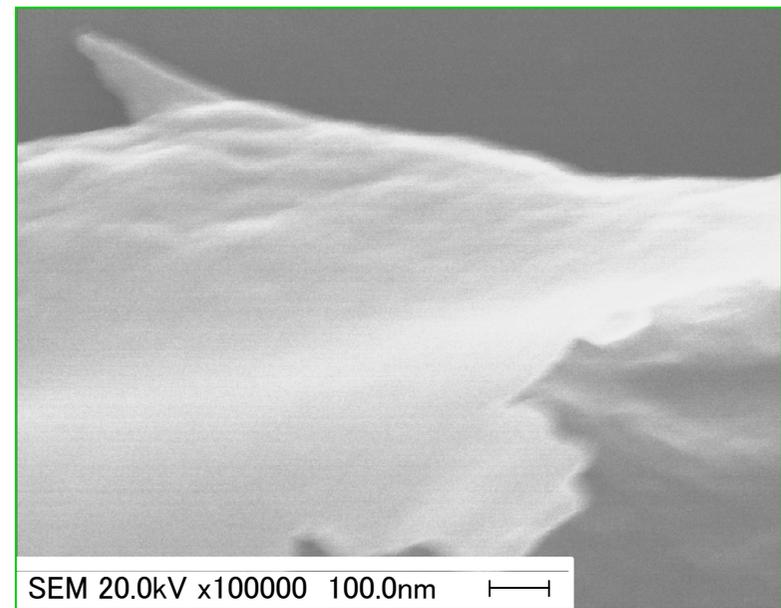
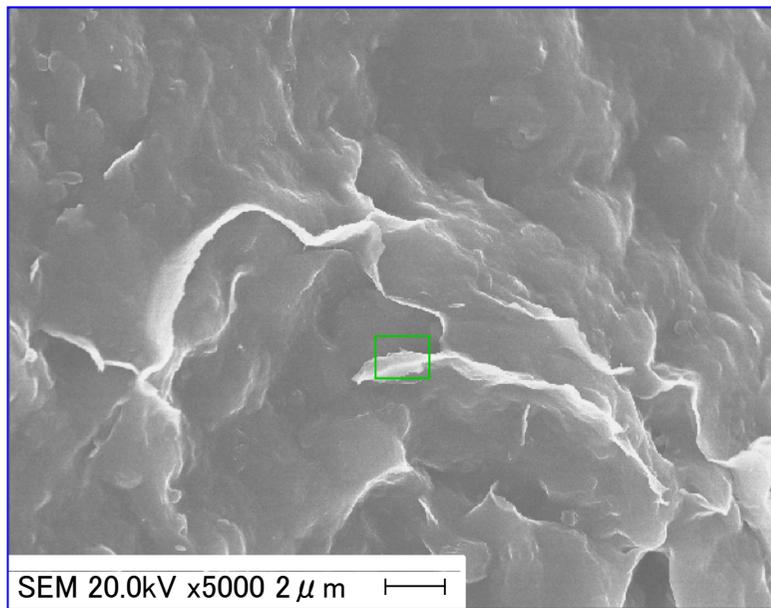
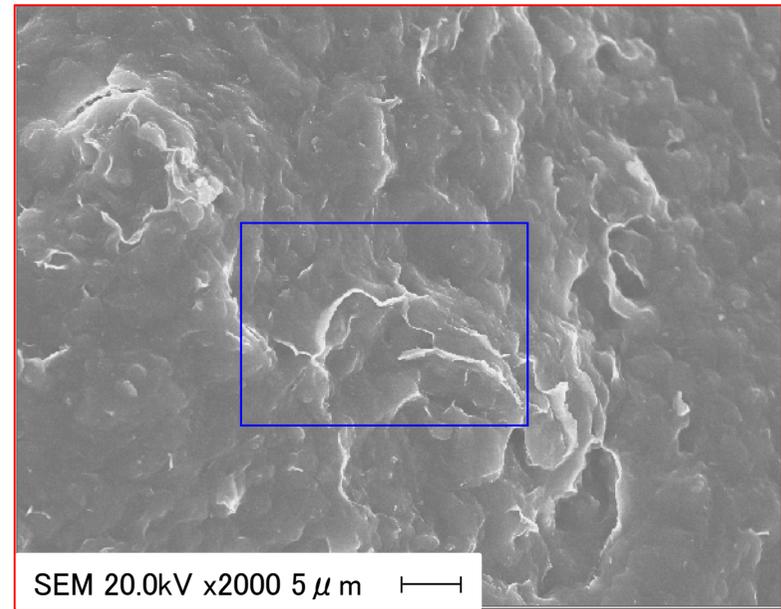
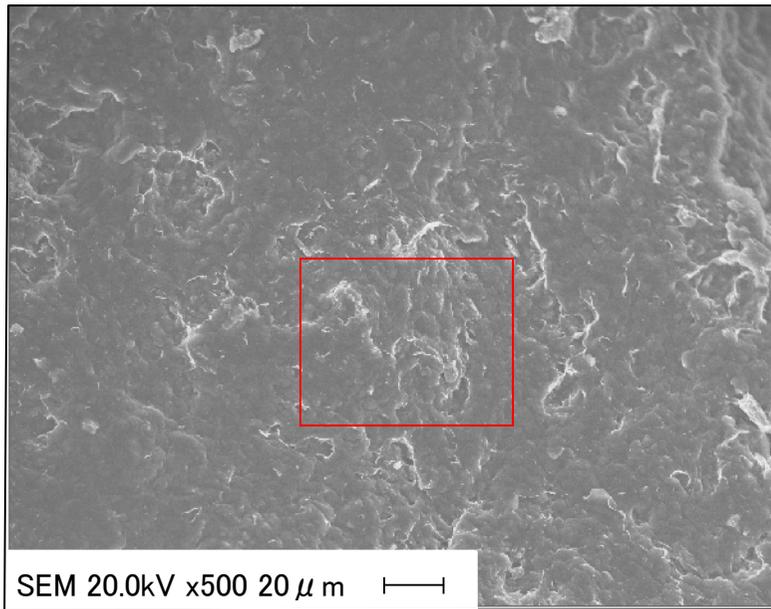


- ・断層ガウジ(最新活動面)
 褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~3mmの垂円~垂角礫状の石英, 長石, カタクレーサイト, アプライトからなる。基質には粘土鉱物が多い。R1面及びP面から右ずれセンスが判読される。
- ・カタクレーサイト
 褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~8mmの垂角礫状の石英, 長石, カタクレーサイト, アプライトからなる。基質には粘土鉱物が少ない。
- ・アプライト
 石英, カリ長石, 斜長石, 不透明鉱物, 黒雲母からなる。

第7.4.4.141図 H-3 a 破碎帯 薄片試料観察結果 (2号炉原子炉建屋南側道路)

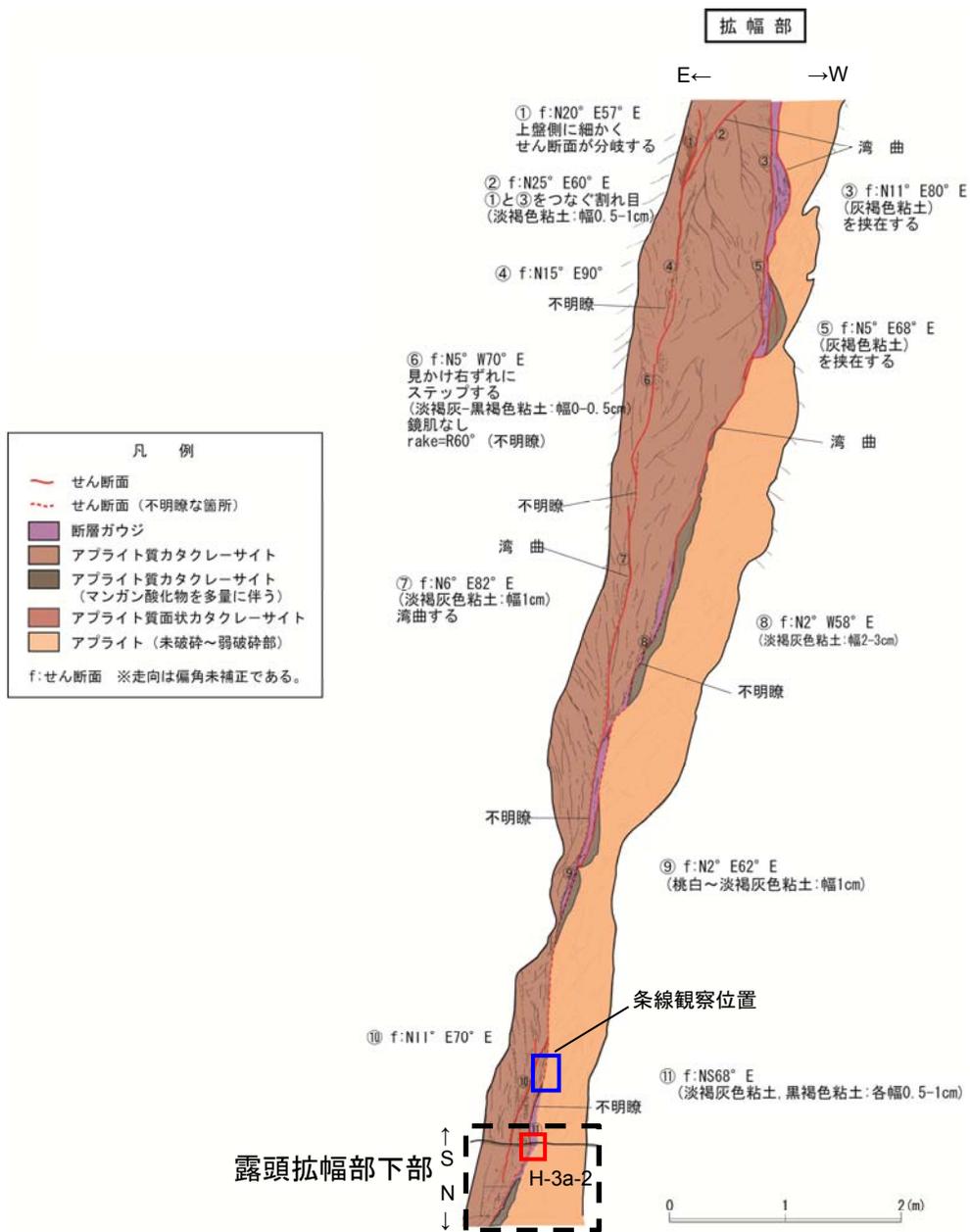


第7.4.4.142図 (1) H-3 a 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その1)

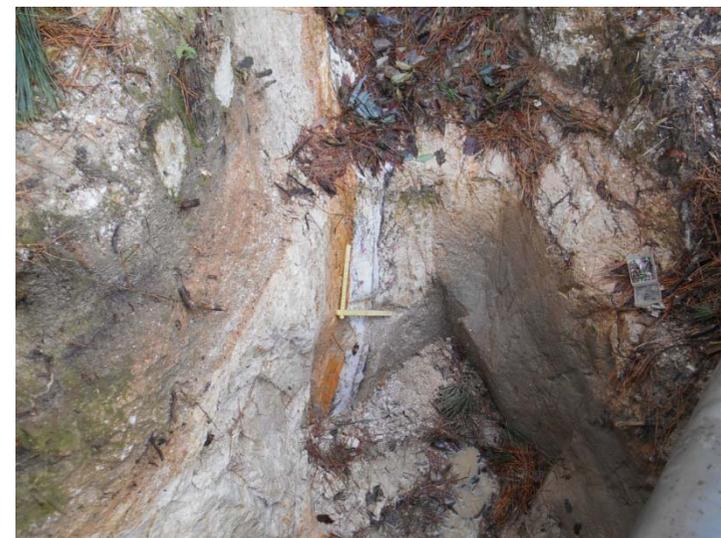
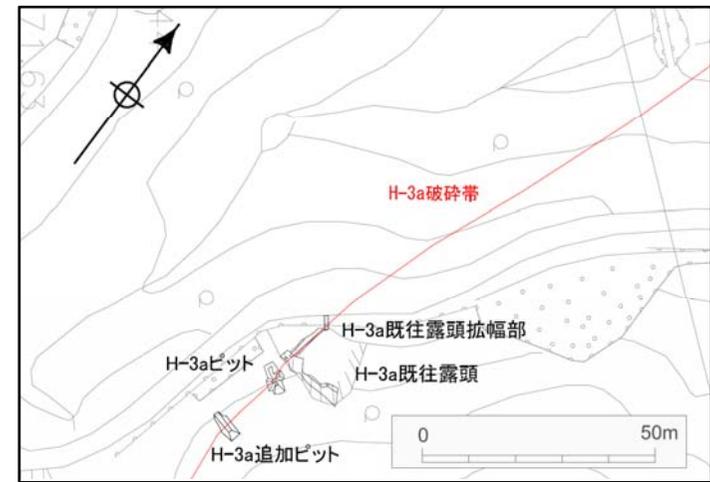


イライト, スメクタイトがカードハウス状を呈する

第7.4.4.142図 (2) H-3 a 破砕帯 電子顕微鏡観察結果 (2号炉原子炉建屋南側道路) (その2)

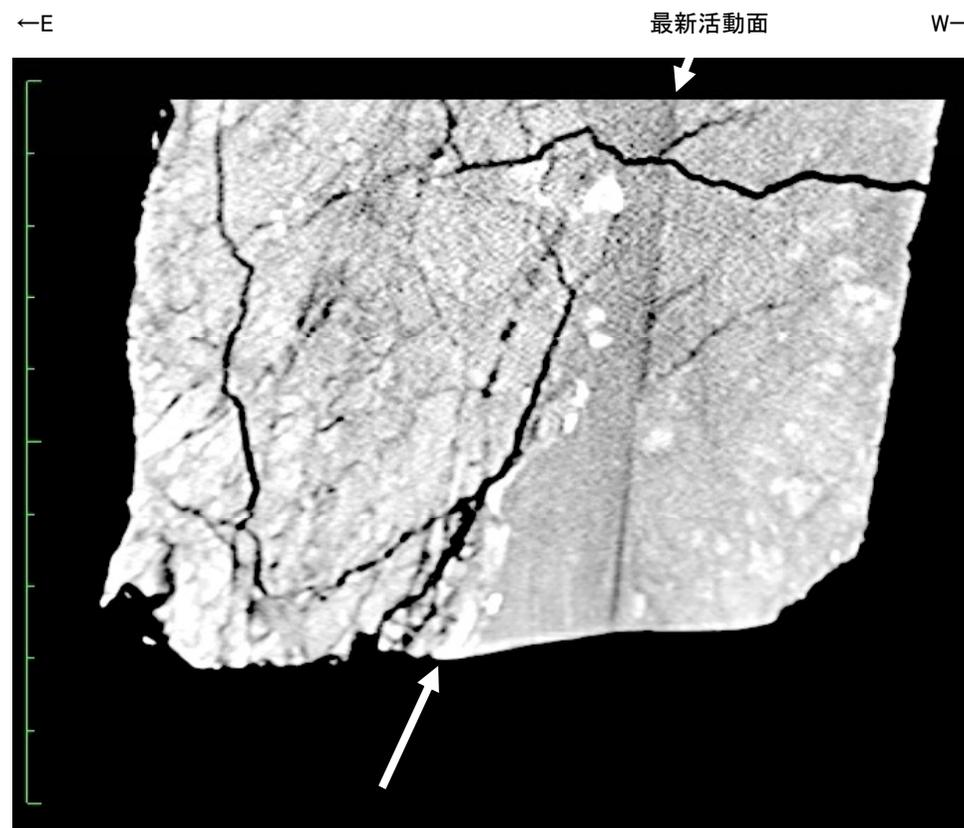


 H-3a 破碎帯のブロック, SEM サンプルング位置



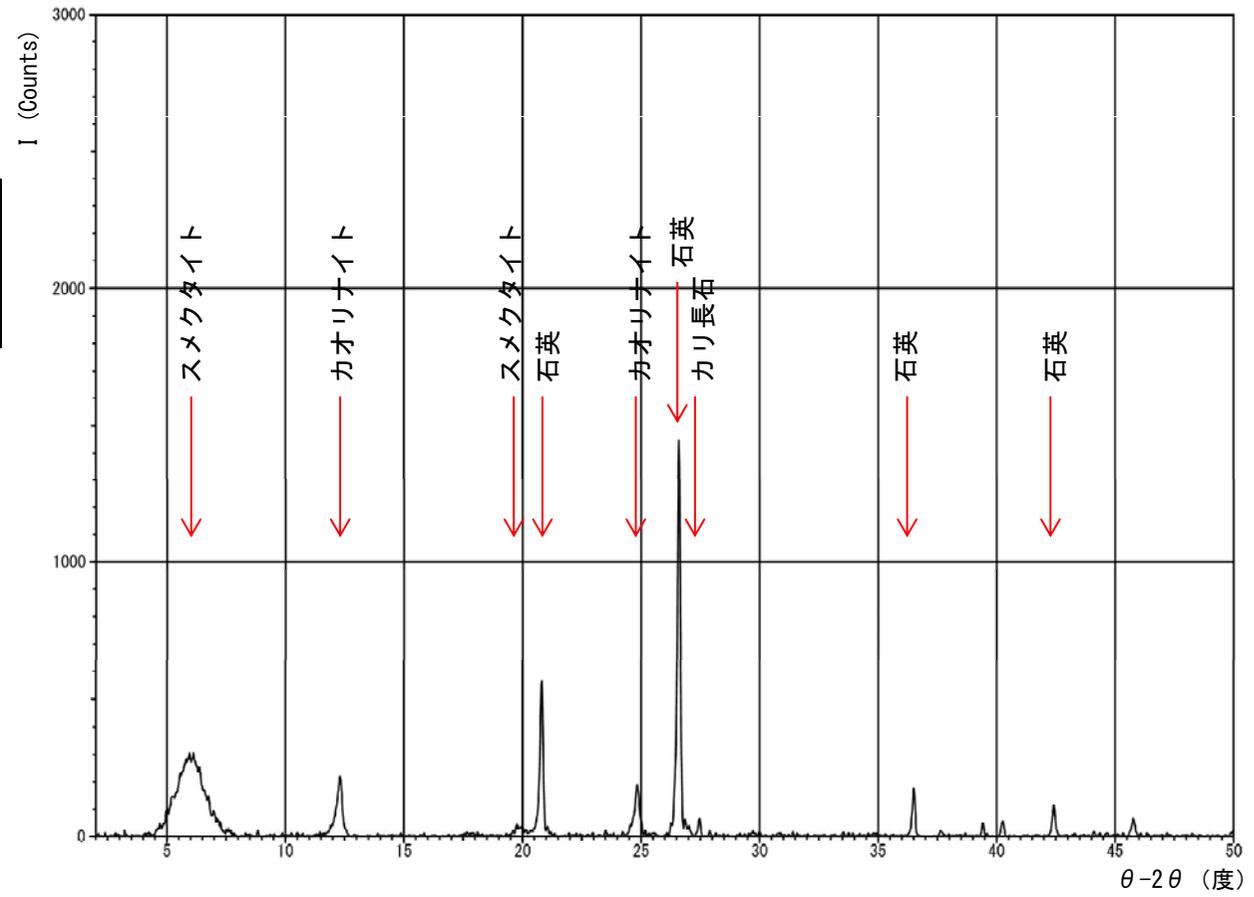
第7.4.4.143図 H-3a 破碎帯 露頭調査結果 (H-3a 既往露頭)

試料番号 : H-3a

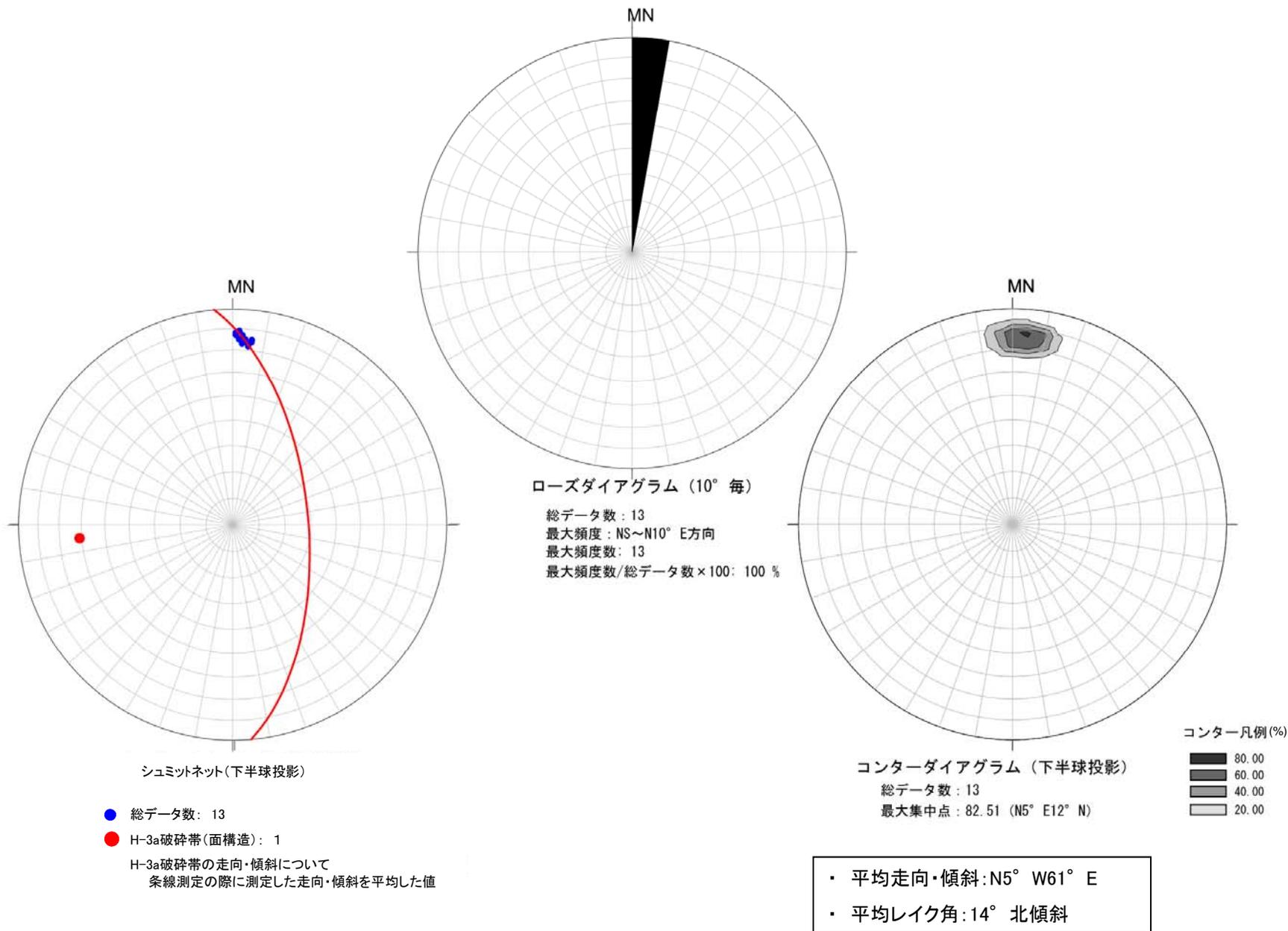


第7.4.4.144図 H-3a 破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (H-3a 既往露頭)

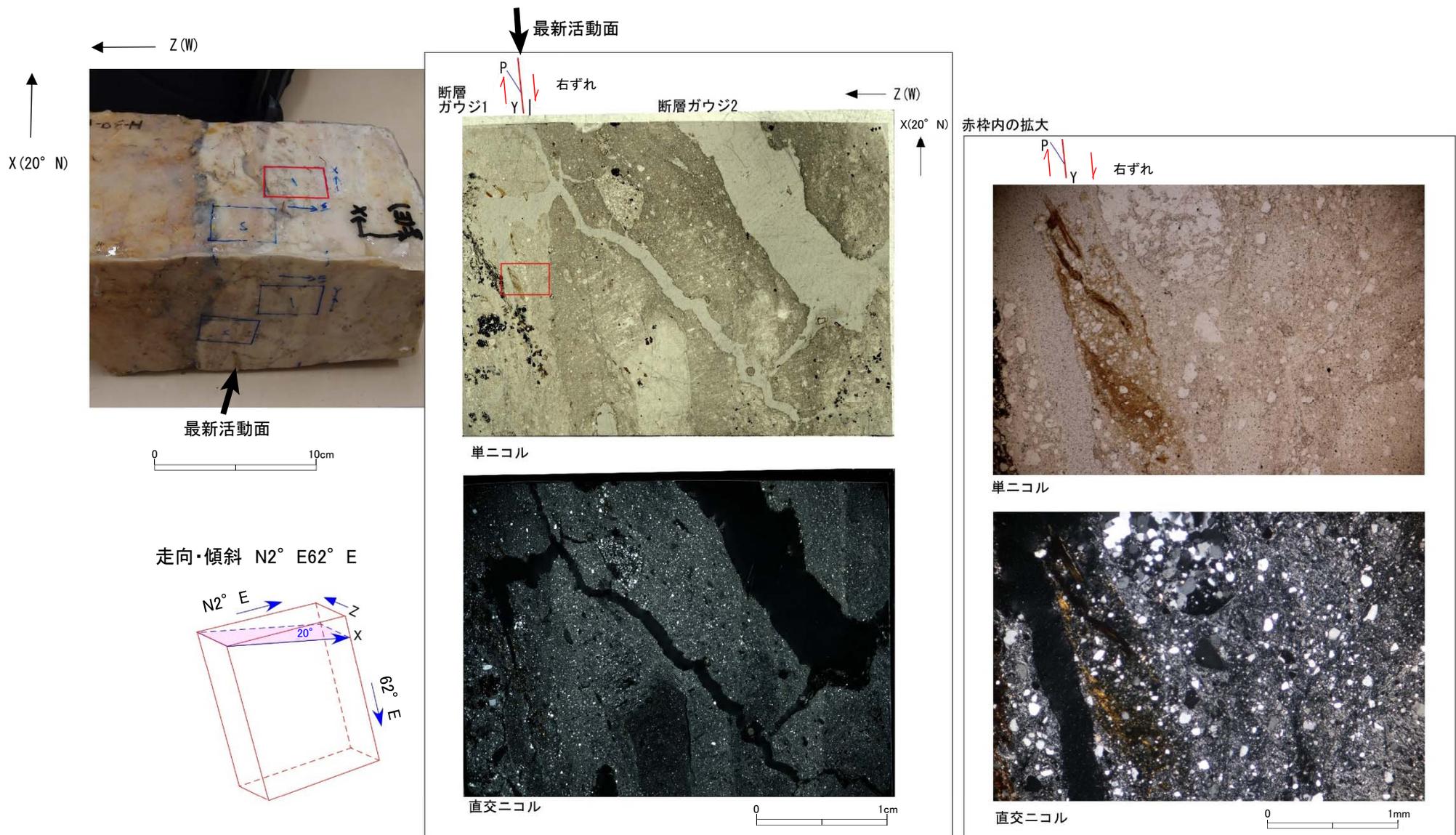
E ← → W



第7.4.4.145図 H-3 a 破碎帯 X線回折分析結果 (H-3 a 既往露頭)

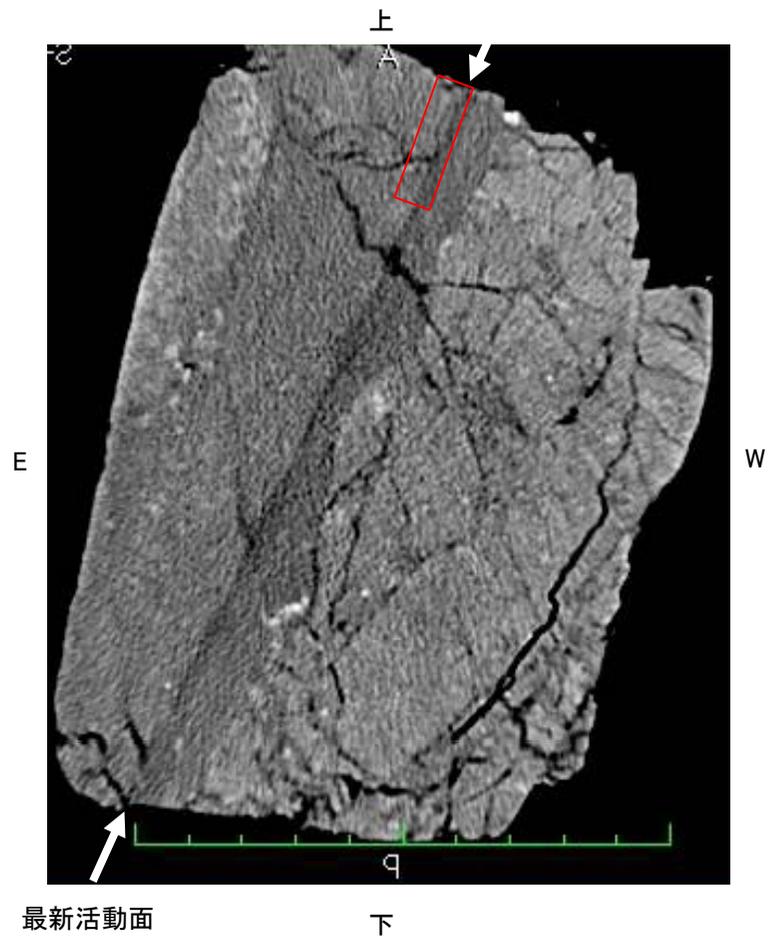


第7.4.4.146 図 H-3 a 破砕帯 条線観察結果 (H-3 a 既往露頭)

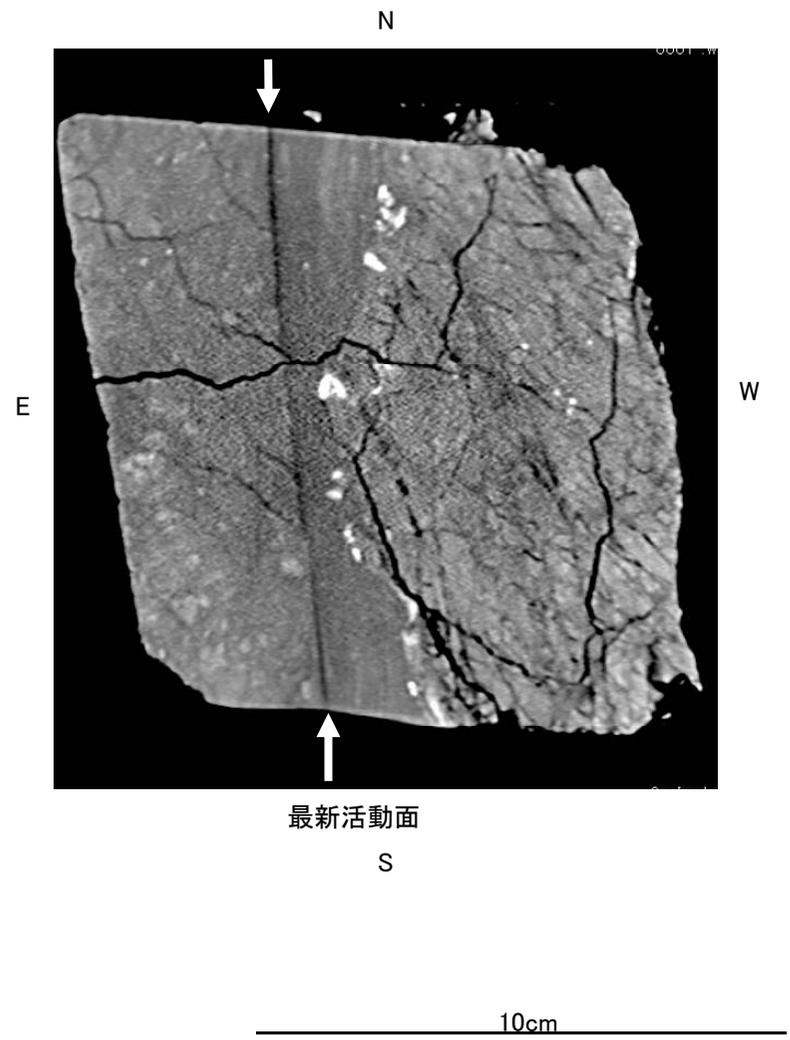


- ・断層ガウジ1(最新活動面)
 褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~1mmの垂円~垂角礫状の石英, 長石, カタクレーサイトのフラグメントからなる。
 基質には粘土鉱物が多い。P面から右ずれのセンスが判読される。フラグメントは円磨されている
- ・断層ガウジ2
 褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~7mmの垂円~垂角礫状の石英, 長石, カタクレーサイトのフラグメントからなる。
 基質には粘土鉱物が多い。P面から右ずれのセンスが判読される。フラグメントは円磨されている。

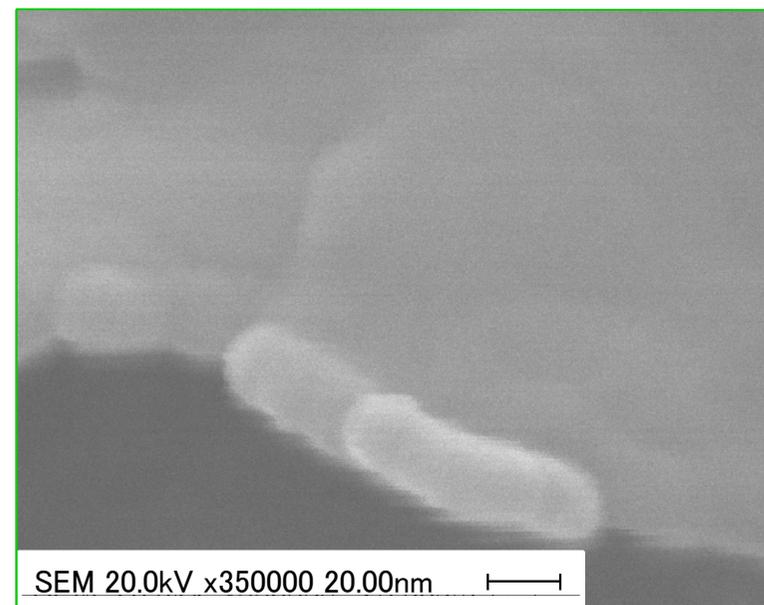
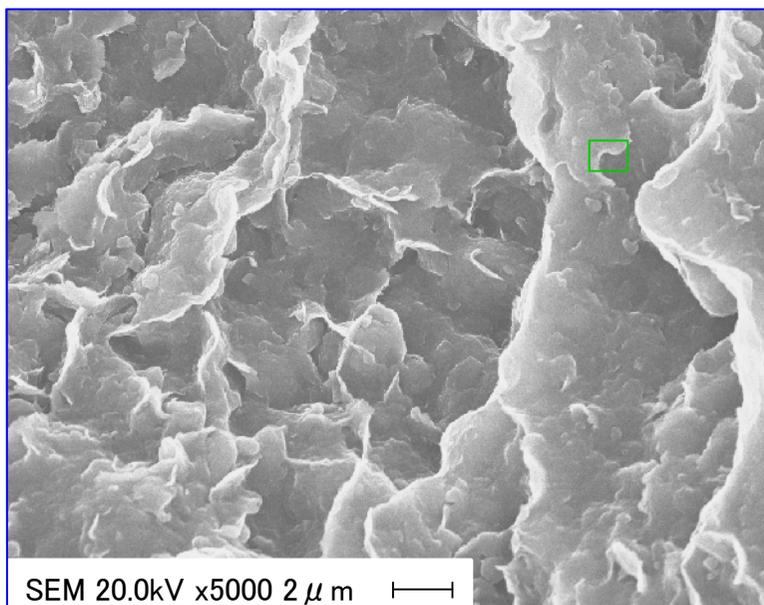
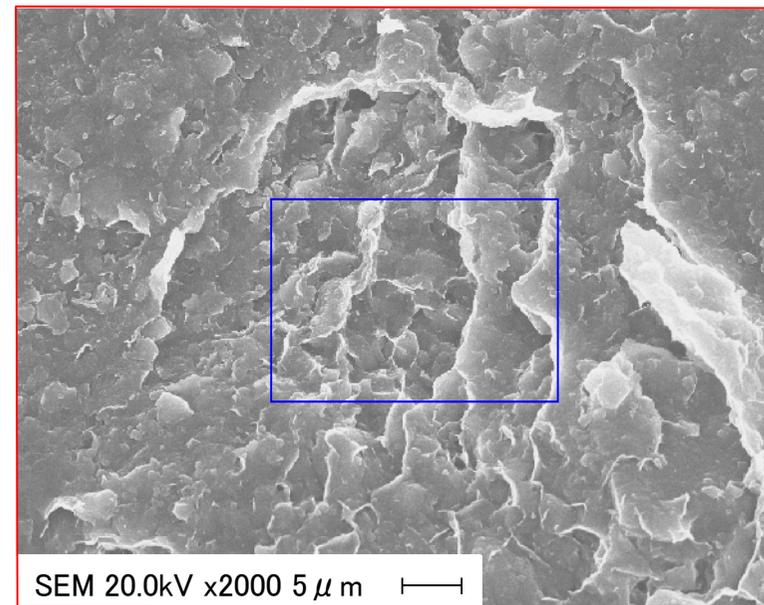
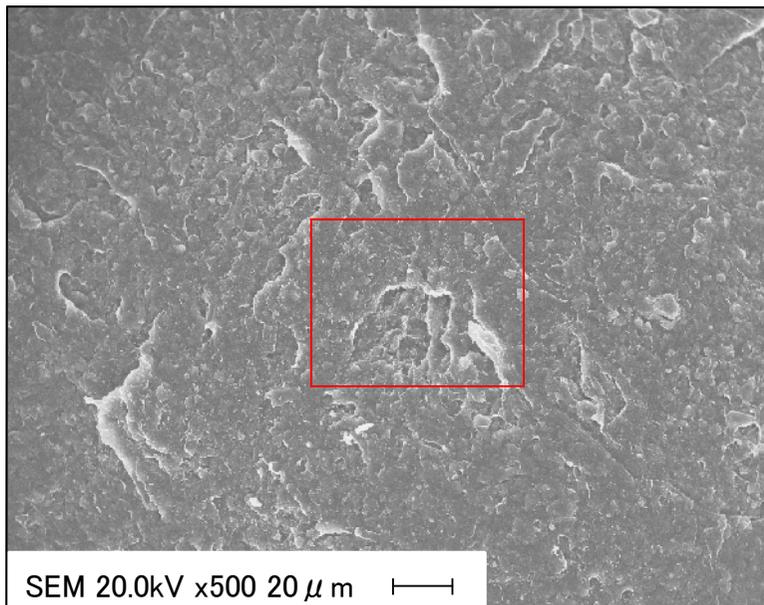
第7.4.4.147図 H-3 a 破砕帯 薄片試料観察結果 (H-3 a 既往露頭)



□ 電子顕微鏡観察位置

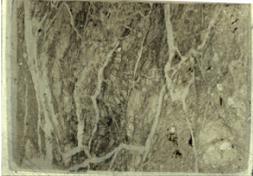
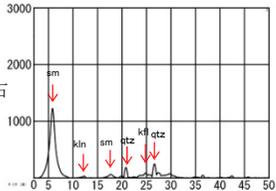
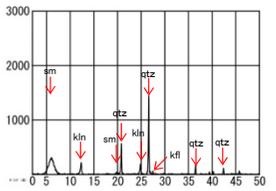


第7.4.4.148図 (1) H-3 a 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (H-3 a 既往露頭) (その1)

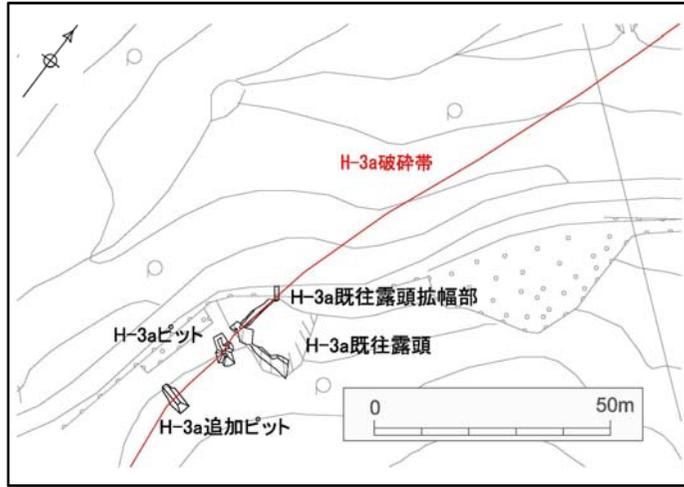


スメクタイト、イライトがカードハウス状を呈する。鉍物の二次成長が認められる。

第7.4.4.148図 (2) H-3 a 破砕帯 電子顕微鏡観察結果 (H-3 a 既往露頭) (その2)

性状	H-3a破砕帯			
	2号炉原子炉建屋南側道路	H-3a既往露頭	H-3a露頭拡幅部	H-3a追加ピット
走向・傾斜	NNE-SSW, 高角度西傾斜	N-S, 高角度東傾斜	N-S, 高角度東傾斜	NNE-SSW, 高角度東傾斜
破砕幅	約60cm	約300cm	約100cm	約250cm
断層ガウジの状況				
断層ガウジの色調	灰白色	灰白色, 淡橙色	灰白色, 淡橙色	灰白色, 明赤灰色
断層ガウジの状態	軟らかい	軟らかい	軟らかい	軟らかい
断層ガウジの構造	弱い縞状	弱い縞状	弱い縞状	弱い縞状
断層ガウジの微細構造	<ul style="list-style-type: none"> 構成粒子の円形度: 0.3~0.4程度(亜円礫状) 面構造が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 構成粒子の円形度: 0.4程度(亜円礫状) 面構造が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 構成粒子の円形度: 0.4程度(亜円礫状) 面構造が弱い 	-
変位センス	右ずれ	右ずれ	右ずれ	-
X線回折分析	<ul style="list-style-type: none"> ・スメクタイト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スメクタイト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	-	-

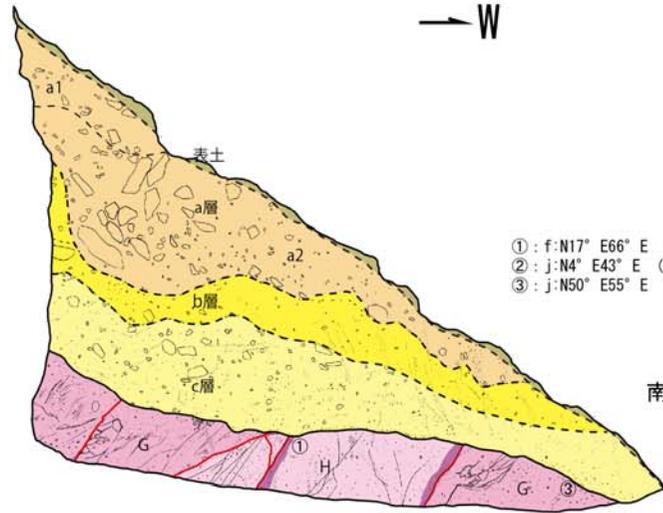
第7.4.4.149図 H-3a破砕帯 性状整理表



調査位置図

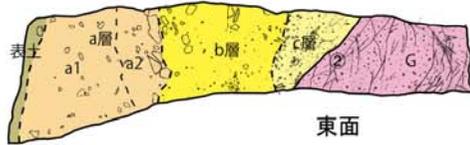
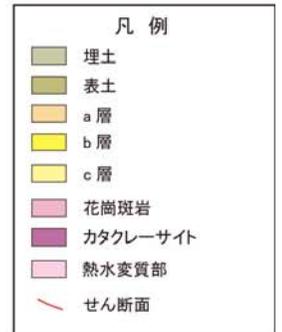
E ←

→ W

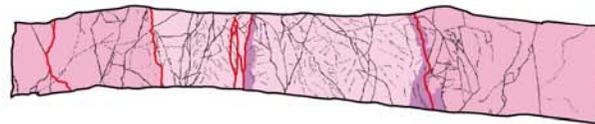


- ① : f: N17° E66° E (明赤灰～灰白(5YR7/1～5YR8/1):幅15～20mm)
- ② : j: N4° E43° E (灰白(10YR8/2):幅2mm)
- ③ : j: N50° E55° E (黄橙～浅黄橙(10YR8/8～8/6):幅1～2mm)

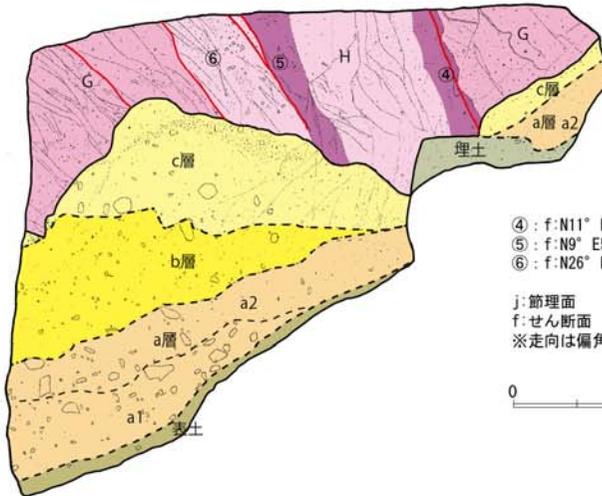
南面



東面



底盤



- ④ : f: N11° E70° E (明赤灰～灰白(5YR7/1～5YR8/1):幅15～50mm)
- ⑤ : f: N9° E57° E (明赤灰～灰白(5YR7/1～2/8):幅7～20mm)
- ⑥ : f: N26° E43° E (黄橙(7.5YR7/8):幅3～5mm)

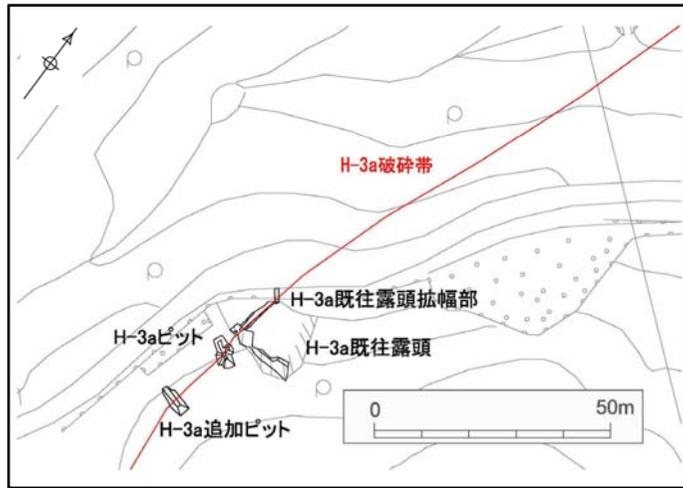
j: 節理面
f: せん断面
※走向は偏角未補正である。



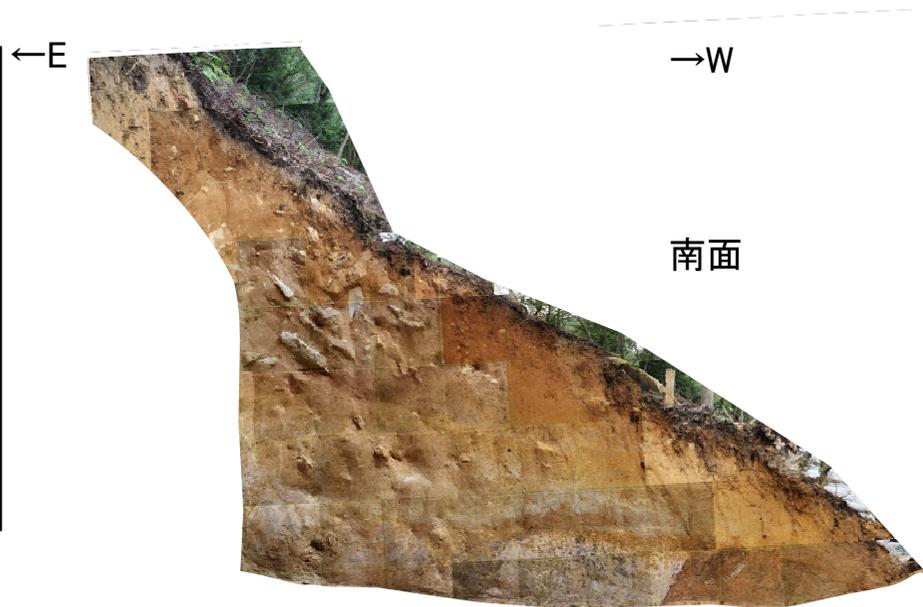
北面

埋土:黄褐～にぶい黄褐(10YR5/8～5/4)。下位層のものを不規則に含む。
a層:シルト質砂礫層。明赤褐～明褐(5YR5/8～7.5YR5/8)。礫は径5～30cmの垂円礫～
亜角礫を主体とする。a1は、基質の締りが悪い。a2は、基質の締りがよい。
b層:礫混じり砂層。明黄褐～黄褐(10YR6/8～5/8)。礫は半クサリ礫を含む。
c層:礫質砂層。浅黄橙～浅黄(10YR8/4～2.5YR8/4)。部分的に有色鉱物に富んだ礫が混じる。
下部は斑状の模様を呈する。
G:花崗斑岩。灰白～浅黄橙(10YR8/2～8/3)。全体に東傾斜の割れ目が発達。
H:熱水変質部。灰白色(10YR8/2)。全体に軟質である。

第7.4.4.150図(1) H-3a 破砕帯 ビット調査(H-3a 追加ビット) (その1)



調査位置図



南面



東南面

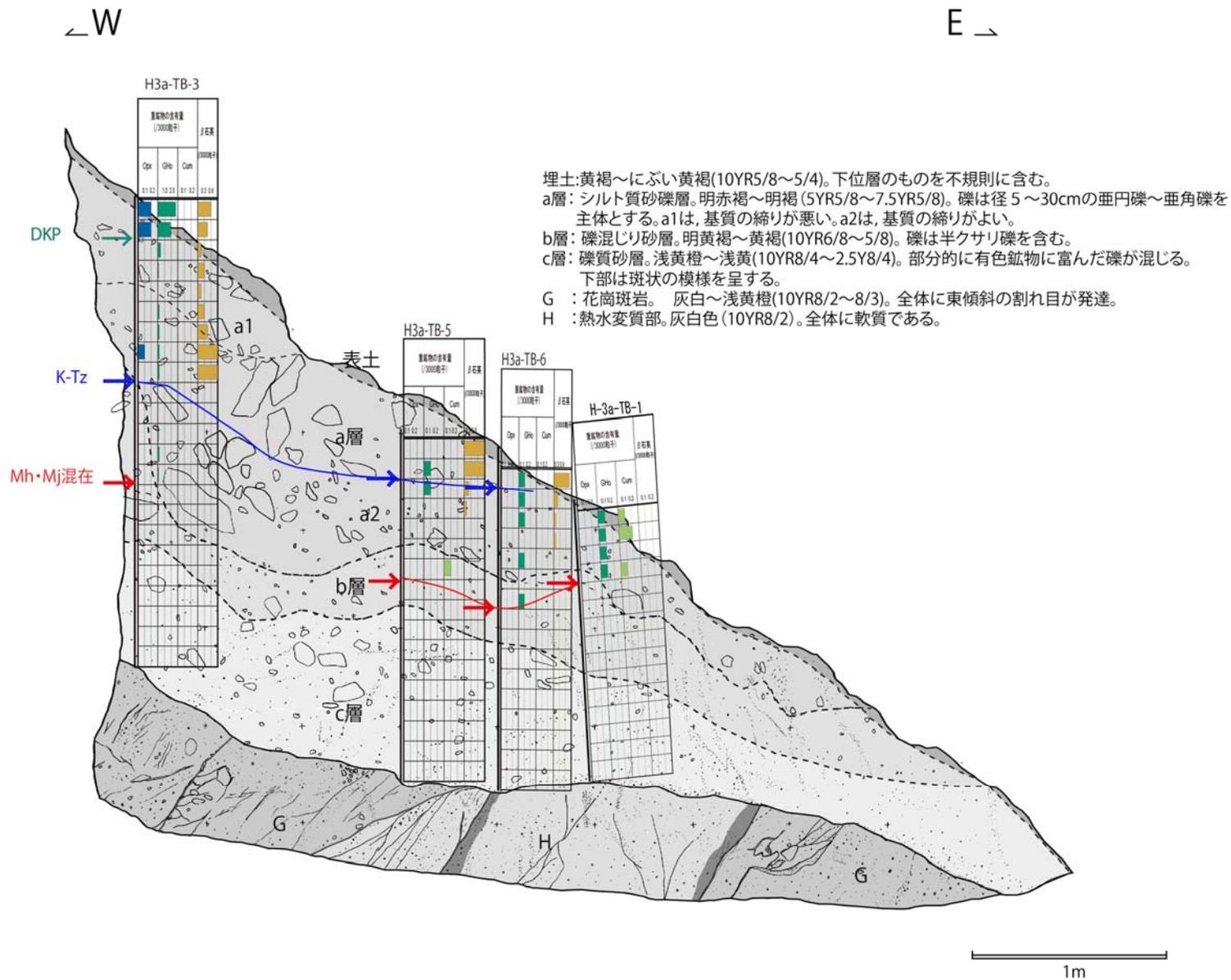


底盤



北面

第7.4.4.150図(2) H-3a 破碎帯 ピット調査 (H-3a 追加ピット) (その2)



第7.4.4.151図(1) H-3 a 破碎帯 テフラ分析結果(H-3 a 追加ピット) (その1)

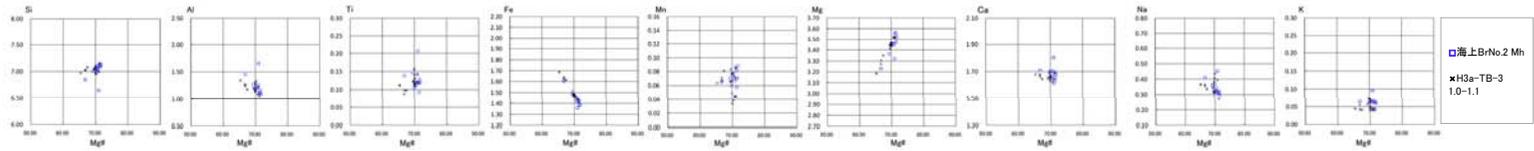
普通角閃石

(試料番号)

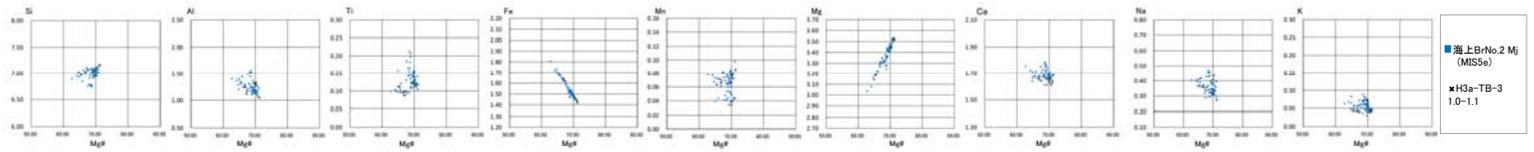
H3a-TB-3

試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β石英 (/3000粒子)
	Opx 1.02	GHo 1.0 2.0	Cum 0.1 0.2	
2.2-2.3				
2.1-2.2				
2.0-2.1				
1.9-2.0				
1.8-1.9				
1.7-1.8				
1.6-1.7				
1.5-1.6				
1.4-1.5				
1.3-1.4				
1.2-1.3				
1.1-1.2				
1.0-1.1				
0.9-1.0				
0.8-0.9				
0.7-0.8				
0.6-0.7				
0.5-0.6				
0.4-0.5				
0.3-0.4				
0.2-0.3				
0.1-0.2				
0.0-0.1				

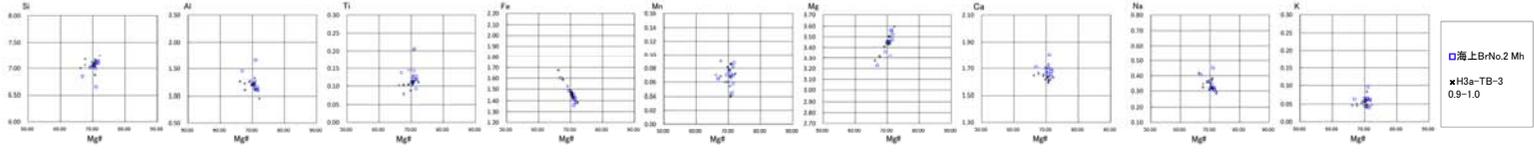
1.0-1.1m



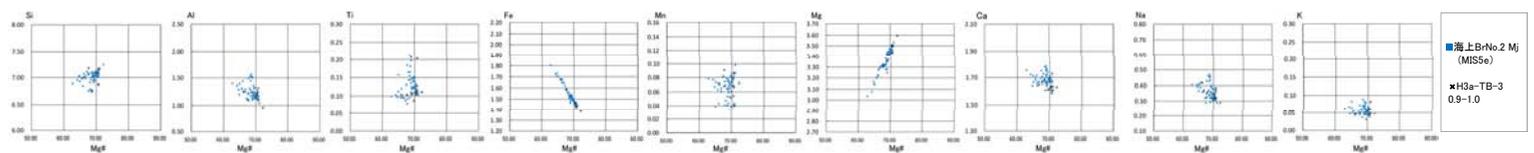
1.0-1.1m



0.9-1.0m



0.9-1.0m



● :主成分分析実施箇所

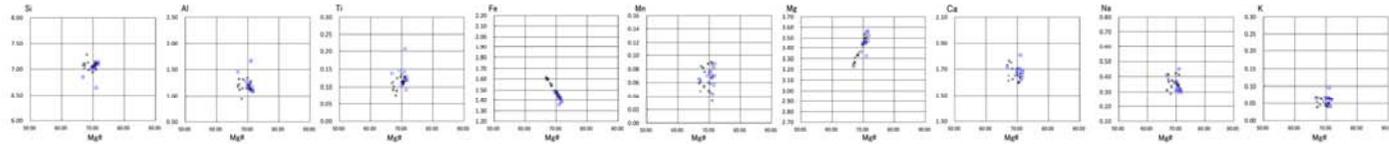
普通角閃石

H3a-TB-5

試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)						β石英 (/3000粒子)	
	Opx		GHo		Cum			
	0.1	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.3	0.6
1.6-1.7								
1.5-1.6								
1.4-1.5								
1.3-1.4								
1.2-1.3								
1.1-1.2								
1.0-1.1								
0.9-1.0								
0.8-0.9								
0.7-0.8								
0.6-0.7								
0.5-0.6								
0.4-0.5								
0.3-0.4								
0.2-0.3								
0.1-0.2								
0.0-0.1								

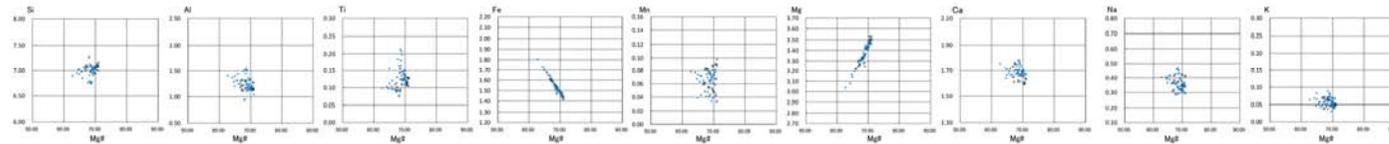
(試料番号)

1.1-1.2m



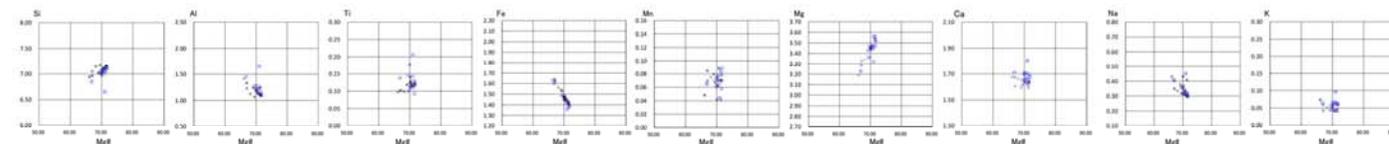
海上BrNo.2 Mh
H3a-TB-5
1.1-1.2

1.1-1.2m



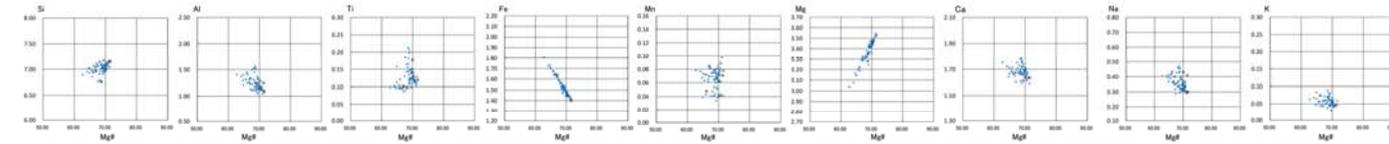
海上BrNo.2 Mj
(MIS5e)
H3a-TB-5
1.1-1.2

1.0-1.1m



海上BrNo.2 Mh
H3a-TB-5
1.0-1.1

1.0-1.1m



海上BrNo.2 Mj
(MIS5e)
H3a-TB-5
1.0-1.1

● :主成分分析実施箇所

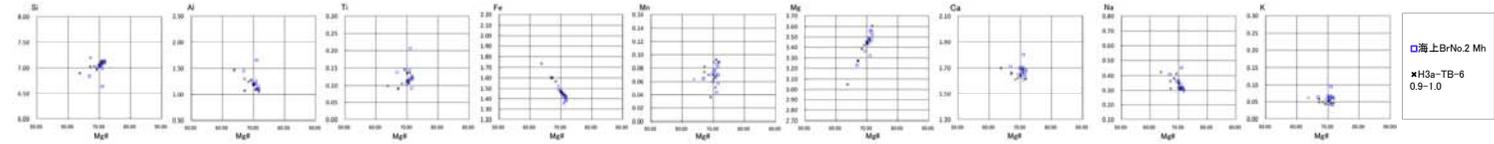
普通角閃石

H3a-TB-6

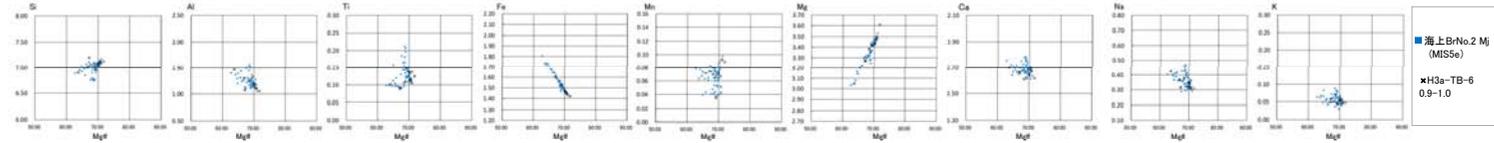
試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子)
	Opx 0.1 0.2	GHo 0.1 0.2	Cum 0.1 0.2	
1.5-1.6				
1.4-1.5				
1.3-1.4				
1.2-1.3				
1.1-1.2				
1.0-1.1				
● 0.9-1.0				
0.8-0.9				
0.7-0.8				
0.6-0.7				
0.5-0.6				
0.4-0.5				
0.3-0.4				
0.2-0.3				
0.1-0.2				
0.0-0.1				

(試料番号)

0.9-1.0m



0.9-1.0m



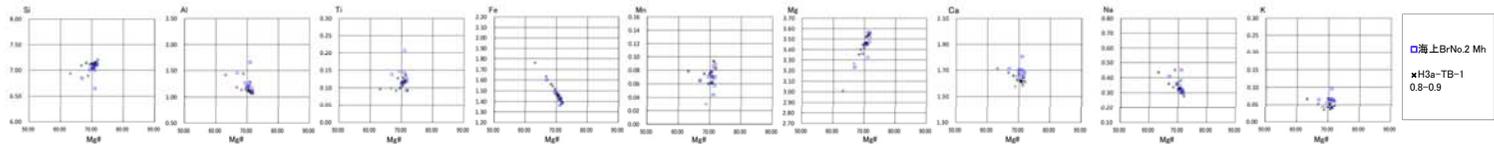
普通角閃石

H3a-TB-1

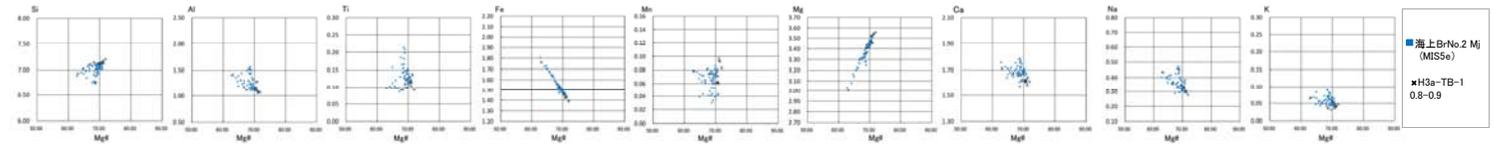
試料番号	重鉱物の含有量 (/3000粒子)			β 石英 (/3000粒子)
	Opx 0.1 0.2	GHo 0.1 0.2	Cum 0.1 0.2	
1.10-1.20				
1.00-1.10				
0.90-1.00				
● 0.80-0.90				
0.70-0.80				
0.60-0.70				
0.50-0.60				
0.40-0.50				
0.30-0.40				
0.25-0.30				
0.20-0.25				
0.15-0.20				
0.10-0.15				
0.05-0.10				
0.00-0.05				

(試料番号)

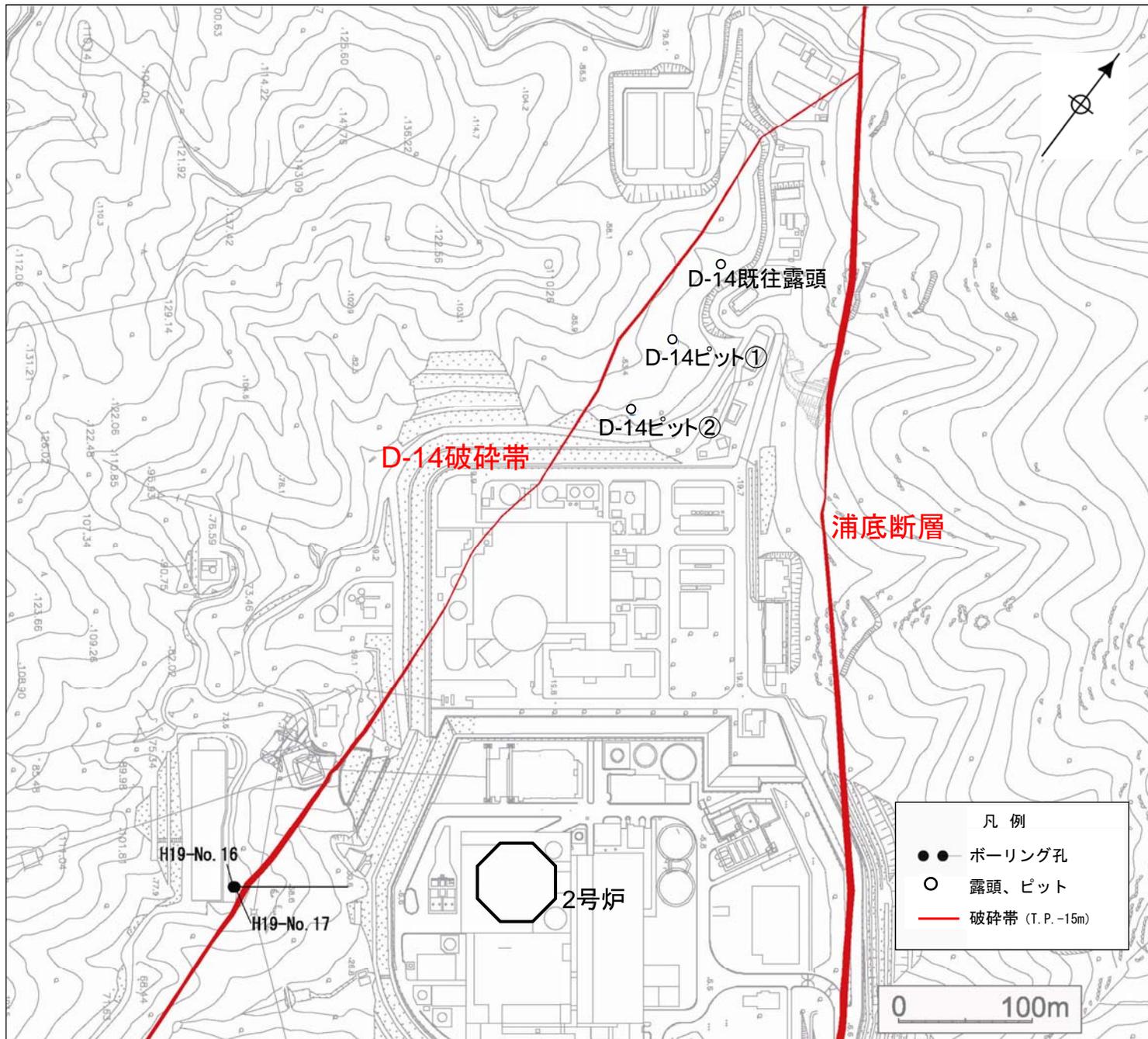
0.8-0.9m



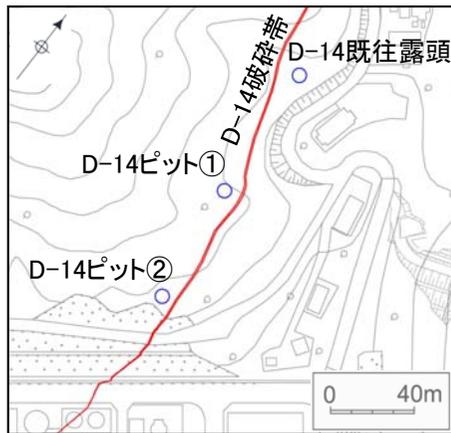
0.8-0.9m



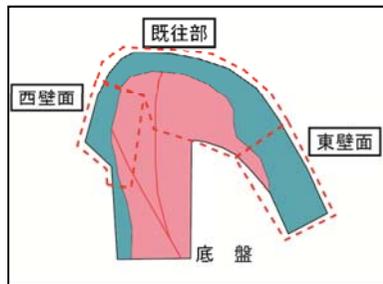
● :主成分分析実施箇所



第7.4.4.152図 D-14 破碎帯 調査位置図
6-7-4-990

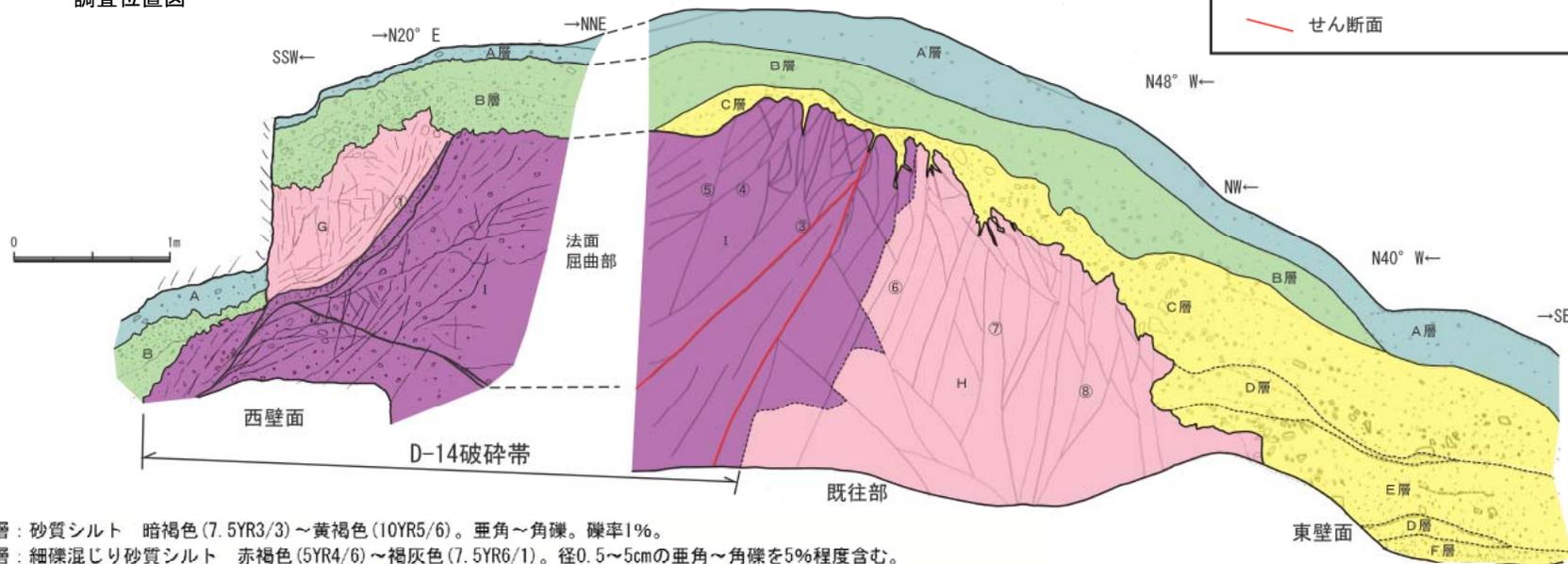


調査位置図



露頭見取図

露頭面の方向
→N80° E

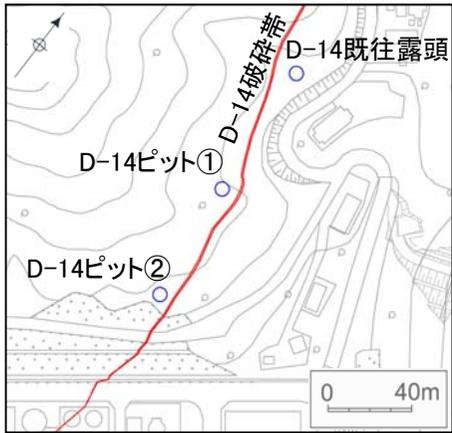


- A層: 砂質シルト 暗褐色 (7.5YR3/3) ~ 黄褐色 (10YR5/6)。垂角~角礫。礫率1%。
- B層: 細礫混じり砂質シルト 赤褐色 (5YR4/6) ~ 褐灰色 (7.5YR6/1)。径0.5~5cmの垂角~角礫を5%程度含む。
- C層: 砂質シルト~細礫混じり砂質シルト 明褐色 (7.5YR5/6) ~ 赤褐色 (5YR4/6)。径0.5~5cmの垂角~角礫を5~20%程度含む。
露頭上部が砂質シルトで、東壁面へ礫率が高くなる。
- D層: 細礫混じりシルト 灰白色 (5Y7/2)。径1cm以下の角礫を20~30%含む。
- E層: 細礫混じり砂質シルト にぶい黄褐色 (10YR7/4)。径0.5~10cmの角礫を30~40%含む。
- F層: 細礫混じり砂 明黄褐色 (2.5Y7/6)。径0.5cm程度の鉱物片(主に石英)を5~10%含む。ほぼ水平な流理を示す。
- G: 花崗斑岩(風化部) 割れ目に沿って岩片状に崩れる。
- H: 花崗斑岩
- I: 花崗斑岩質カタクレーサイト

- ① f: N5° W75° W
- ② f: N43° E52° N (褐灰色粘土: 幅1~2cm)
- ③ f: N16° E46° W (淡褐灰色粘土: 幅0.1~0.5cm)
- ④ j: NS 30° W
- ⑤ j: N14° E66° W
- ⑥ j: N52° E79° W
- ⑦ j: N29° E83° W f: せん断面
- ⑧ j: N47° E81° W j: 節理面

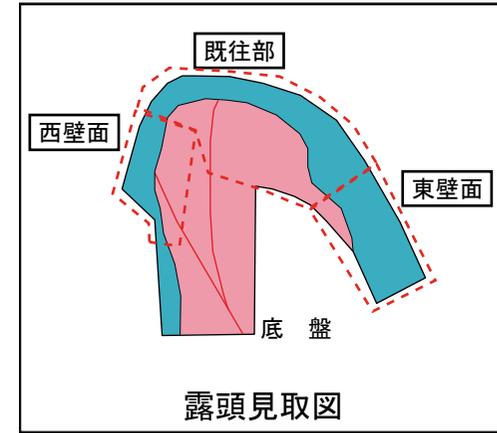
※走向は偏角未補正である。

第7.4.4.153図 (1) D-14破砕帯 露頭調査結果 (D-14 既往露頭) (その1)



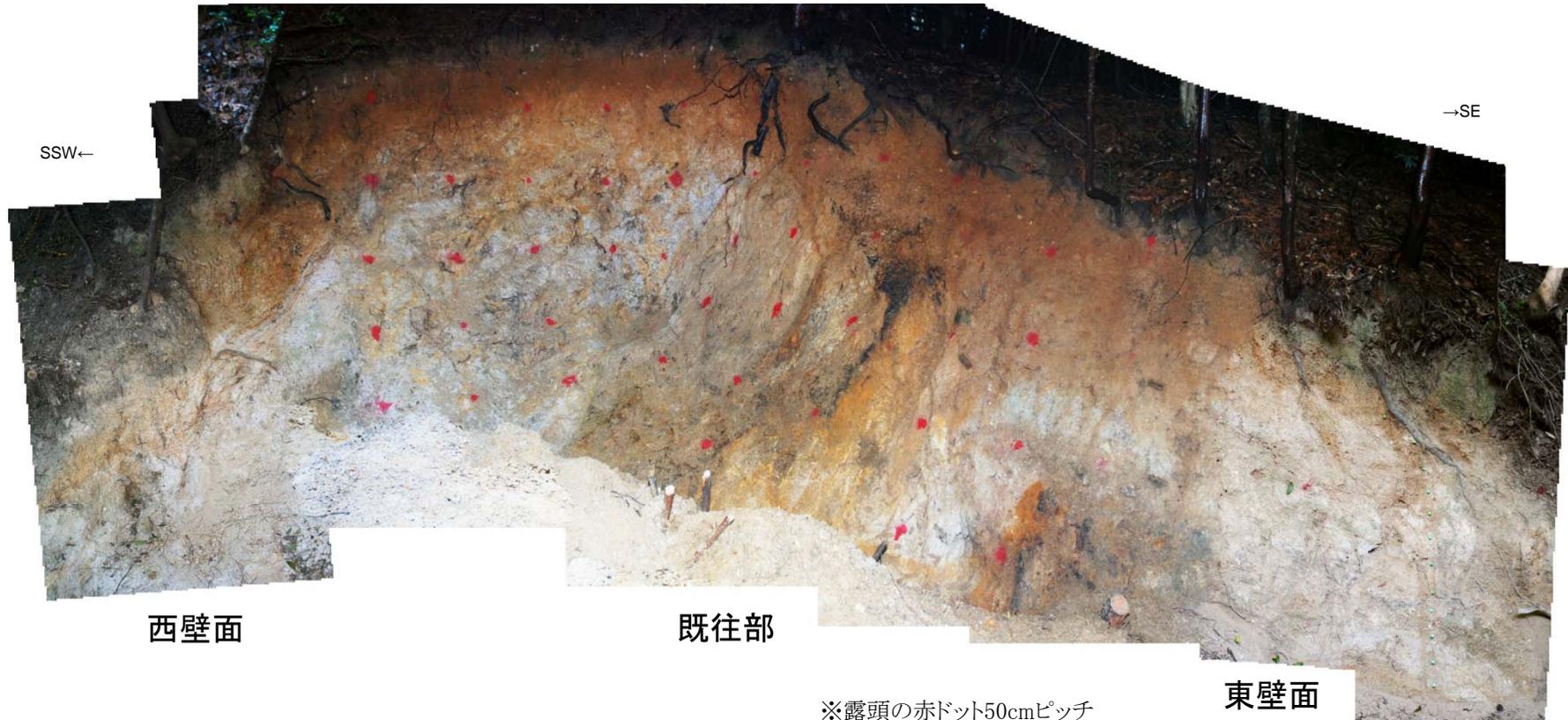
調査位置図

→NNE



露頭見取図

NW←



SSW←

→SE

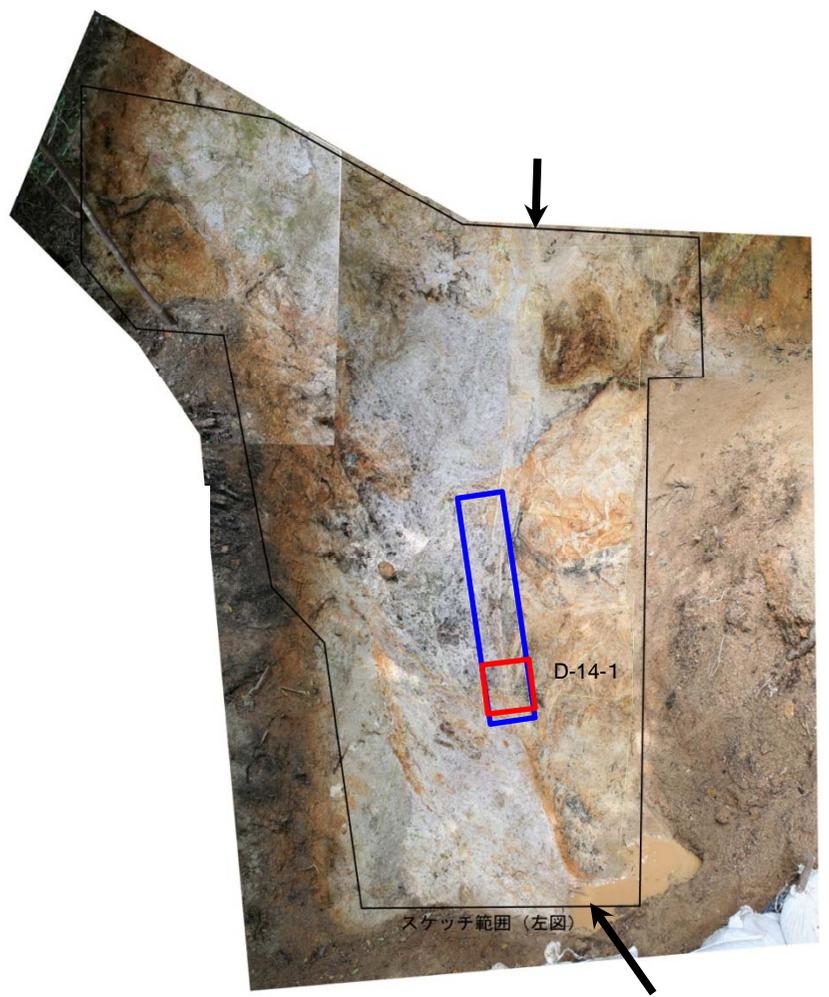
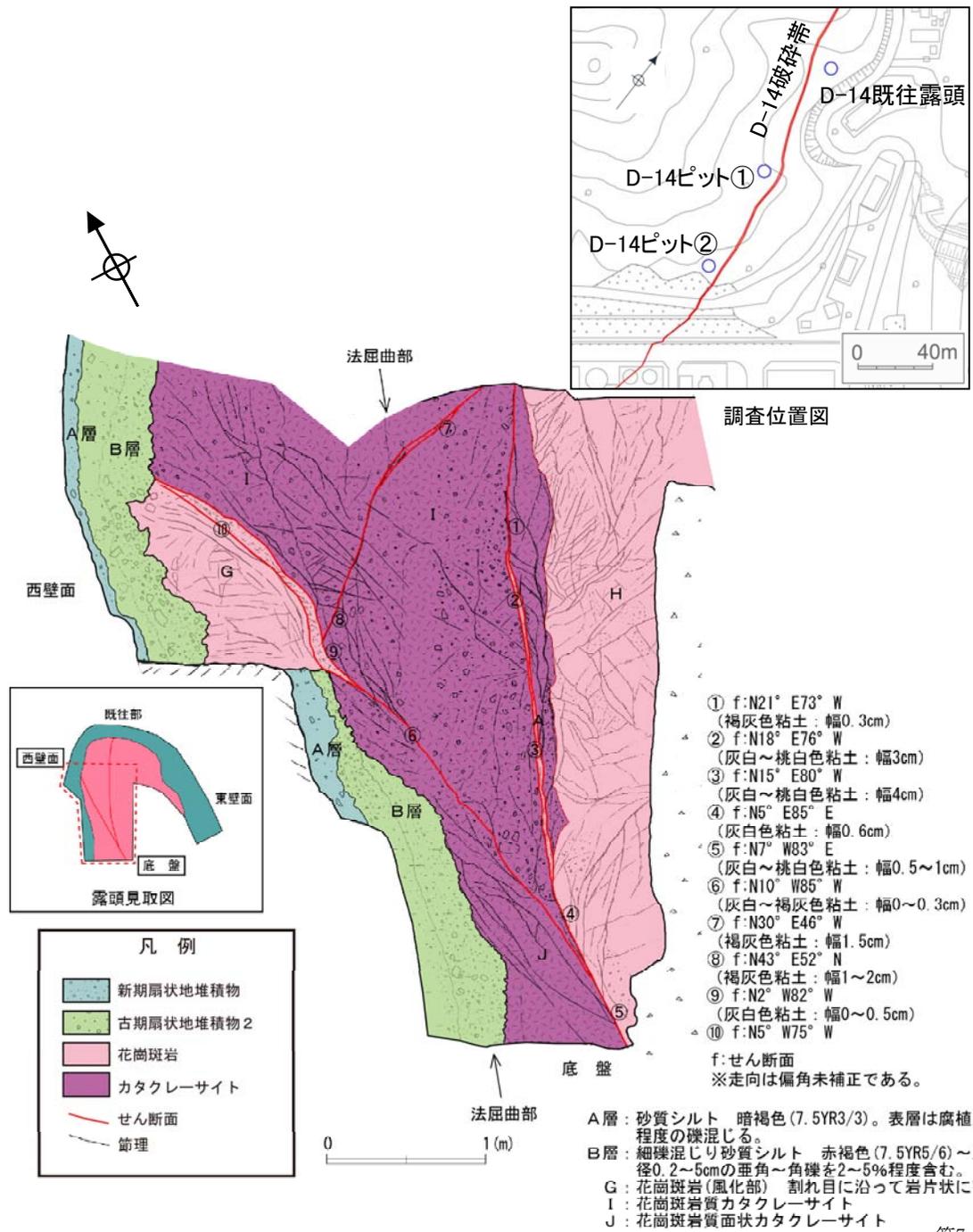
西壁面

既往部

東壁面

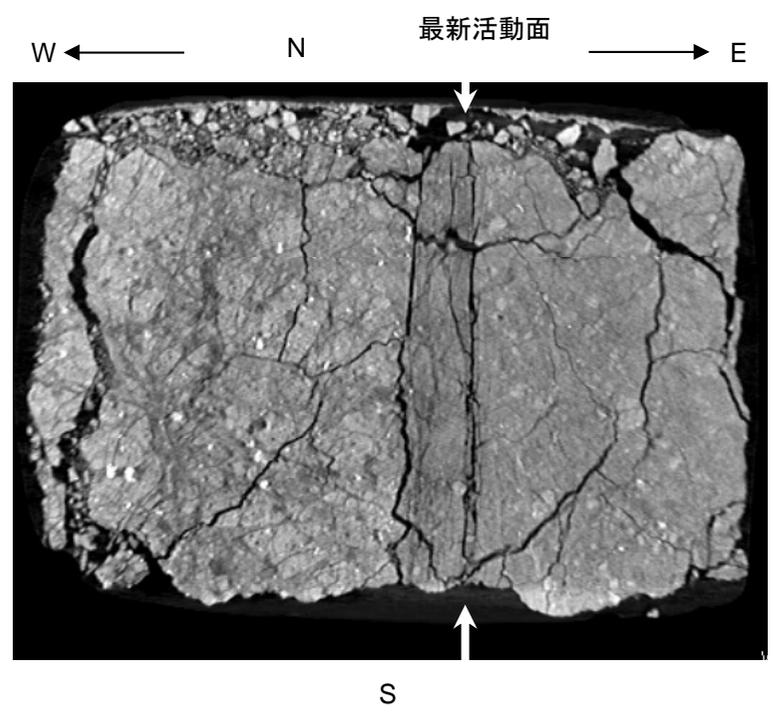
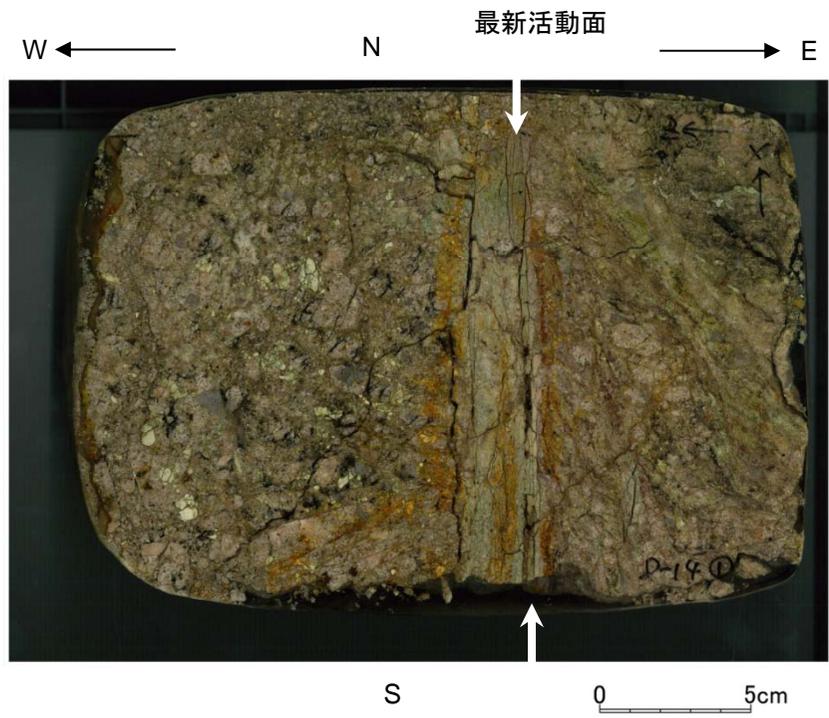
※露頭の赤ドット50cmピッチ

第7.4.4.153図(2) D-14破碎帯 露頭調査結果(D-14既往露頭)(その2)



条線観察位置
ブロックサンプリング位置

第7.4.4.153図(3) D-14破砕帯 露頭調査結果(D-14既往露頭)(その3)

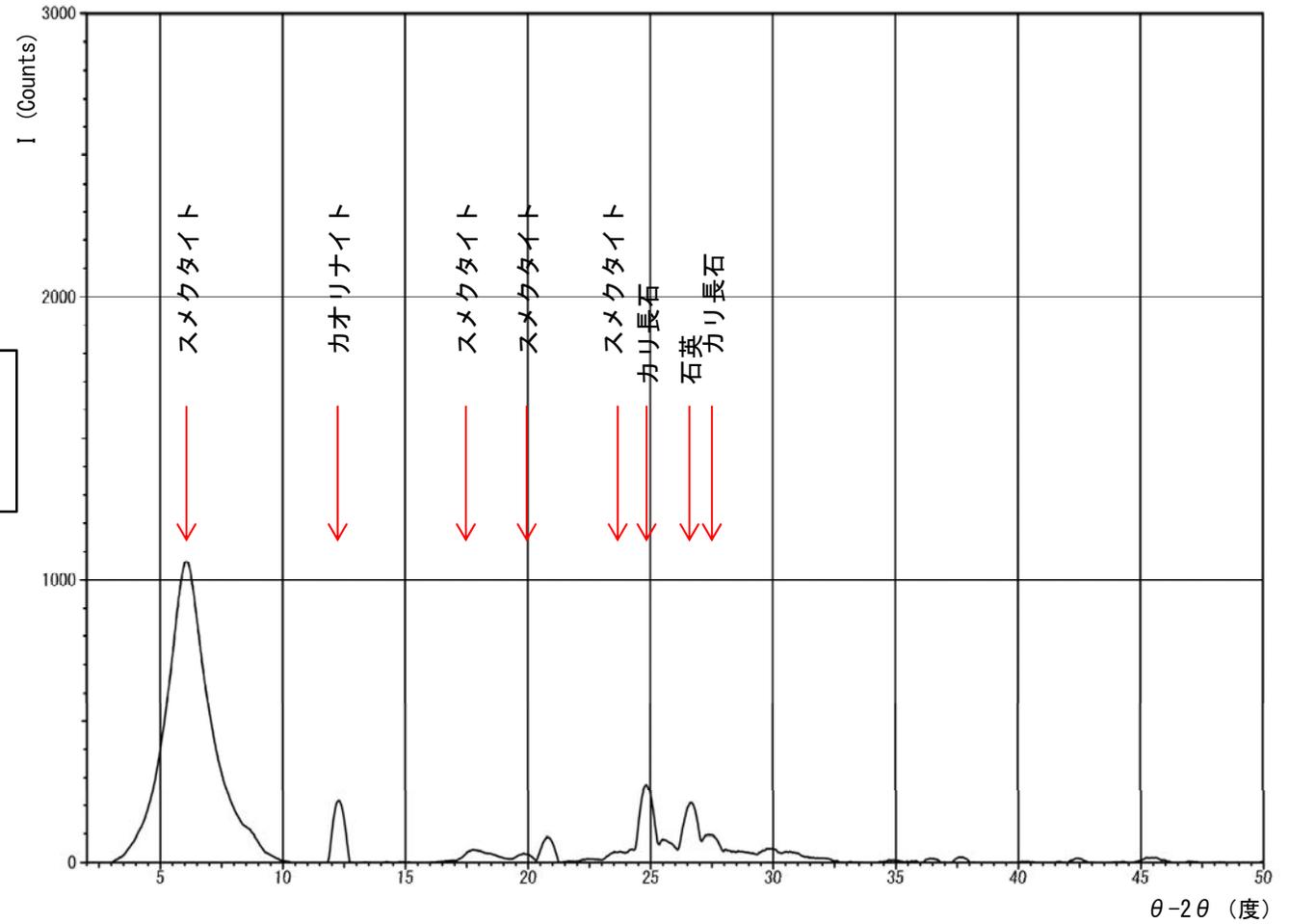


第7.4.4.154図 D-14破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (D-14既往露頭)

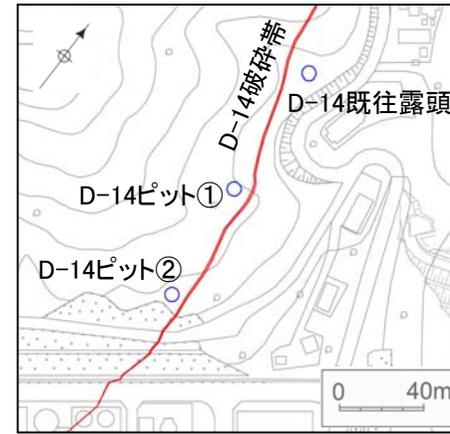
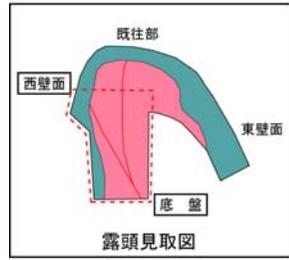
SSW← →NNE



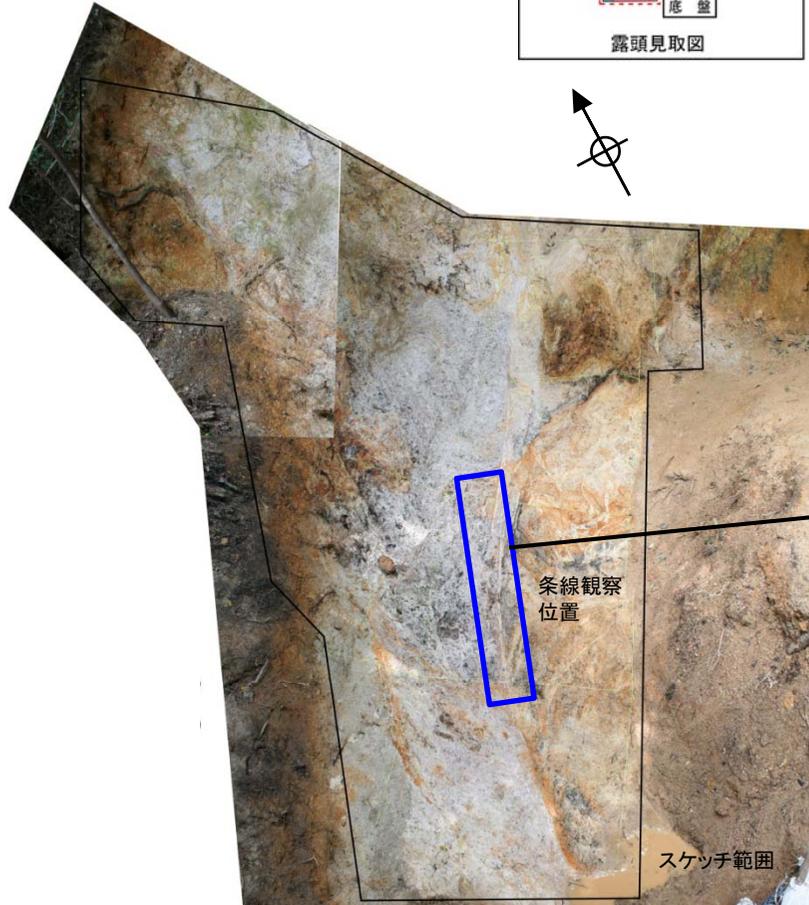
0 50cm



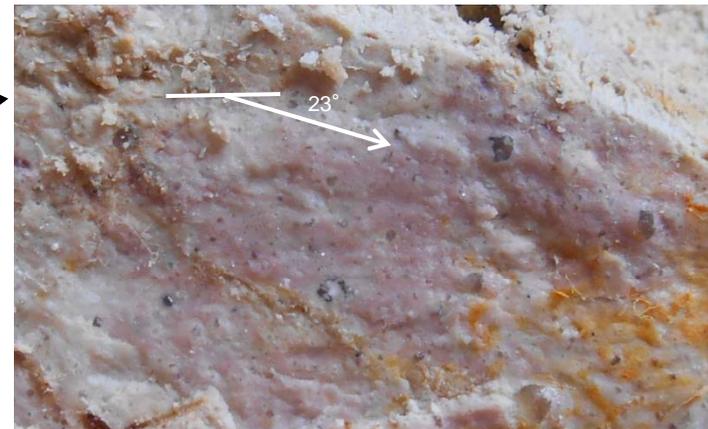
第7.4.4.155図 D-14 破碎帯 X線回折分析結果 (D-14 既往露頭)



調査位置図

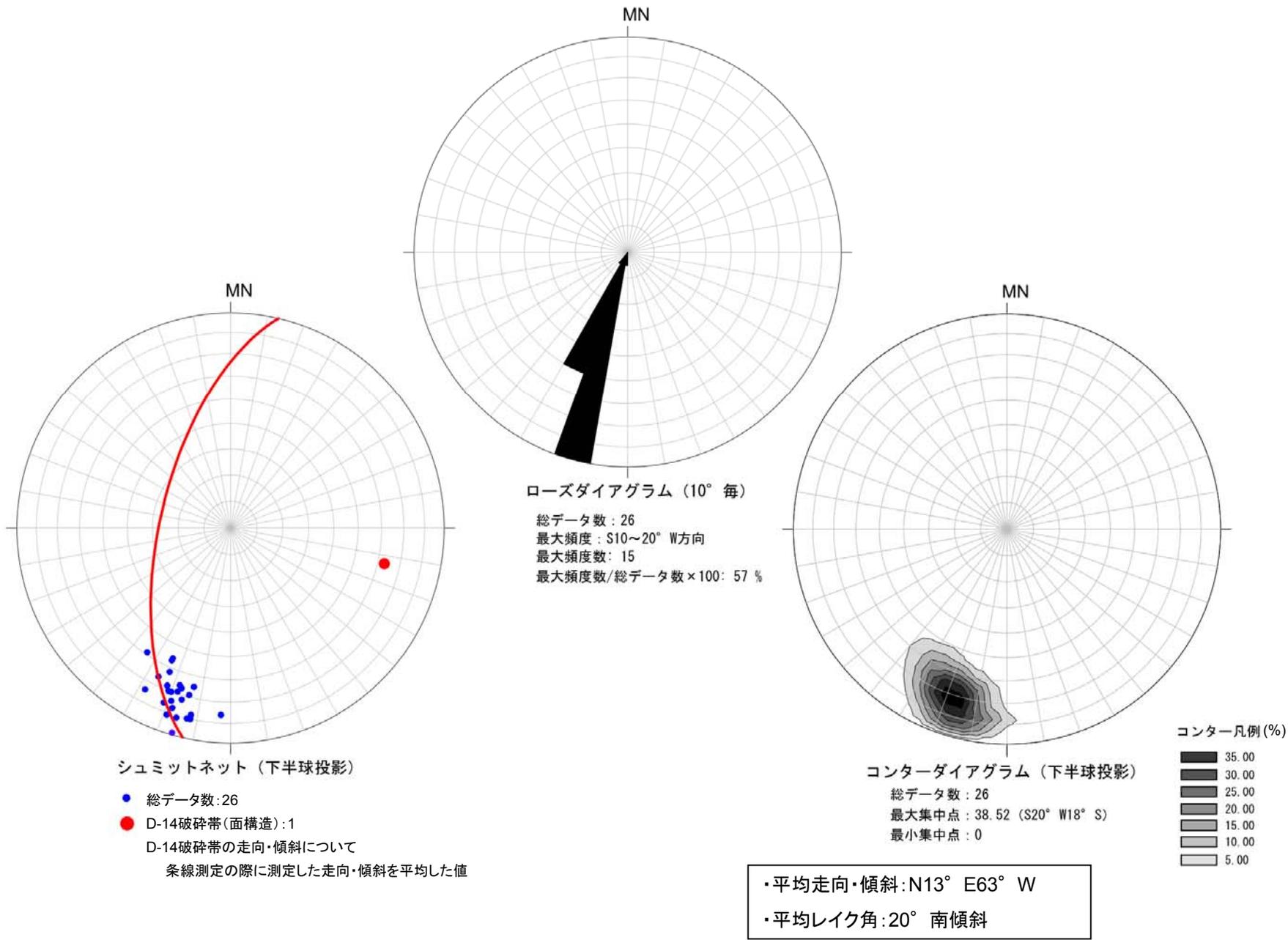


N ← → S

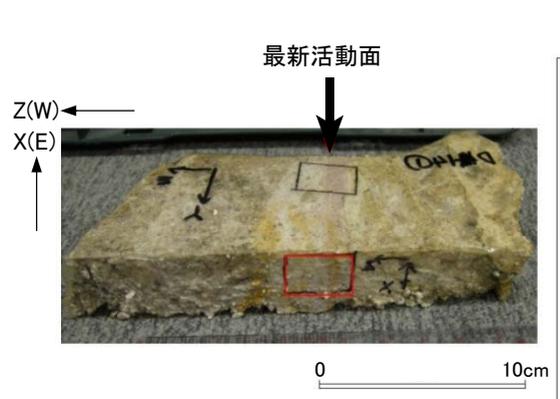


条線の例

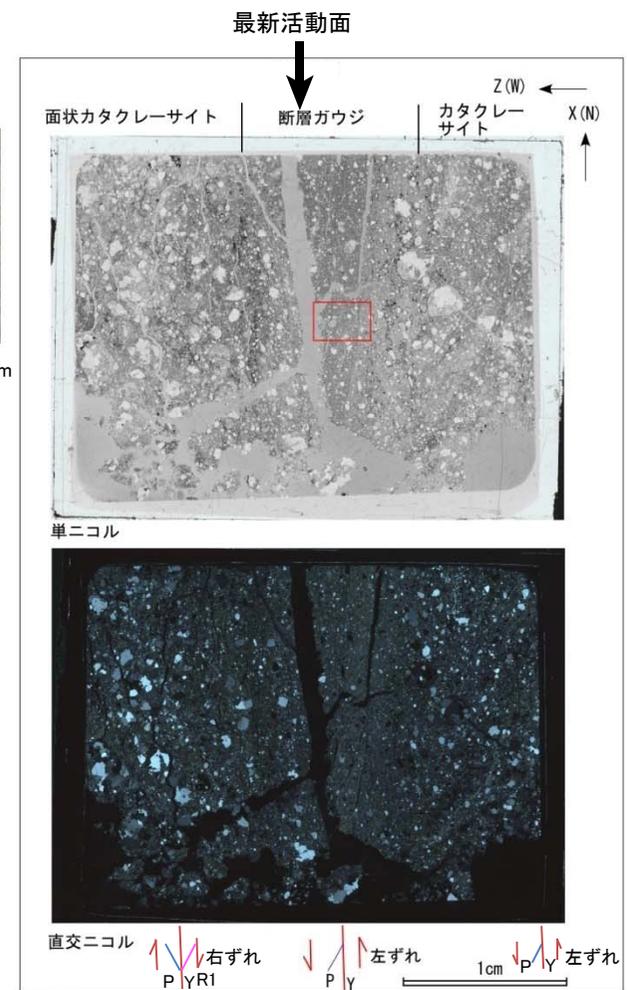
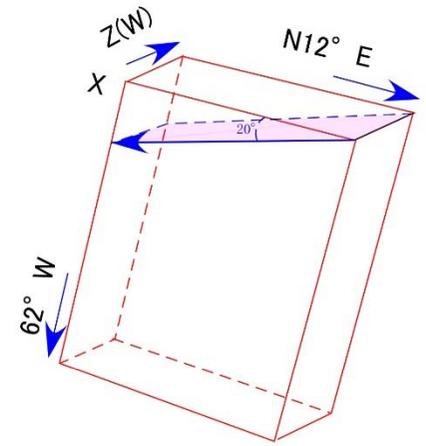
- ・ 走向・傾斜 : N12° E62° W
- ・ レイク角 : 23° 南傾斜



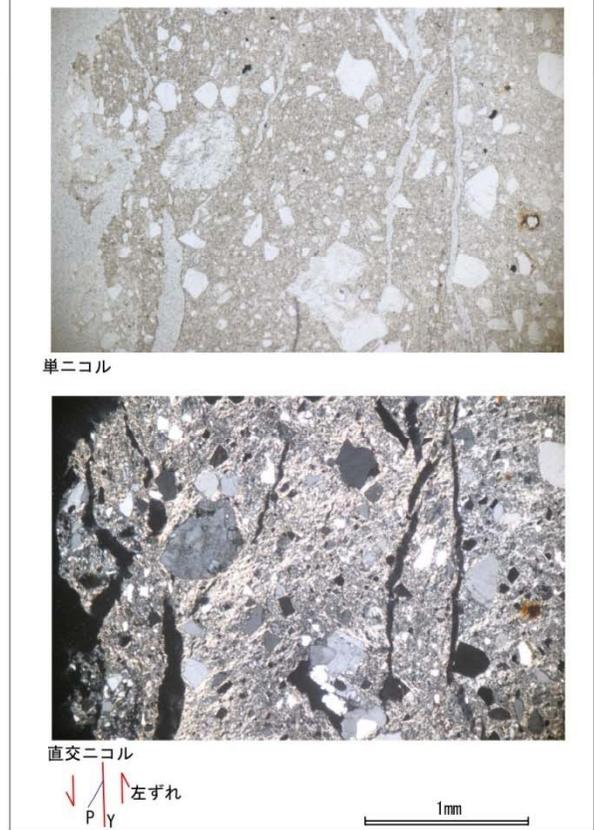
第7.4.4.156図 (2) D-14破砕帯 条線観察結果 (D-14既往露頭) (その2)



走向・傾斜 N12° E62° W

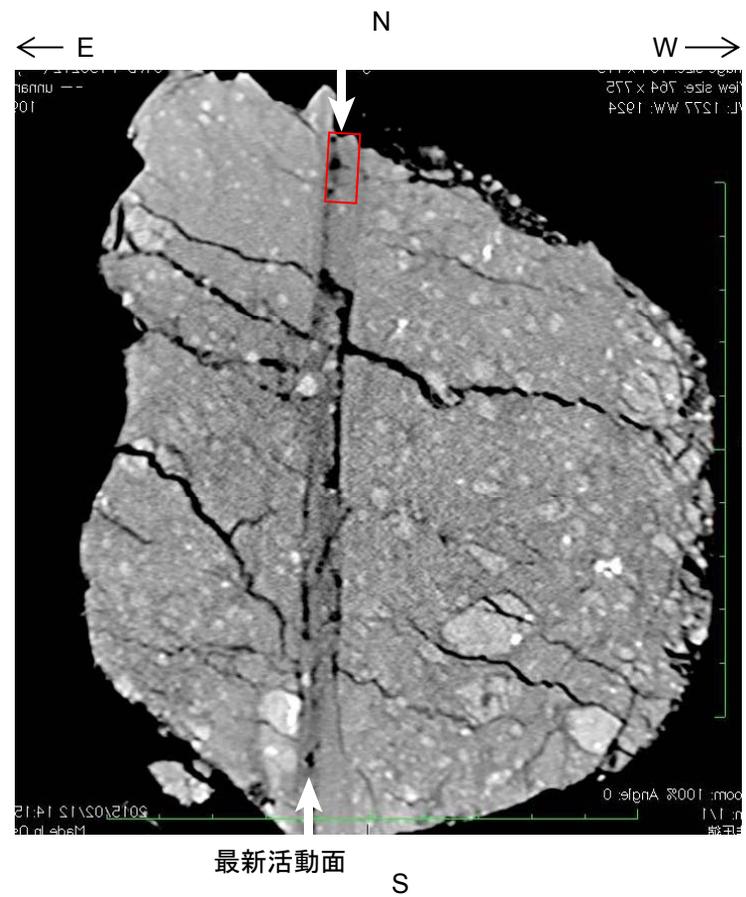
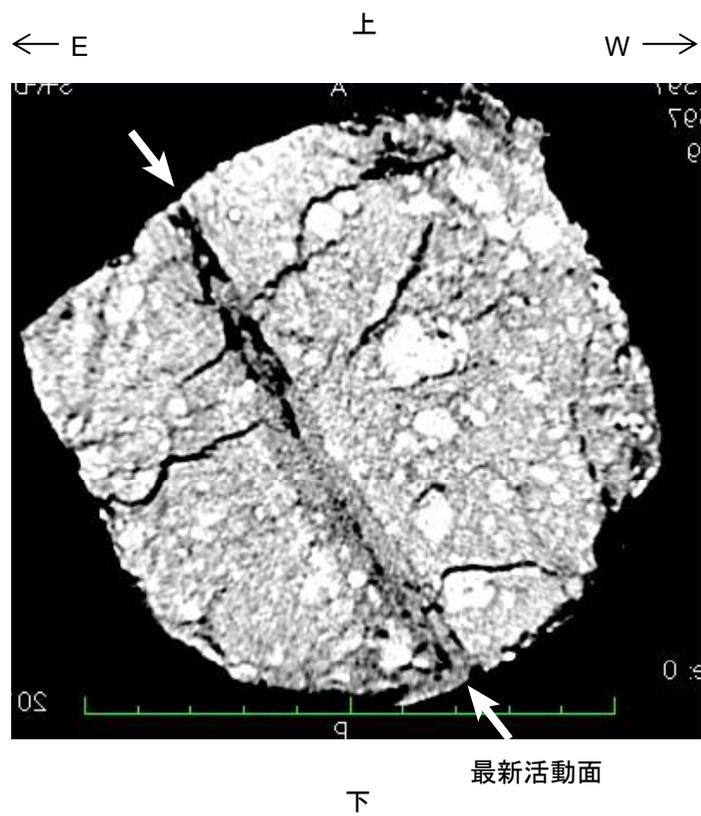


赤枠内の拡大



- ・面状カタクレーサイト
灰白色を呈する細粒の基質及び径0.1mm~2mmの垂角礫状の花崗斑岩岩片、石英、長石のフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が少ない。P面及びR1面から右ずれの変位センスが判読される。
- ・断層ガウジ (最新活動面)
褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm~1mの垂角礫状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が多い。P面から左ずれの変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト
灰白色~褐灰色を呈する細粒の基質及び径0.1mm~2mmの垂角礫状の花崗斑岩岩片、石英、長石のフラグメントからなる。基質には粘土鉱物が少ない。P面から左ずれの変位センスが判読される。

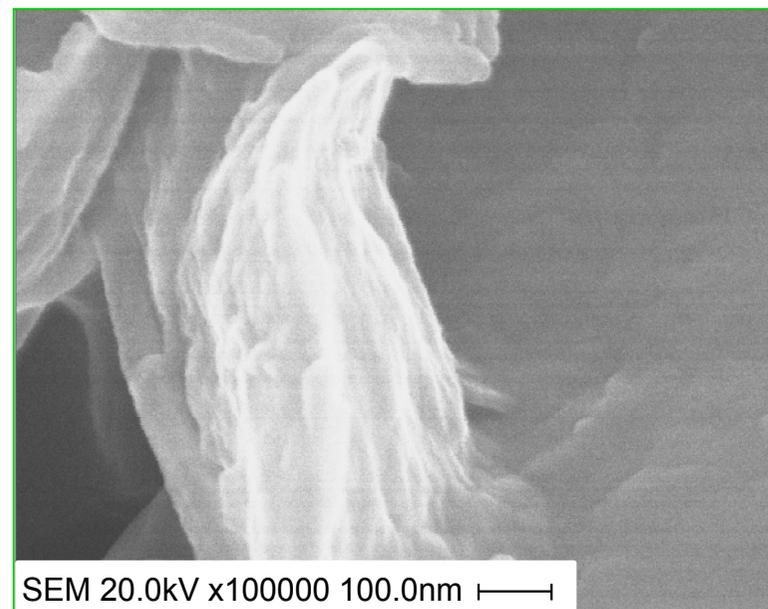
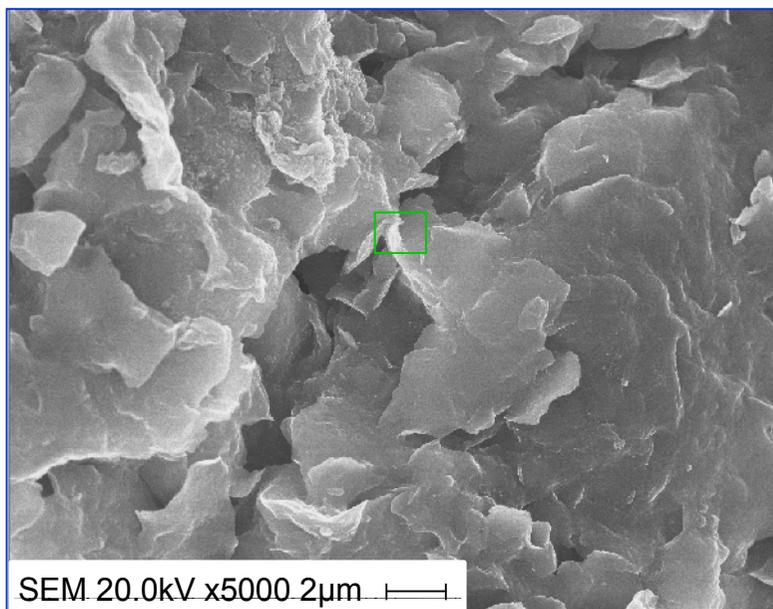
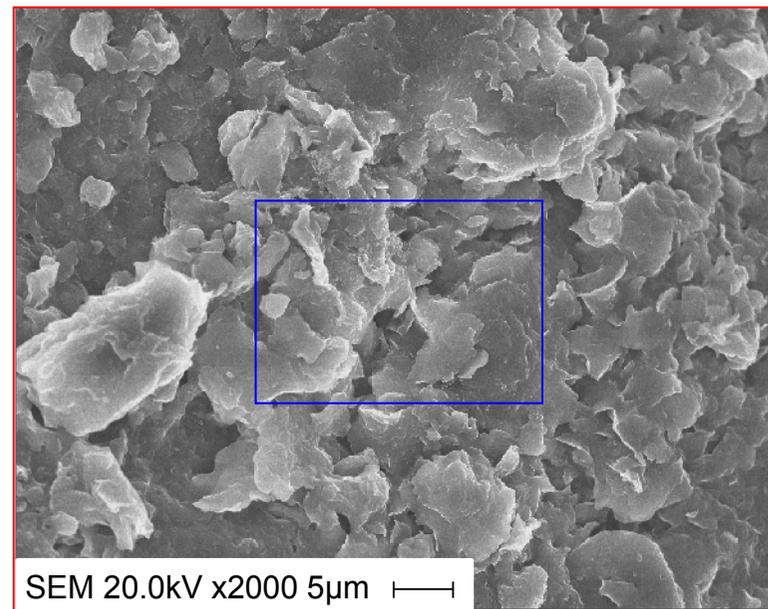
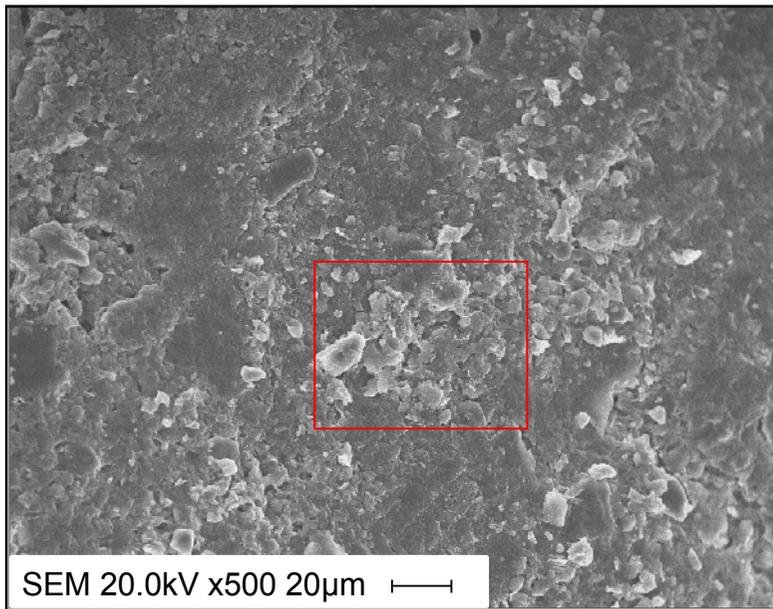
第7.4.4.157図 D-14 破碎帯 薄片試料観察結果 (D-14 既往露頭)



□ 電子顕微鏡観察位置

0 10cm

第7.4.4.158図 (1) D-14 破砕帯 電子顕微鏡観察結果 (D-14 既往露頭) (その1)



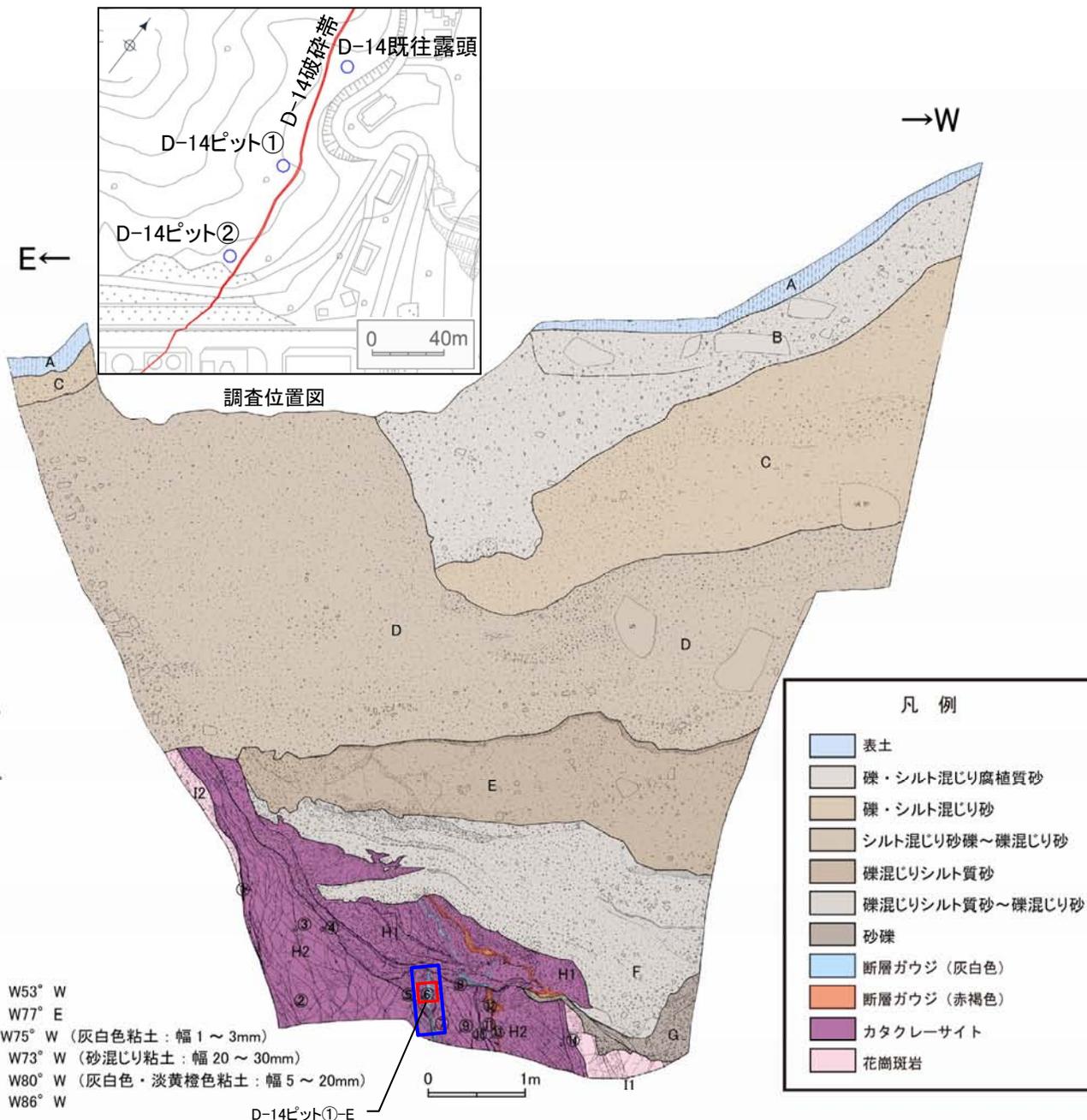
イライト、スメクタイトがカードハウス状を呈する。

第7.4.4.158図 (2) D-14 破砕帯 電子顕微鏡観察結果 (D-14 既往露頭) (その2)

- A層：表土
シルト混じり腐植質砂主体。褐灰色（5YR4/1）。
ルーズ。植物片・炭質物を多く含む。
- B層：礫・シルト混じり腐植質砂
基質は細～中粒砂主体。植物片・腐植物を多く含む。
礫は径5cm以下の角礫。まれに30cmのものも見られる。
にぶい褐色（7.5YR5/3）。
- C層：礫・シルト混じり砂
基質は中～粗粒砂主体。淘汰悪い。
やや軟質。礫は主に径5cm以下の風化した角～垂角礫。
まれに径70cmのものも見られる。
橙～黄橙（7.5YR7/6～7.5YR8/8）。
- D層：シルト混じり砂礫～礫混じり砂
基質は中～極粗粒砂主体。一部シルトを含む。
にぶい橙（7.5YR6/4）。淘汰悪い。
礫は径2cm以下で、まれに径70cmのものも見られる。
- E層：礫混じりシルト質砂
基質は細～粗粒砂、シルト主体。橙（5YR7/6）。
礫は主に径5cm以下の風化礫からなる。
一部に径5～20cmのものも含まれる。
- F層：礫混じりシルト質砂～礫混じり砂
基質は細～粗粒砂、シルト主体。全体的にやや軟質。
礫は主に径1cm以下の風化礫からなる。
明緑灰～にぶい橙（7.5GY8/1～7.5YR8/3）。
- G：砂礫
基質は中～粗粒砂主体。全体的にルーズ。褐（7.5YR4/4）。
礫率30%。礫は主に径8cm以下の垂角礫～垂円礫。
- H1：カタクレーサイト
礫混じりシルト質砂～砂・シルト質礫状。全体的にやや軟質。
灰黄褐（10YR4/2）。
- H2：カタクレーサイト
砂混じり細角礫～細角礫状。
にぶい橙～にぶい黄橙（5YR7/4～10YR7/4）。
- I1：花崗斑岩
全体的に風化を受け、細かい割れ目が多く発達。
主に角礫状。淡橙～浅黄橙（5YR8/4～7.5YR8/4）。
- I2：花崗斑岩

- ①：f：N2° E83° W（灰白色粘土：幅2～5mm） ⑨：f：N32° W53° W
②：j：N17° W59° W ⑩：f：N20° W77° E
③：j：N14° W75° W（黄褐色砂質粘土：幅1mm） ⑪：f：N2° W75° W（灰白色粘土：幅1～3mm）
④：地すべり面：N27° E38° W ⑫：f：N18° W73° W（砂混じり粘土：幅20～30mm）
⑤：f：N10° E52° W（灰白色粘土：幅1mm） ⑬：f：N18° W80° W（灰白色・淡黄橙色粘土：幅5～20mm）
⑥：f：N7° E86° W（砂混じり粘土：幅10～30mm） ⑭：f：N28° W86° W
⑦：f：N7° E83° W（灰白色粘土：幅10～25mm）
⑧：地すべり面：N62° E28° N（砂混じりシルト状：幅5～15mm）

f：せん断面
j：節理面
※走向は偏角未補正である。



□ ブロック採取位置 □ 条線観察位置

第7.4.4.159図 (1) D-14破砕帯 ピット調査結果 (D-14ピット①) (その1)

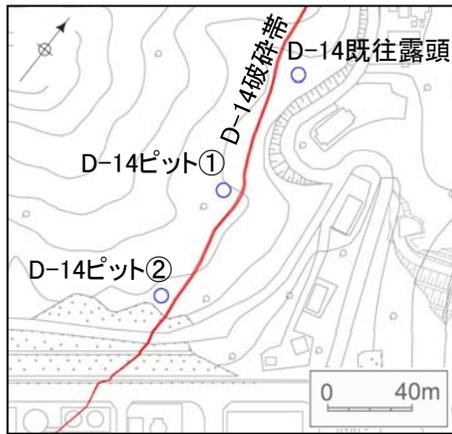


調査位置図

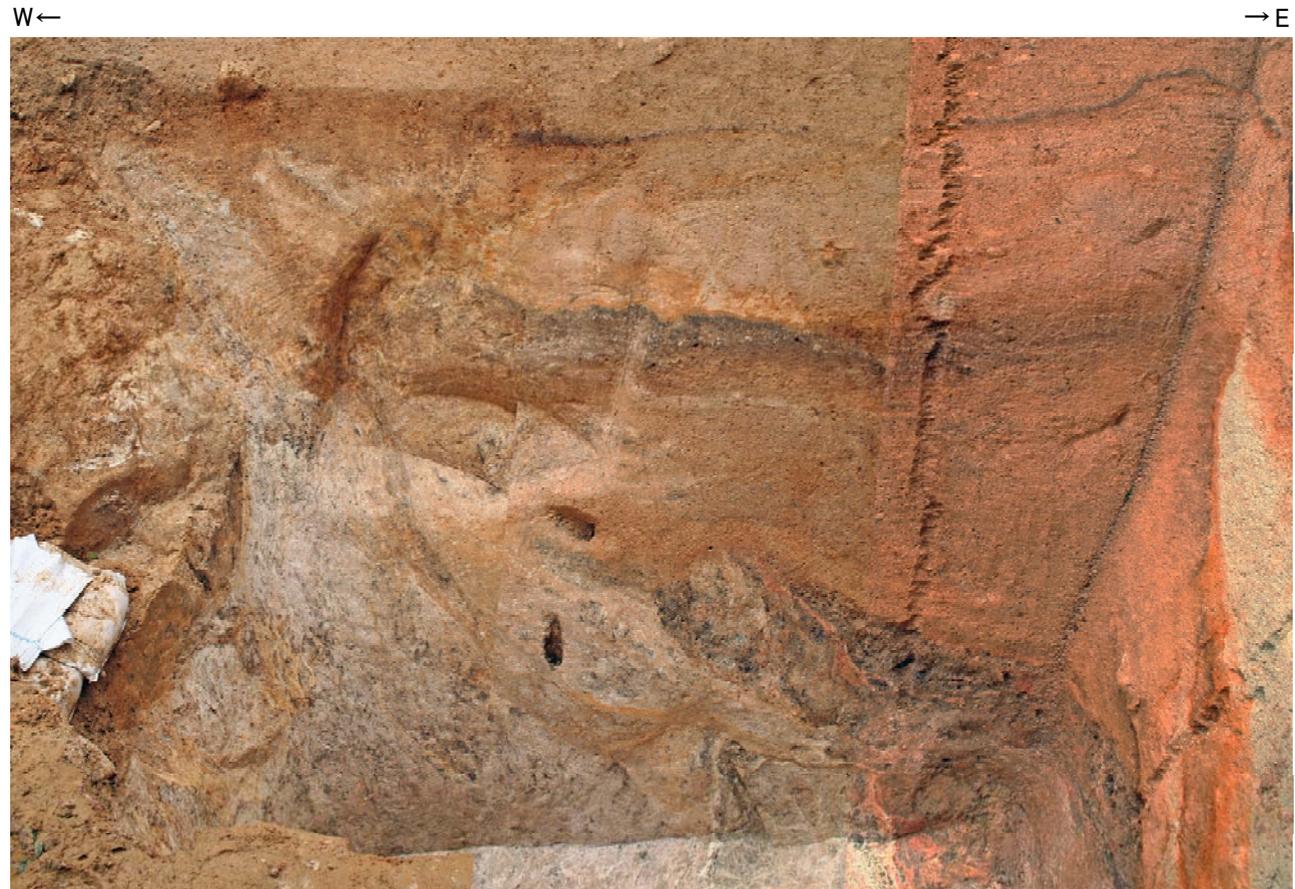


□ ブロック採取位置 □ 条線観察位置

第7.4.4.159図(2) D-14破碎帯 ピット調査結果(D-14ピット①) (その2)



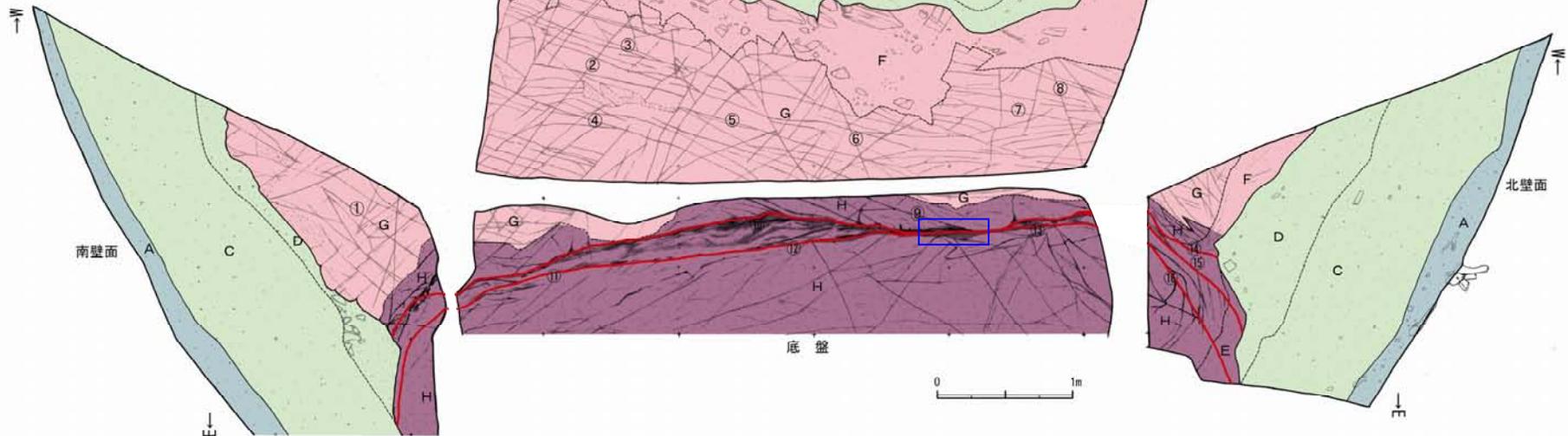
調査位置図



第7.4.4.159図 (3) D-14破砕帯 ピット調査結果 (D-14ピット①) (その3)



調査位置図

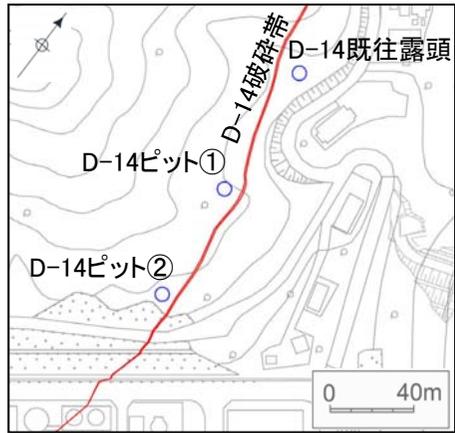


- A層： 礫混じり砂質シルト～シルト混じり砂：褐色(10YR4/4)～暗褐色(10YR3/4)
 径5mm程度の垂角礫を含む。北壁面では最大径50mmの垂角～垂円礫を含む。
- B層： シルト混じり砂：褐色(10YR4/6)。細砂主体。中砂も比較的多い。シルトを少量含む
- C層： 腐植物・シルト混じり砂：褐色(10YR4/6)。細砂主体。腐植質土を不規則に含む
 最大径40mm程度の垂角～垂円礫及び長辺100mm程度の扁平な垂角礫をまれに含む(とくに北壁面)
- D層： シルト混じり砂～砂礫：明黄褐色(10YR6/6)。細～中砂主体。全体に径5mm程度の角礫(石英片、長石片)を含む。
 最大径100mm程度の角礫を不規則に含む。ところにより礫の配列が岩盤の構造に調和的
- E： 花崗斑岩質カタクレーサイト(粘土状部)：北壁面のみ分布
- F： 花崗斑岩(強風化砂礫状部)
- G： 花崗斑岩(風化部)：節理は全体に酸化変色進む。岩片は軟質で、ハンマー打撃で容易に粉砕する。
 比較的良好部では割れ目に沿って岩片状に崩れる。
- H： 花崗斑岩質カタクレーサイト

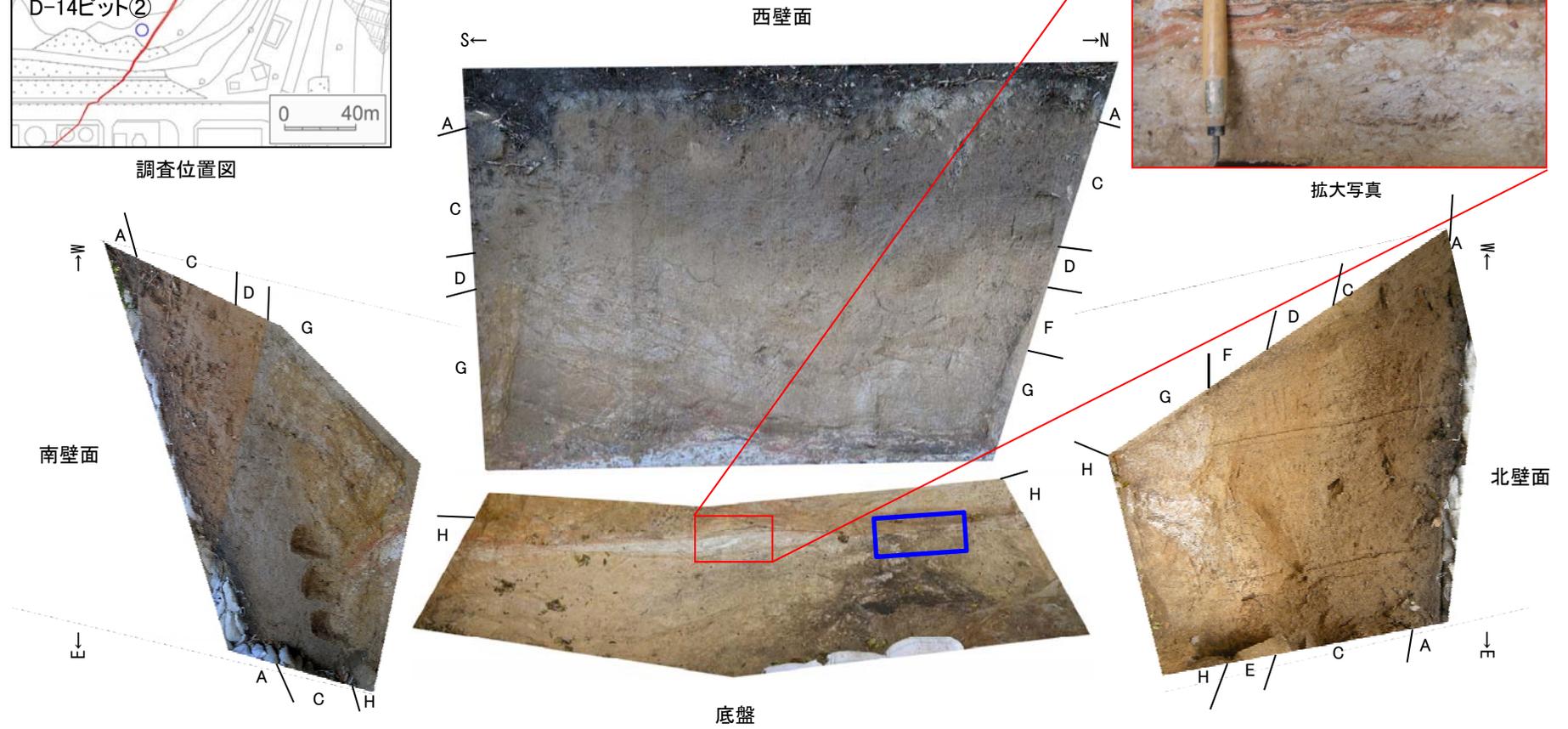
- ① j: N74° E53° S
 ② j: N47° W70° S
 ③ j: N24° E55° W
 ④ j: N26° E50° W
 ⑤ j: N28° E46° W
 ⑥ j: N85° E70° N
 ⑦ j: N20° E45° W
 ⑧ j: N70° E74° N
 ⑨ j: N24° E59° W
- ⑩ f: N2° W70° W (にぶい黄褐色シルト質粘土:幅30mm)
 ⑪ f: NS63° W (灰白色粘土:幅5mm)
 ⑫ f: N5° E51° W (灰白色粘土:幅5mm)
 ⑬ f: NS53° W (灰白色粘土:幅3mm)
 ⑭ f: N33° W61° W (赤褐色粘土:幅10mm)
 ⑮ f: N10° W46° W (灰白色粘土:幅1mm)
 ⑯ f: N25° E44° W (淡灰色粘土:幅2mm)

※走向は偏角未補正
 f: せん断面, j: 節理面

第7.4.4.160図 (1) D-14破砕帯 ピット調査結果 (D-14ピット②) (その1)



調査位置図

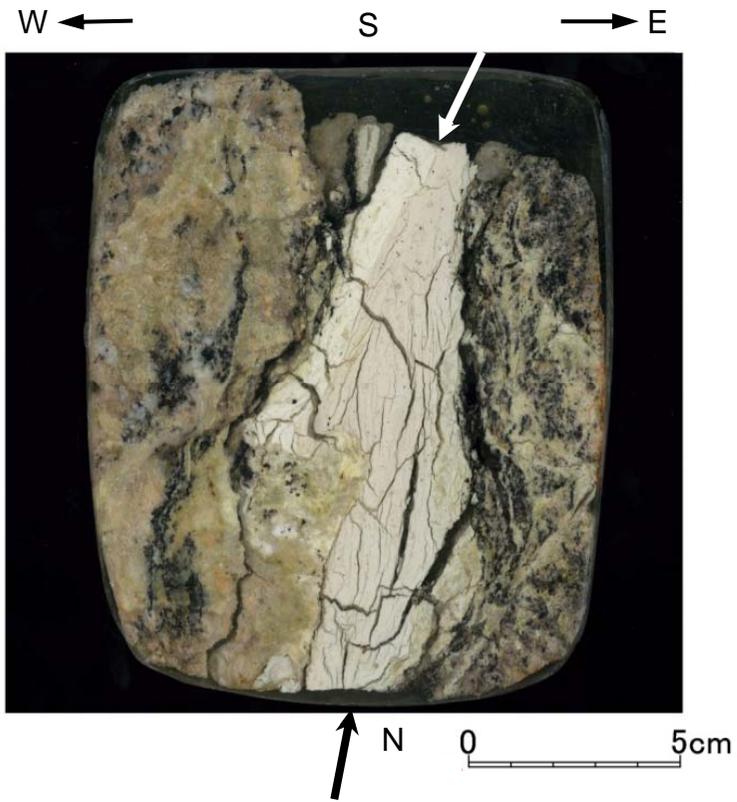


拡大写真

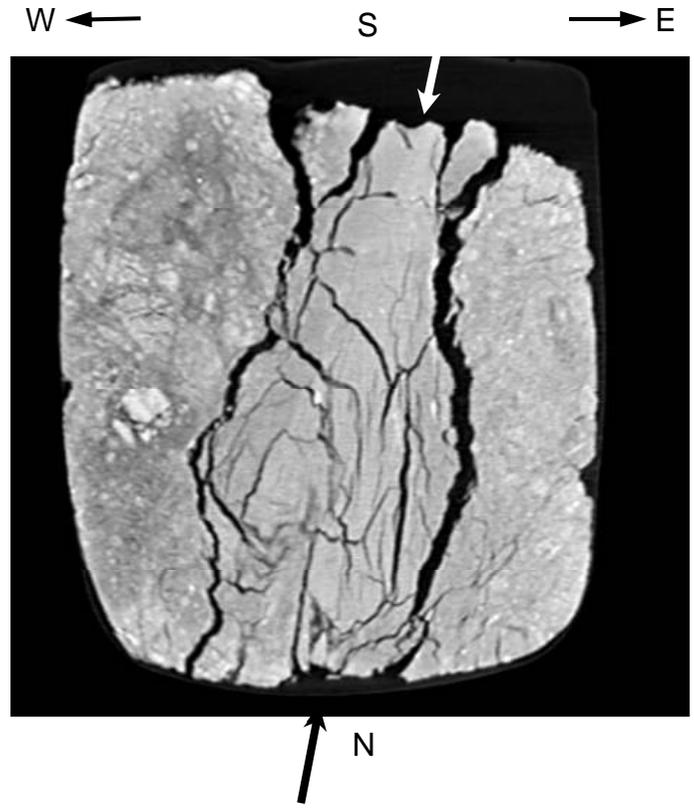
条線観察位置

第7.4.4.160図(2) D-14破碎帯 ピット調査結果(D-14ピット②) (その2)

試料番号:D-14ピット①-E



最新活動面



最新活動面

第7.4.4.161 図 D-14 破碎帯 研磨片試料及びCT画像 (D-14ピット①)

E ←

→ W



0 50cm

S ←

→ N



条線の例(下盤側から撮影)

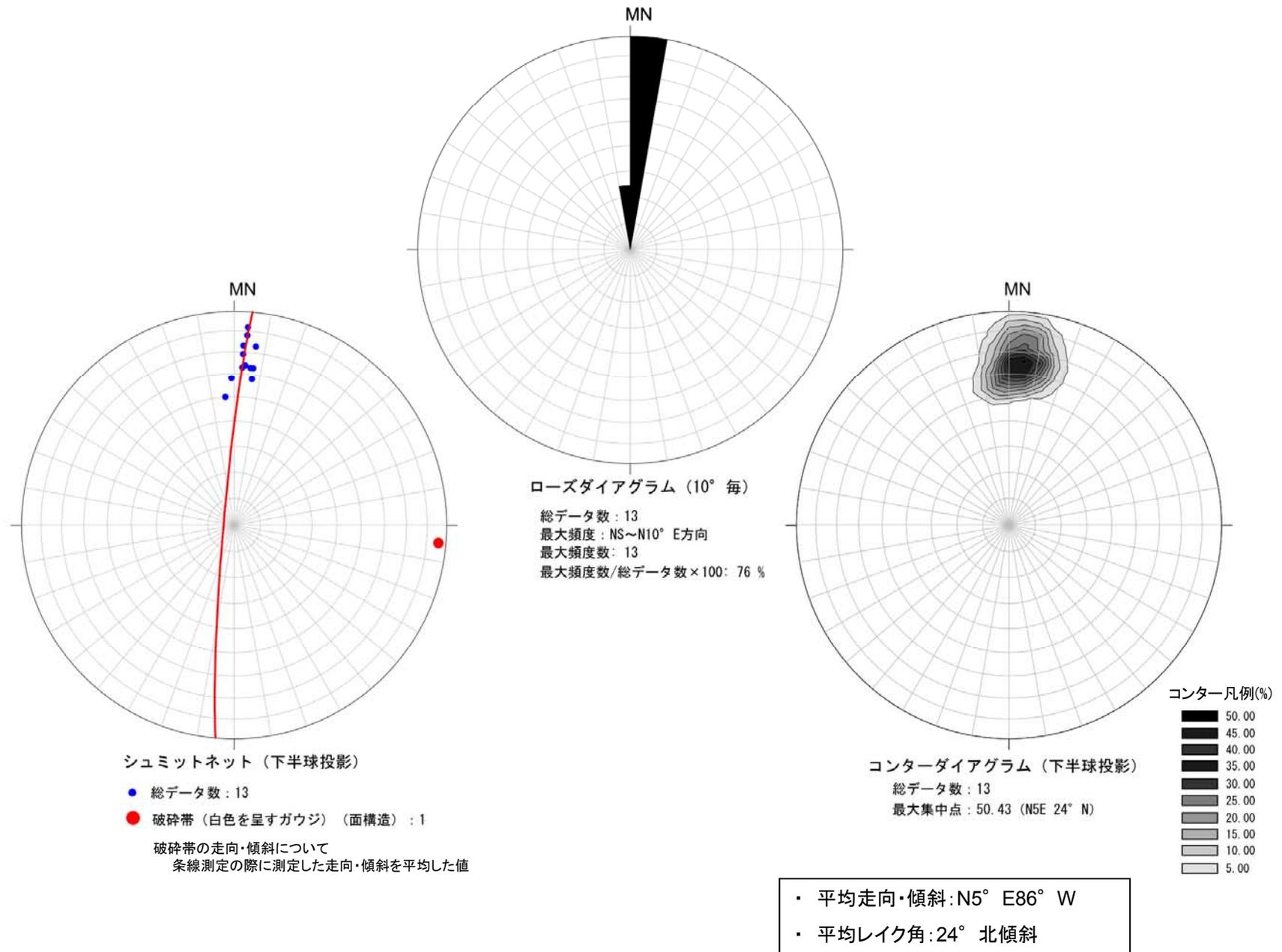


調査位置図

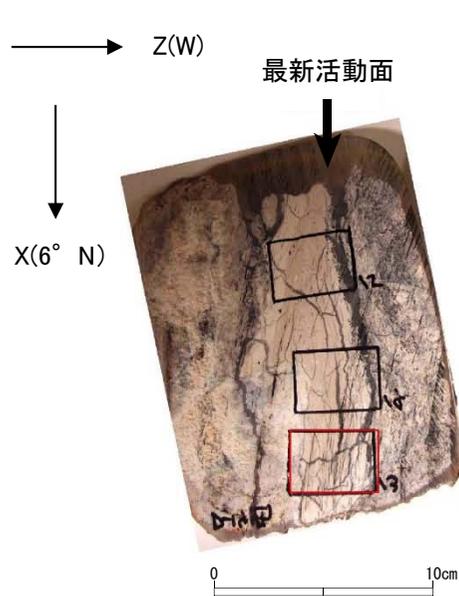
条線観察位置

- ・ 走向・傾斜: N5° E86° W
- ・ レイク角: 24° 北傾斜

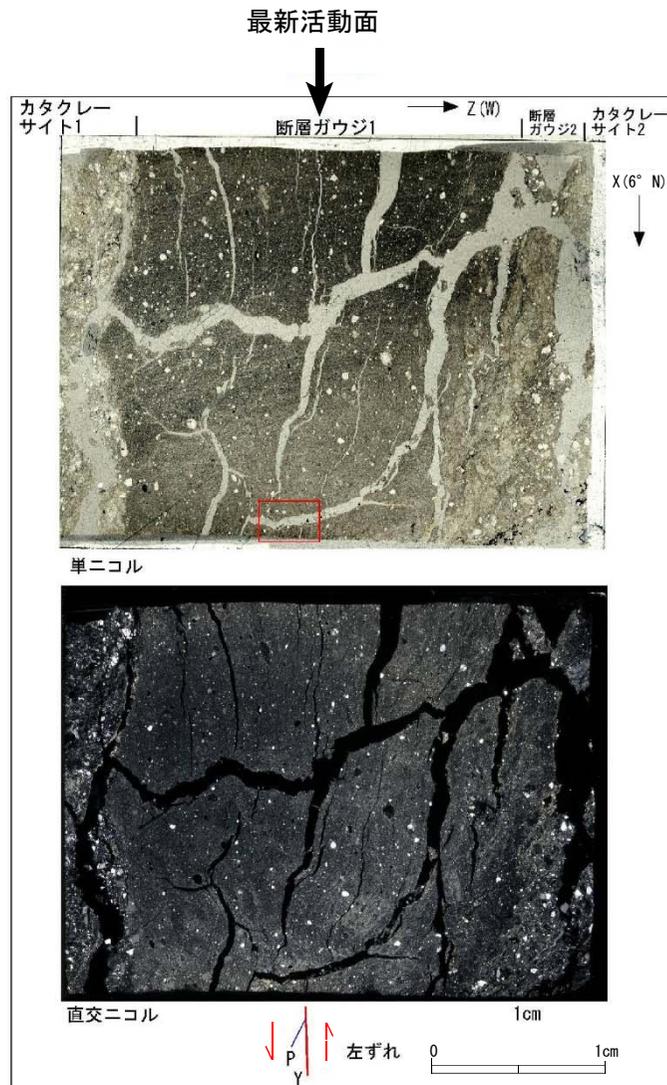
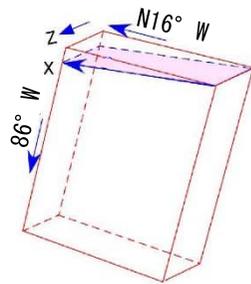
第7.4.4.163図 (1) D-14破砕帯 条線観察結果 (D-14ピット①) (その1)



第7.4.4.163図 (2) D-14 破碎帯 条線観察結果 (D-14ピット①) (その2)



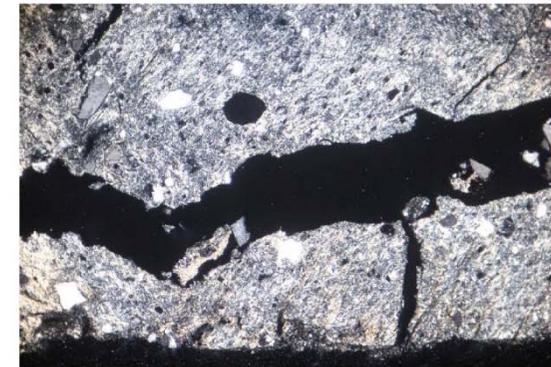
走向・傾斜 N16° W86° W



赤枠内の拡大



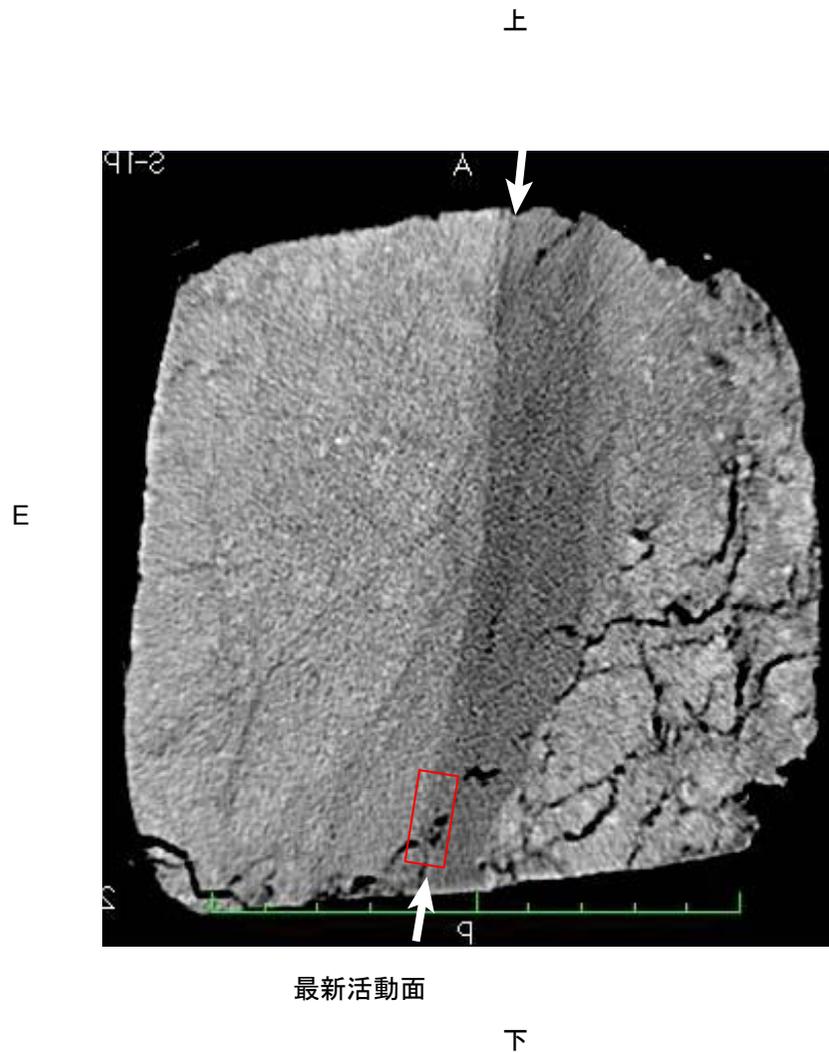
単ニコル



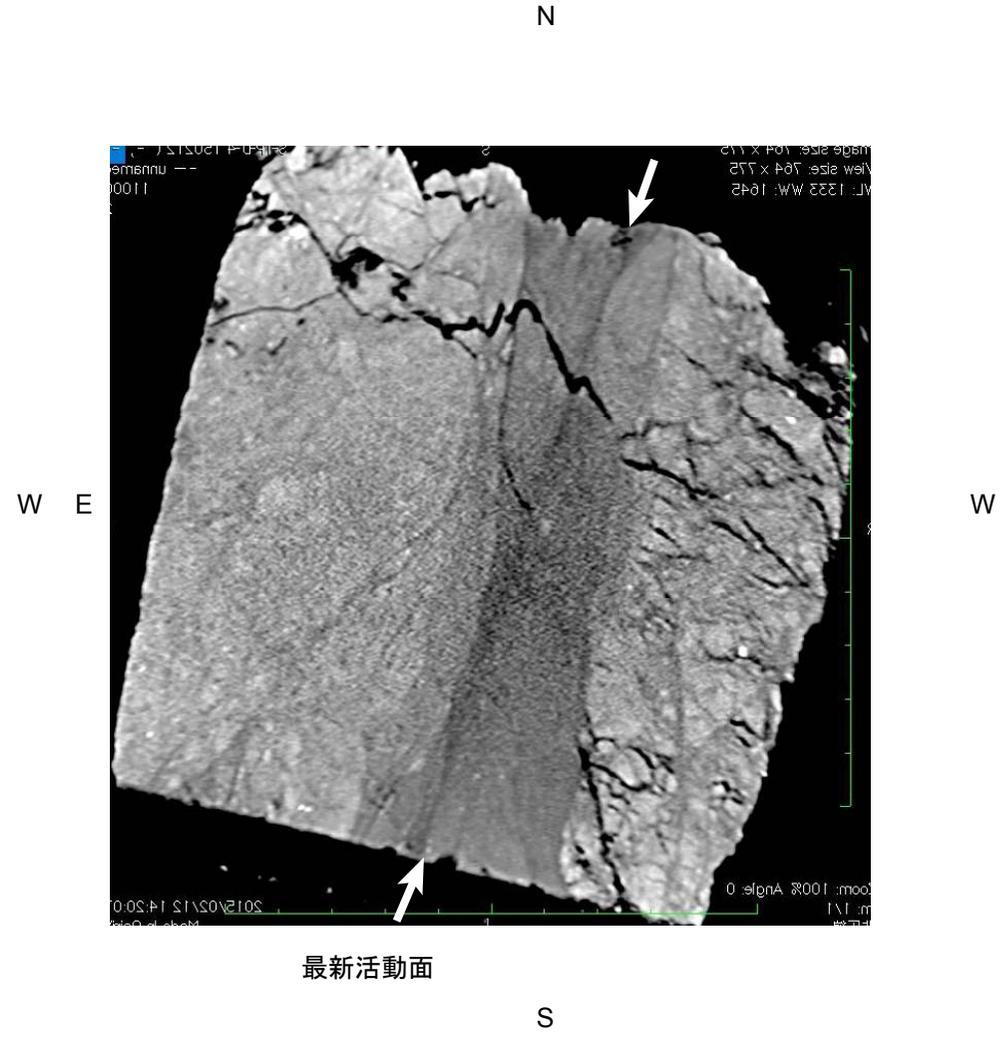
直交ニコル

- ・断層ガウジ1 (最新活動面)
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~2mmの亜円~垂角稜状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を含む。不明瞭であるが、P面から左ずれの変位センスが判読される。フラグメントは円磨されたものが多い。
- ・断層ガウジ2
褐色を呈する細粒の基質及び径0.01mm~3mmの亜円~垂角稜状の石英、長石、カタクレーサイトのフラグメントからなる。基質には粘土鉱物を多く含む。不明瞭であるが、P面から左ずれの変位センスが判読される。
- ・カタクレーサイト1
径0.1mm~2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が見られるが、全体に少ない。
- ・カタクレーサイト2
径0.1mm~2mmの花崗斑岩、石英、長石のフラグメントからなる。褐色を呈する基質には局所的に粘土鉱物が見られるが、全体に少ない。

第7.4.4.164図 D-14 破碎帯 薄片試料観察結果 (D-14ピット①)

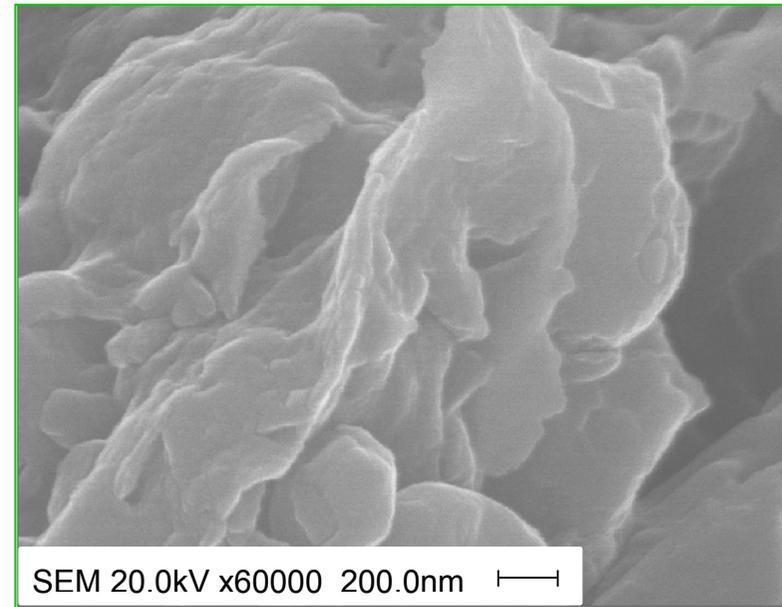
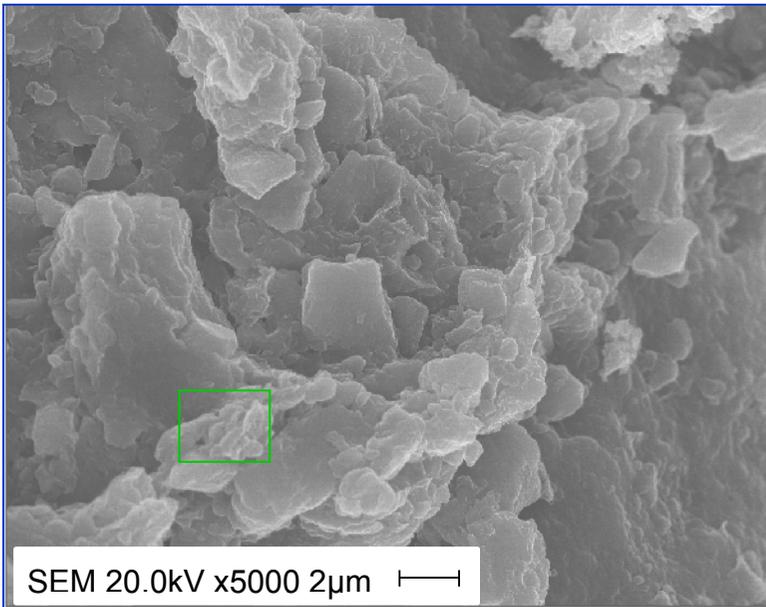
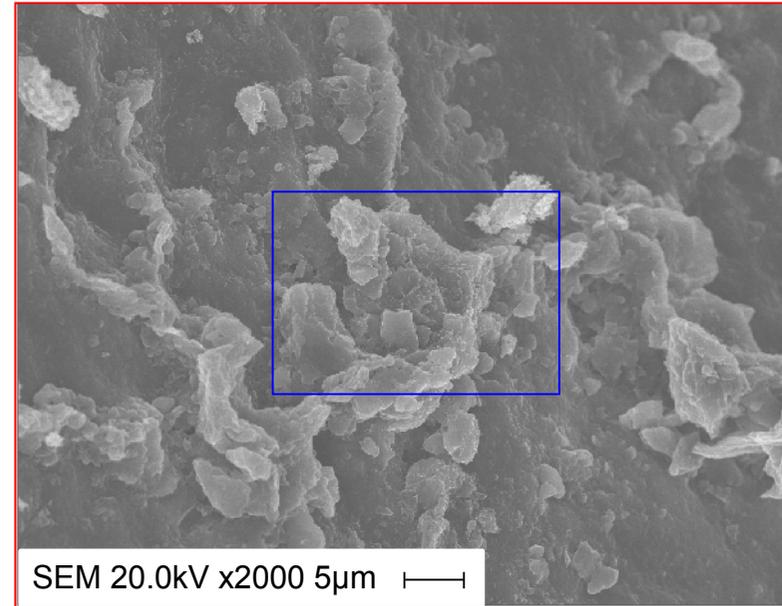
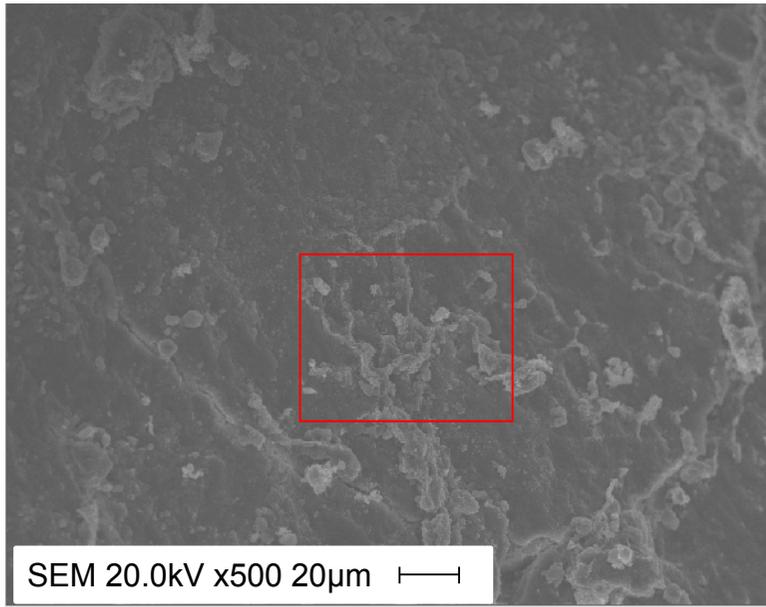


□ 電子顕微鏡観察位置



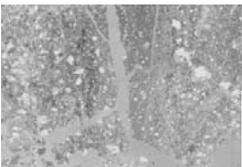
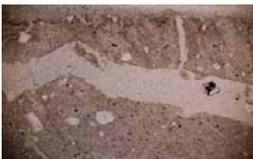
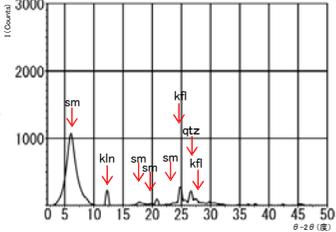
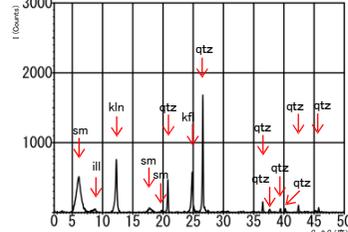
10cm

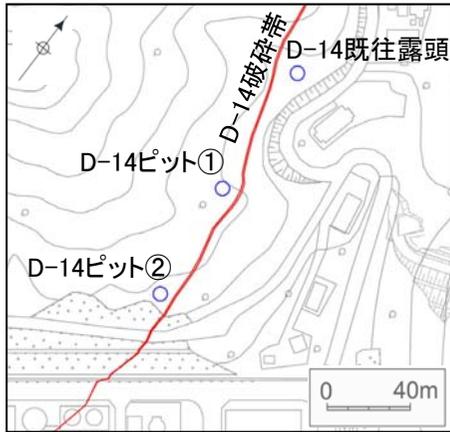
第7.4.4.165図(1) D-14 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (D-14ピット①) (その1)



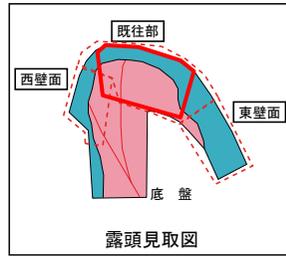
スメクタイト、イライトがカードハウス状を呈する。

第7.4.4.165図 (2) D-14 破碎帯 電子顕微鏡観察結果 (D-14ピット①) (その2)

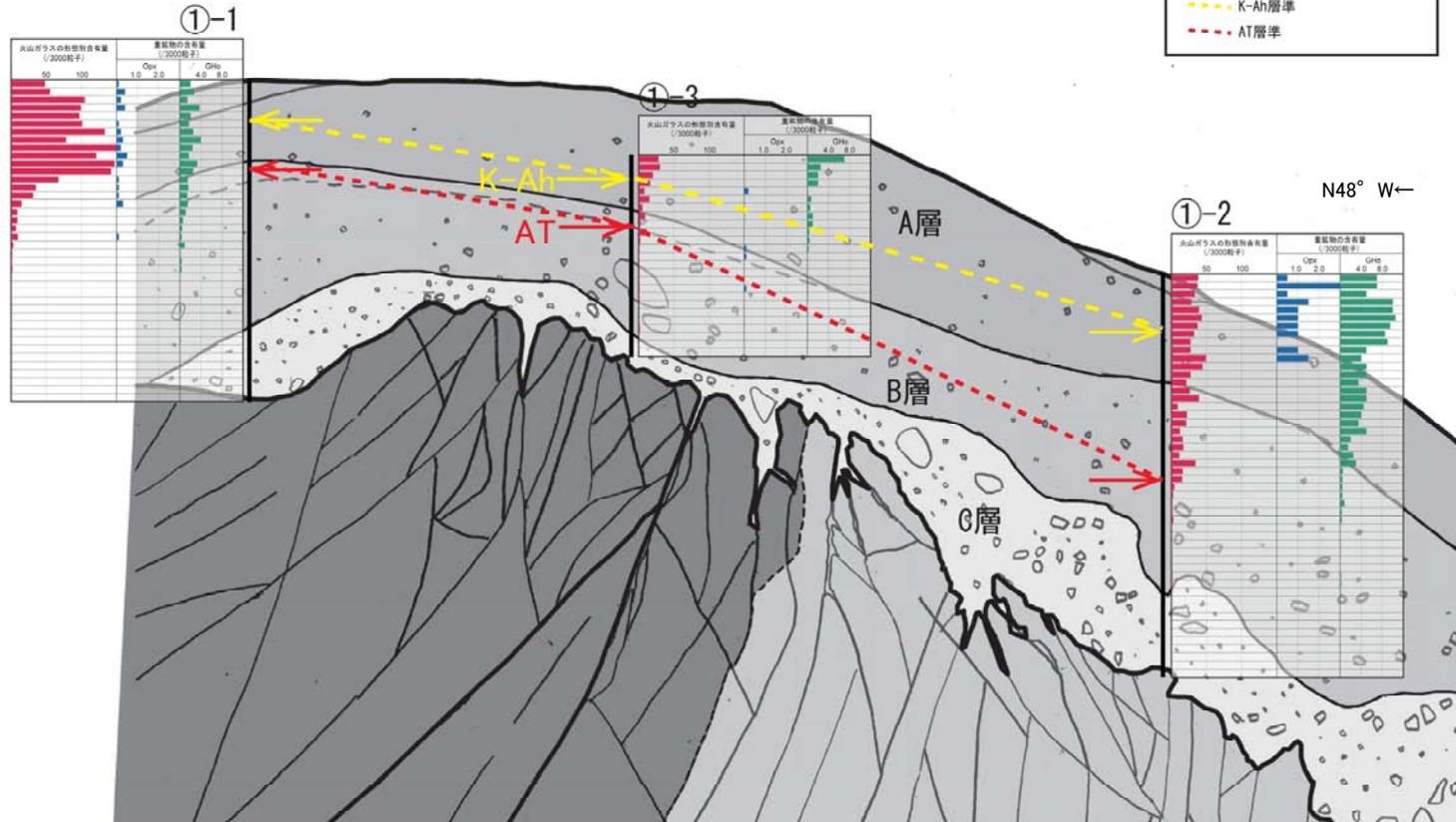
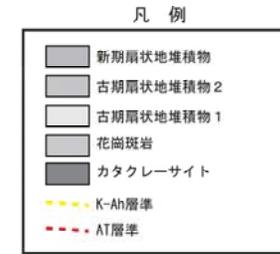
性状	D-14破碎帯		
	D-14既往露頭	D-14ピット①	D-14ピット②
走向・傾斜	NNE-SSW, 高角度西傾斜	NNW-SSE, 高角度西傾斜	N-S, 中角度西傾斜
破碎幅	約50cm～約260cm	約50cm～約120cm	約100cm
断層ガウジの状況			
断層ガウジの色調	灰白色, 褐灰色	灰白色, 褐灰色	灰白色, 赤褐色
断層ガウジの状態	軟らかい	軟らかい	軟らかい
断層ガウジの構造	無構造	縞状	—
断層ガウジの微細構造	<ul style="list-style-type: none"> 構成粒子の円形度: 0.4程度(垂円礫状) 面構造が弱い 	<ul style="list-style-type: none"> 構成粒子の円形度: 0.4程度(垂円礫状) 面構造が弱い 	—
変位センス	左ずれ	左ずれ	—
X線回折分析	<ul style="list-style-type: none"> ・ス멕タイト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ス멕タイト, イライト, カオリナイト, 石英, カリ長石を含む。 	—



調査位置図



→N80° E



D-14破碎帯

第7.4.4.167図 D-14破碎帯 テフラ分析結果 (D-14既往露頭)

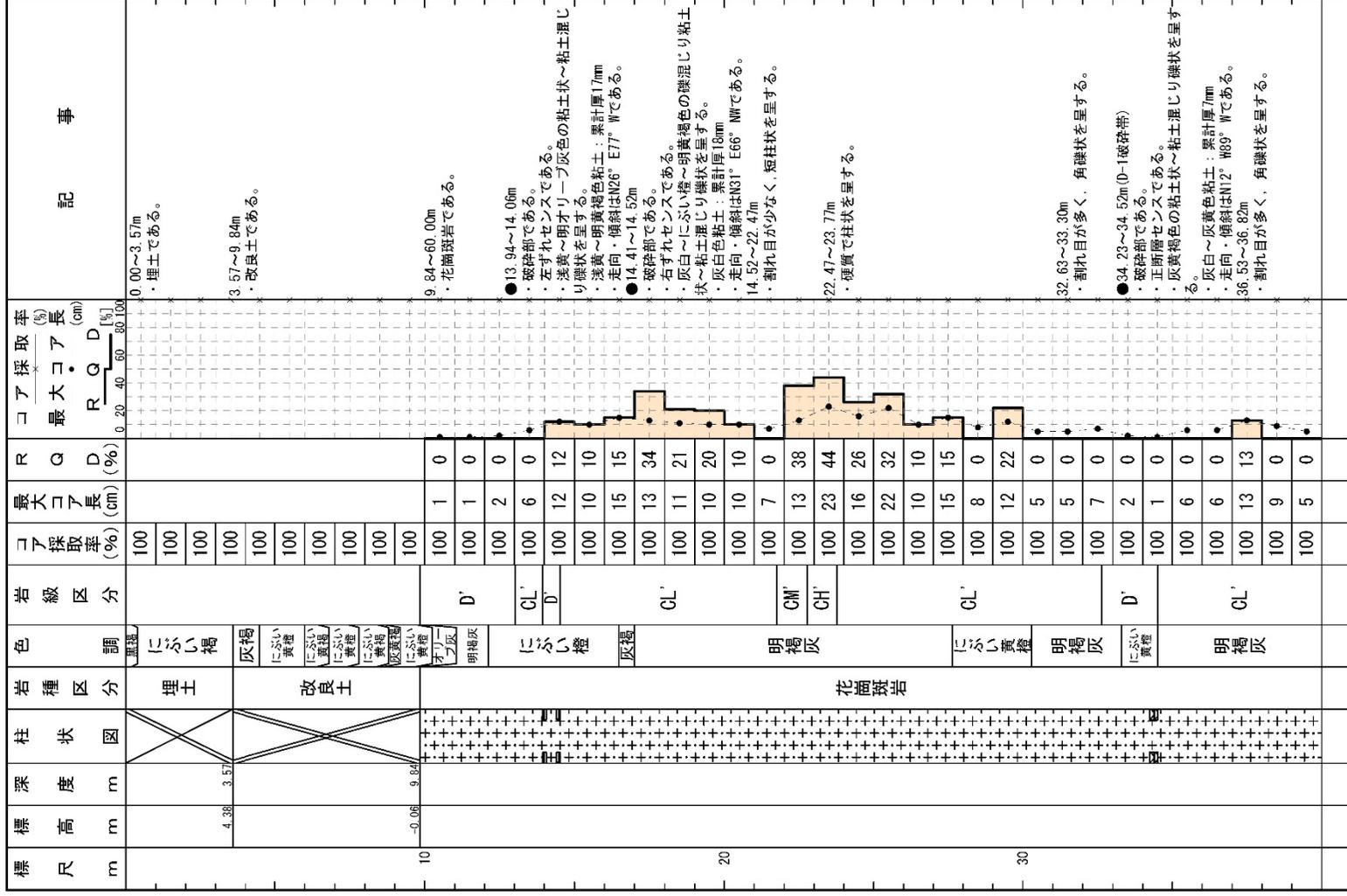
H24-D1-2

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記	事
----	----	----	-----	------	----	------	-----------	------------	---	---	---	-----------	------------	---	---

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記	事			
10	1.05	6.81		盛土	黄褐		100							0.00~6.81m	・盛土である。			
							100											
20				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	5	0						6.81~33.00m	・花崗斑岩である。 11.95~12.13m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ● 12.38~12.97m (D-I破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・灰白~浅黄~黄褐色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰黄色粘土：累計厚12mm ・走向・傾斜はN14° W70° Wである。 12.97~16.24m ・割れ目は少なく、短柱状を呈する。 ● 19.78~19.87m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・浅黄褐色の礫質粘土状を呈する。 ・走向・傾斜はN16° E65° Wである。 21.50~23.18m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 25.21~26.82m ・割れ目が少なく、短柱状~柱状を呈する。		
							100	7	0									
							100	7	0									
							100	8	0									
							100	4	0									
							100	3	0									
							100	9	0									
							100	10	10									
							100	7	0									
							100	5	0									
30				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	12	12									
							100	19	19									
							100	20	20									
							100	25	36									
							100	11	11									
							100	9	0									
							100	14	34									
							100	8	0									
							100	19	45									
							100	13	25									
33.00				花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	8	0									
							100	15	15									
							100	24	60									
							100	18	32									
100	16	16																
100	8	0																

H24-D1-3

孔口標高 I.P. 掘削長 60.00m



第7.4.4.169図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-3孔)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア 採取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	記事			
									R Q D			R Q D					
									0 20 40 60 80 100			0 20 40 60 80 100					
50			+	花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	0	0	100	7	●	<ul style="list-style-type: none"> ●52.13～52.28m ・破碎部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰褐～灰白～明褐灰色の粘土状～粘土混じり礫状を呈する。 ・にふい煙～明赤灰色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN7° E70° Wである。 		
			+							100	13	13	0	100		13	●
			+							100	8	0	0	100		8	●
			+							100	12	12	0	100		12	●
			+							100	11	11	0	100		11	●
			+							100	10	10	0	100		10	●
			+							100	8	0	0	100		8	●
			+						CM'	100	8	0	0	100		8	●
			+							100	5	0	0	100		5	●
			+							100	7	0	0	100		7	●
			+							100	6	0	0	100		6	●
			+						CL'	100	5	0	0	100		5	●
			+							100	6	0	0	100		6	●
			+						CM'	100	4	0	0	100		4	●
			+				100	3	0	0	100	3	●				
			+			CL'	100	5	0	0	100	5	●				
			+				100	6	0	0	100	6	●				
	-35.53	60.00	+				100	6	0	0	100	6	●				

H24-D1-4

孔口標高	T.P.	6.95m	掘削長	70.00m
------	------	-------	-----	--------

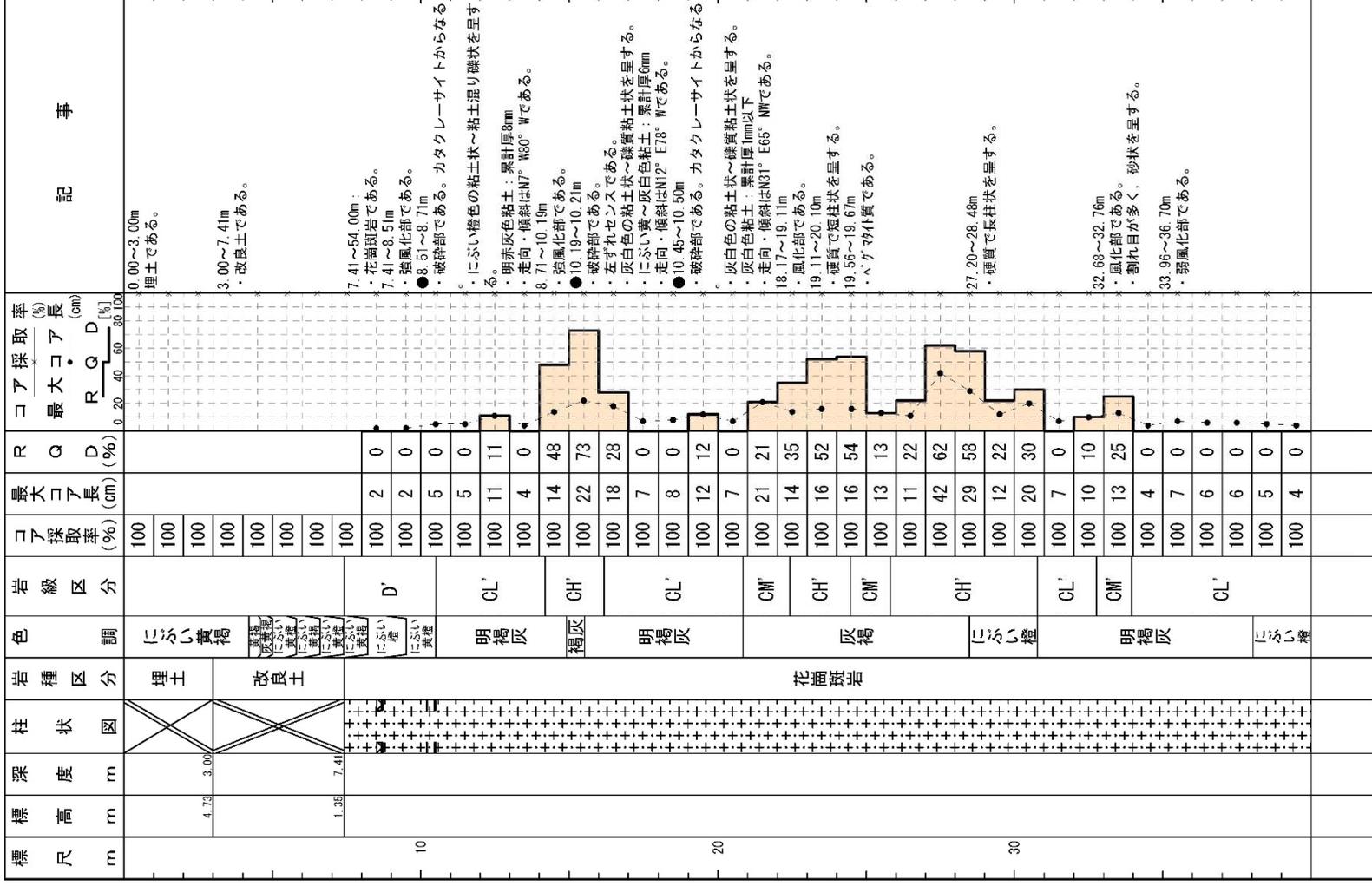
標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
				埋土	埋土		100							0.00~2.94m ・埋土である。
	4.87	2.94		改良土	明黄褐		100							2.94~7.62m ・改良土である。
	1.56	7.62		花崗斑岩	にぶい 黄橙	CL'	100	7	0	0	0			7.62~17.89m ・花崗斑岩である。
10				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	3	0	0	0			10.76~10.88m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	0	0			●10.91~10.93m (D-I 破砕帯) ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・浅黄褐~灰白~浅黄色の礫混り粘土状を呈する。
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	8	0	0	0			・浅黄褐~灰白~浅黄色粘土：累計厚18mm ・走向・傾斜はN13° W78° Wである。
	-5.70	17.89		花崗斑岩	明褐灰	D'	100	7	0	0	0			11.22~17.89m ・割れ目が少なく、短柱状を呈する。
	-6.09	18.44		花崗斑岩	明褐灰	D'	100	6	0	0	0			17.89~18.44m ・黒雲母花崗岩である。
20				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	0	0			18.44~70.00m ・花崗斑岩である。
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	18	36	0	0			23.40~23.77m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	10	10	0	0			●71.75~28.43m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・明褐灰~灰白~明赤灰色の礫混り粘土状~粘土混り礫状を呈する。 ・灰黄褐色粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN6° E83° Wである。
30				花崗斑岩	明褐灰	D'	100	5	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	D'	100	3	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	D'	100	5	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	9	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	12	12	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	9	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	13	34	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	9	0	0	0			34.57~34.63m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	9	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	6	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	6	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	4	0	0	0			
				花崗斑岩	明褐灰	CL'	100	7	0	0	0			42.37~42.61m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	最大コア長 (cm)	記事						
50			+	花崗斑岩	にぶい橙	CL'	100	10	10		49.83~52.07m					・緑灰色に変色する。						
						CM'	100	7	0		52.07~52.97m				・割れ目が多く、角礫状を呈する。							
60			+	花崗斑岩	灰褐 にぶい橙	CL'	100	12	33			●52.97~53.46m						・破碎部である。カタクレーサイトからなる。				
						CH'	100	18	34											・灰白色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。		
						CL'	100	9	0												・褐色粘土：累計厚5mm	
						D'	100	4	0												・走向・傾斜はN41° E50° NWである。	
						CL'	100	4	0												●56.57~59.47m	
						CM'	100	14	35												・割れ目が多く、角礫状を呈する。	
						D'	100	8	0													●60.06~60.38m
						CL'	100	9	0													・破碎部である。
						CL'	100	9	0													・右ずれセリスである。
						D'	100	7	0													・灰褐~灰白色の粘土状~粘土混り礫状を呈する。
70	-42.55		+	花崗斑岩	明褐灰 灰 灰 明褐灰	CL'	100	4	0										・暗緑灰色粘土：累計厚8mm			
						D'	100	4	0											・走向・傾斜はN18° E88° Wである。		
						CL'	100	3	0												●60.39~61.39m	
						D'	100	3	0													・割れ目が多く、角礫状を呈する。
						CL'	100	3	0												●61.47~61.52m	
						D'	100	3	0													・破碎部である。
						CL'	100	9	0													・右ずれ正断層セリスである。
						D'	100	5	0													・灰白色の粘土状~礫質粘土状を呈する。
						CL'	100	4	0													●63.67~63.90m
						D'	100	2	0													
			+		明褐灰	CL'	100	4	0									・走向・傾斜はN27° W83° Wである。				
						D'	100	2	0												・破碎部である。カタクレーサイトからなる。	
						CL'	100	3	0												・灰白~赤灰色の粘土状~礫混じり粘土状を呈する。	
																●66.65~67.05m						
																	・赤灰色粘土：累計厚10mm					
																	・走向・傾斜はN19° W89° Wである。					
																	・割れ目が多く、角礫状を呈する。					

第7.4.4.170図 (2) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-4孔)

H24-D1-5

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D	掘削長	54.00m
----	----	----	-----	------	----	------	-----------	------------	-----------------	----------------------------------	-----	--------



第7.4.4.171図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事		
50	-34.34	54.00		花崗斑岩	明褐色	CL'	100	11	11	100	11	41.08~41.49m ・硬質で短柱状を呈する。		
							100	10	10	100	10			
							100	13	13	100	13			
					明褐色	D'	D'	100	2	0	0	100	2	43.25~45.09m ・風化部である。 ・割れ目が多く、砂~角礫状を呈する。
								100	1	0	100	1		
					明褐色	CL'	CL'	100	3	0	0	100	3	●47.47~47.89m(0-1破砕帯) ・破砕部である。 ・右すれ正断層センスである。 ・灰黄~黄灰色の粘土状~粘土混じり礫状を呈する。 ・灰褐~褐色粘土：累計厚6mm ・走向・傾斜はN17°E88°Wである。
								100	4	0	100	4		
								100	3	0	100	3		
								100	7	0	100	7		
					灰褐色	GM'	GM'	100	10	10	10	100	10	52.75~54.00m ・硬質で短柱~柱状を呈する。
								100	10	10	100	10		
								100	19	29	100	19		
						CH'	CH'	100	12	24	24	100	12	

第7.4.4.171図 (2) D-1破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H24-D1-5孔)

H27-B-3

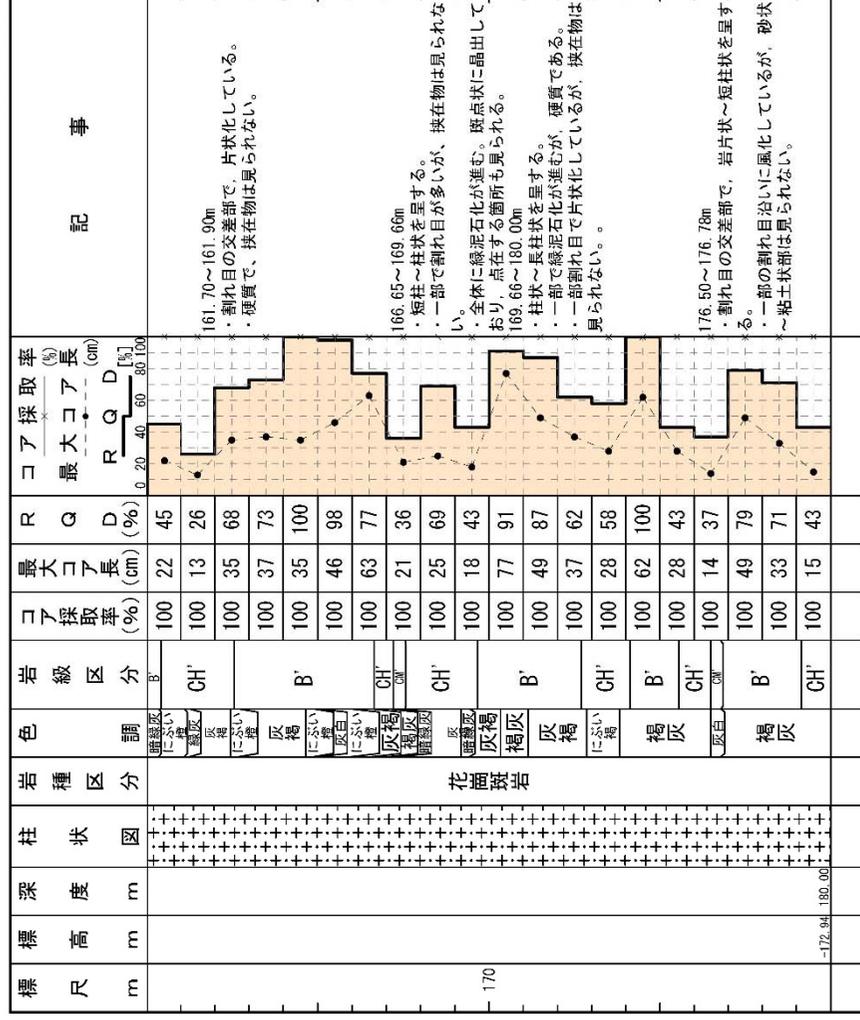
孔口標高 I.P. 7.06m 掘削長 180.00m

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調 <small>明褐色 にふい 黄褐色 灰褐色</small>	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)			記 事			
												R	Q	D				
5.36	1.70			埋土			100					0	20	40	60	80	100	
				盛土	にふい黄褐		100											0.00~10.05m ・盛土である。 ・よく締まる粗砂~砂礫からなる。 ・0.00~1.70mはボーリング掘削前に実施した試験の埋戻土である。
							100	4	0									10.05~119.14m ・花崗斑岩である。
							100	7	0									
							100	9	0									
							100	3	0									12.96~14.62m ・所々に灰白色の粘土を斑点~脈状に含む。
							100	6	0									
							100	10	10									15.33~15.43m ・軟質化著しい。
							100	7	0									18.05~18.47m ・珪質化している。
							100	8	0									20.04~20.93m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目を含む。
							100	3	0									
							100	5	0									22.50~22.64m ・軟質化著しい。
							100	6	0									・上部に褐色の粘土脈、下端に褐色の砂を伴う。
							100	10	10									・一部に灰白色の粘土を脈状に含む。
							100	18	18									●26.70~26.90m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。
							100	8	0									・淡黄色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。
							100	5	0									・淡黄色粘土：1mm ・走向・傾斜はN18° E61° Wである
							100	6	0									・傾斜は43°である。
							100	4	0									・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は54°である。
							100	26	36									●28.12~28.14m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。
							100	17	40									・淡黄色の粘土状~にふい黄褐色の粘土混じり礫状~粘土質礫状を呈する。
							100	10	10									・浅黄色粘土：3mm ・N15° E64° W
							100	5	0									・傾斜は43°である。
							100	9	0									・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は45°~55°である。
							100	8	0									●29.10~29.12m ・破砕部である。
							100	19	43									・左ずれセンスである。
							100	16	16									・灰白~灰黄褐色の粘土状~灰白色の礫質粘土状を呈する。
							100	10	10									・走向・傾斜はN31° E51° Wである。
							100	10	10									・上盤境界の傾斜は49°、下盤境界の傾斜は45°~50°である。
							100	10	10									●30.56~32.21m ・破砕部である。
							100	16	16									・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
							100	10	10									34.20~35.94m ・硬質だが、密着度の低い割れ目が多い。
							100	10	10									35.94~37.30m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
							100	10	10									37.69~37.81m ・割れ目沿いに、砂状化している。 ・白色の粘土脈を伴う。

標尺	m	標高	m	深度	m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記 事
									CL'	100	11	11										40.79~41.83m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ●42.85~42.91m ・破砕部である。 ・右ずれセンスである。 ・灰白色の砂・礫混じり粘土状~明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚25mm ・走向・傾斜はNS71°Wである。 ・傾斜は45°である。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は66°である。 46.14~48.61m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・上部は長石の多くが白濁化する。 ・一部で割れ目沿いに、砂状~細片化している。
									CL'	100	13	33										53.10~55.82m ・割れ目が多く、一部割れ目沿いに砂状し白色粘土を伴う。
									D'	100	2	0										●56.69~56.72m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・淡黄色の粘土状~浅黄~黄灰色の砂・粘土混じり礫状を呈する。 ・淡黄色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN2°W36°Wである。 ・傾斜は31°である。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は31°である。 ●58.89~58.99m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・灰白色の礫混じり粘土状~にぶい黄褐色の礫質粘土状~褐色の粘土混じり礫状を呈する。
									CL'	100	7	0										●59.69~59.75m ・破砕部である。 ・右ずれ正断層センスである。 ・黄褐色の粘土状~にぶい橙色の砂混じり礫状を呈する。 ・黄褐色粘土：1mm ・走向・傾斜はN37°E48°Wである。 ・傾斜は52°である。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は37°である。 60.00~62.23m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、砂状化している。 62.82~62.93m ・砂礫状を呈し、白色粘土脈を伴う。 64.52~66.39m ・硬質であるが、割れ目が多い。 ・一部割れ目沿いに、薄く砂状化している。 68.06~68.93m ・砂礫状を呈する。 70.10~71.72m ・著しく軟質化している。 ・粘土~砂状化が進み、白色粘土脈を伴う。 72.65~73.38m ・著しく軟質化している。 ・一部、細砂礫状を呈する。 ●76.59~76.89m ・破砕部である。 ・左ずれセンスである。 ・明黄褐色の粘土状~灰白~にぶい橙色の礫質粘土~粘土混じり礫状を呈する。 ・明黄褐色粘土：累計厚1mm ・走向・傾斜はN41°E30°Wである。 ・傾斜は47°である。 ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は37°である。 79.15~85.03m ・粘土化が進み、著しく軟質化している。 ・原岩組織と割れ目の一部は残っている。

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事							
90			+++++	花崗斑岩	明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色	D'	100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	84.54~84.71m ・砂状化が進み、軟質粘土を伴う。						
							100	4	0	0	0	0	0	0	0	85.61~93.25m ・著しく軟質化している。							
							100	3	0	0	0	0	0	0	0	87.18~91.35m ・砂礫状を呈する。							
							100	3	0	0	0	0	0	0	0								
							100	3	0	0	0	0	0	0	0								
							100	3	0	0	0	0	0	0	0								
							100	2	0	0	0	0	0	0	0	0							
							100	2	0	0	0	0	0	0	0	0							
							100	3	0	0	0	0	0	0	0	0							
							100	6	0	0	0	0	0	0	0	0							
							100	3	0	0	0	0	0	0	0	0	●91.35~91.54m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。						
100			+++++	花崗斑岩	明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色	D'	100	1	0	0	0	0	0	0	0	0	・灰白色の粘土状~灰白~にぶい黄褐色~淡黄褐色の硬質粘土状~にぶい橙色の粘土混じり礫状を呈している。						
							100	4	0	0	0	0	0	0	0	0	・灰白色粘土：累計厚10mm						
							100	2	0	0	0	0	0	0	0	0	・走向・傾斜はN64°W20°Sである。						
							100	2	0	0	0	0	0	0	0	0	・傾斜は25°である。						
							100	2	0	0	0	0	0	0	0	0	・上盤境界の傾斜は36°、下盤境界の傾斜は20°である。						
							100	6	0	0	0	0	0	0	0	0	91.54~92.00m ・石英以外は砂状化している。						
							100	7	0	0	0	0	0	0	0	0	93.66~93.86m ・粘土化及び砂状化が著しい。						
							100	2	0	0	0	0	0	0	0	0	●99.50~99.68m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。						
							100	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・灰白色の砂混じり粘土状~明黄褐色~褐色の粘土・砂混じり礫状を呈する。				
							100	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・灰白色砂混じり粘土：累計厚10mm				
							100	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・走向・傾斜はN15°W89°Eである。				
100	12	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・傾斜は38°である。										
100	12	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・上盤境界の傾斜は43°、下盤境界の傾斜は37°である。										
100	18	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102.00~104.28m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。										
100	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104.28~105.88m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。										
100	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	105.88~119.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。										
100	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	108.71~112.27m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。										
100	15	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・割れ目には、挟在物は見られない。									
100	15	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112.27~113.27m ・硬質であるが、割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。									
100	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・一部割れ目に、砂~シルト状緑泥石が見られる。								
100	10	20	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	113.27~117.32m ・短柱~柱状を呈する。								
100	22	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・一部割れ目沿いに、砂~片状化している。								
100	12	34	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117.32~117.39m ・割れ目沿いに、軟質化している。								
100	25	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	117.39~119.00m ・短柱~柱状を呈する。								
100	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・下部に割れ目が多いが、挟在物は見られない。								
100	21	36	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	119.14~119.30m ・暗緑灰色の礫状を呈する。								
100	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	●119.11~119.25m(O-1破砕帯) ・破砕部である。								
110			+++++	花崗斑岩	明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色 明褐色	D'	100	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・正断層センスである。			
							100	15	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・緑灰色の粘土状~にぶい橙~暗緑灰色の粘土混じり礫状を呈する。		
							100	15	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・緑灰色粘土：累計厚10mm		
							100	12	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・走向・傾斜はN20°E87°Wである。		
							100	10	20	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・傾斜は60°である50°、下盤境界の傾斜は43°である。		
							100	22	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	・上盤境界の傾斜は43°である。

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	事記
130			++++	花崗斑岩	褐灰	CH'	100	31	64	64	64	64	119.30~180.00m	<ul style="list-style-type: none"> ・花崗斑岩である。 ・120.10~129.84m ・硬質で割れ目が少なく、主として短柱~柱状を呈する。 ・割れ目に挟在物は見られず、割れ目面もほぼ新鮮である。 					
							100	23	74	74	74	120.10~129.84m							
							100	21	76	76	76	120.10~129.84m							
							100	26	88	88	88	120.10~129.84m							
							100	20	47	47	47	120.10~129.84m							
							100	19	79	79	79	120.10~129.84m							
							100	13	35	35	35	120.10~129.84m							
							100	12	23	23	23	120.10~129.84m							
							100	20	34	34	34	120.10~129.84m							
							100	10	20	20	20	120.10~129.84m							
140			++++	花崗斑岩	灰褐	CM'	100	14	24	24	24	129.84~129.91m	<ul style="list-style-type: none"> ● 29.84~129.91m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・緑灰色の礫混じり粘土状~灰白色の粘土質礫状を呈する。 ・緑灰色礫混じり粘土：累計厚5mm ・走向・傾斜はN25°E24°Eである。 ・傾斜は70°である。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は60°~70°である。 ・132.00~180.00m ・硬質で割れ目が少なく、主として短柱~長柱状を呈する。 ・割れ目面はほぼ新鮮で、挟在物はわずかにある。 ・132.41~134.33m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 						
							100	11	11	11	11	132.00~180.00m							
							100	16	28	28	28	132.00~180.00m							
							100	29	58	58	58	132.00~180.00m							
							100	15	71	71	71	132.00~180.00m							
							100	27	72	72	72	132.00~180.00m							
							100	52	52	52	52	132.00~180.00m							
							100	13	34	34	34	132.00~180.00m							
							100	16	48	48	48	132.00~180.00m							
							100	14	14	14	14	132.00~180.00m							
150			++++	花崗斑岩	灰褐	CM'	100	10	30	30	30	134.33~141.97m	<ul style="list-style-type: none"> ・134.33~141.97m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに片状化している。 ・緑泥石脈、石英脈が点在する。 ・141.97~147.08m ・硬質であるが、割れ目がやや多く、主として短柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに、細片化している。 						
							100	8	0	0	0	141.97~147.08m							
							100	11	32	32	32	141.97~147.08m							
							100	13	13	13	13	141.97~147.08m							
							100	25	37	37	37	141.97~147.08m							
							100	22	62	62	62	141.97~147.08m							
							100	11	32	32	32	141.97~147.08m							
							100	15	39	39	39	141.97~147.08m							
							100	15	25	25	25	141.97~147.08m							
							100	43	90	90	90	141.97~147.08m							
150			++++	花崗斑岩	にぶい褐	B'	100	36	95	95	95	147.08~152.23m	<ul style="list-style-type: none"> ・147.08~152.23m ・柱状~一部短柱状を呈する。 ・一部の割れ目で細片化、緑泥石化しているが、全体に挟在物はわずかにある。 						
							100	21	43	43	43	152.23~166.65m							
							100	30	78	78	78	152.23~166.65m							
							100	16	28	28	28	152.23~166.65m							
							100	26	53	53	53	152.23~166.65m							
							100	32	61	61	61	152.23~166.65m							
							100	32	93	93	93	152.23~166.65m							
							100	16	28	28	28	152.23~166.65m							
							100	26	53	53	53	152.23~166.65m							
							100	32	61	61	61	152.23~166.65m							



第7.4.4.172図 (5) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-3孔)

H27-B-4

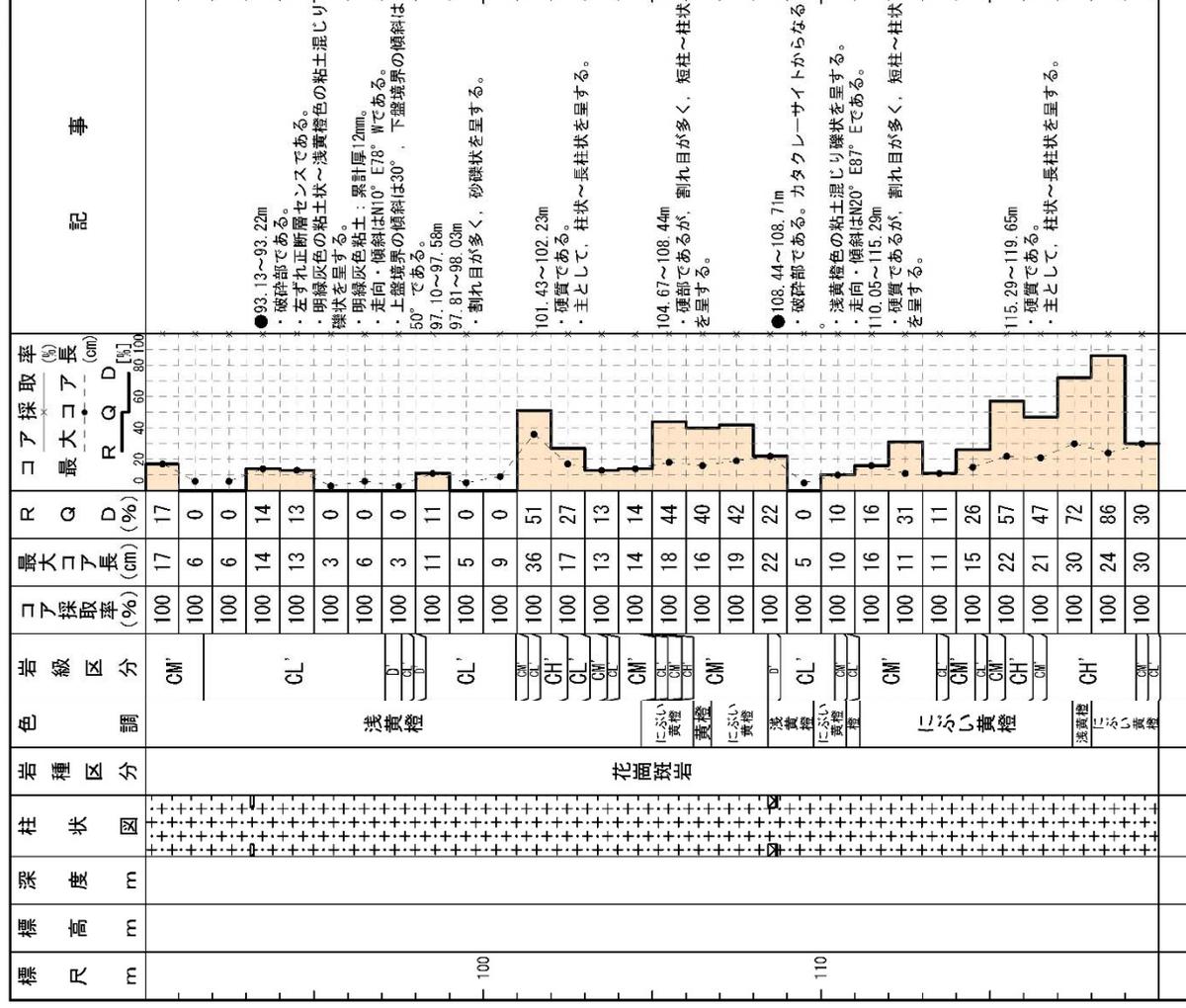
孔口標高	T.P.	掘削長	140.00m
		6.95m	

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	採長 R Q D (%)	記事							
10	-6.80	13.75		盛土	明黄褐		100					0	0	0	0.00~13.75m	<ul style="list-style-type: none"> 盛土である。 13.75~144.00m ・花崗斑岩である。 13.75~14.67m ・強風化部である。 ・割れ目の多くは不詳明である。 ● 15.91~16.36m(0-1破碎帯) ・破碎部である。 ・正助層ゼンスである。 ・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土混じり礫状を呈する。 ・緑灰~灰白色粘土：累計厚31mm ・走向・傾斜はN16° W83° Wである。 ・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。 16.52~17.03m ・一部砂~礫状を呈する。 17.03~17.86m ・低角度の割れ目が多い。 20.23~20.37m ・割れ目沿いに、一部細礫状を呈する。 20.55~20.65m 20.87~20.94m ・礫状を呈する。 22.47~22.55m ・礫状を呈する。 25.96~26.19m 26.96~27.22m ・軟層である。 ● 29.74~29.78m ・破碎部である。カタクレーサイトからなる。 ・白色の粘土状を呈する。 ・白色粘土：累計厚2mm ・走向・傾斜はN1° E75° Wである。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は67°である。 						
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
							100															
20				花崗斑岩	淡橙	D'	100	4	0	0												
						CL'	100	4	0	0												
						D'	100	3	0	0												
						CL'	100	14	14													
						CL'	100	15	15													
							100	9	0	0												
							100	5	0	0												
						CM'	100	11	11													
						CM'	100	7	0	0												
						CL'	100	5	0	0												
						CL'	55	5	0	0												
						CL'	52	18	18													
						CM'	100	14	28													
						CM'	100	9	0	0												
						CL'	100	15	15													
						CL'	100	11	21													

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
40			+++++	花崗斑岩	にふい橙 灰目	GL'	100	13	25				31.77~31.93m	<ul style="list-style-type: none"> ・低角度で、ほぼ並行する微細な割れ目が多い。 ・傾斜30°程度の、ほぼ並行する割れ目が多い。 ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 ・低角度の、ほぼ並行する割れ目が多い。 ・割れ目沿いに、一部白色鉱物脈を挟む。 ・高角度の割れ目に沿って、幅12mm程度砂~細礫状を呈する。 ・37.36~39.84m ・硬質である。 ・主として、短柱~柱状を呈する。 ・41.00~41.20m ・低角度と高角度の割れ目が交差し、網目状を呈する。 		
							100	12	12							
							100	10	22							
							100	17	27							
							100	12	22							
							100	14	14							
							100	10	10							
							100	28	28							
							100	22	56							
							100	15	29							
							100	8	0							
							100	6	0							
							100	4	0							
							100	3	0							
							100	21	21							
							100	8	0							
							100	10	10							
							100	9	0							
							100	5	0							
							100	11	21							
100	6	0														
100	11	11														
100	6	0														
100	4	0														
100	9	0														
100	7	0														
100	10	10														
100	6	0														
100	19	32														
100	32	44														
50			+++++	花崗斑岩	にふい橙 明黄橙	GL'	100	10	10				46.10~46.35m	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜60°~70°の割れ目が多い。 ・47.11~47.32m ・微細な割れ目が、網目状に分布する。 ・48.30~48.33m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる。 ・にふい橙色の粘土状を呈する。 ・にふい橙色粘土：累計厚30mm ・走向・傾斜はN48° E78° Eである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・50.43~50.60m ・軟質である。 ・51.20~51.43m ・51.66~51.97m ・52.38~52.44m ・微細な割れ目が多い。 ・54.96~55.55m ・低角度の割れ目が多い。 ・56.45~56.61m ・低角度と高角度の割れ目が交差し、網目状を呈する。 		
							100	9	0							
							100	7	0							
							100	10	10							
							100	6	0							
							100	19	32							
							100	32	44							

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事									
70			+++++	花崗斑岩	にぶい橙	GL'	100	4	0	0	60.07~60.45m	・ 微細な割れ目が多い。 63.90~64.30m ・ 変質している。 ・ 軟質化しており、割れ目は不鮮明である。 ● 64.65~64.91m ・ 破碎部である。 ・ 正断層センスである。 ・ 褐灰色の粘土状~にぶい橙色の粘土混じり稜状を呈する。 ・ 褐灰色粘土：累計厚3mm。 ・ 走向・傾斜はN4°E87°Eである。 ・ 上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。 ● 65.59~65.72m ・ 破碎部である。カタクレサイトからなる。 ・ 灰白色の粘土状~褐灰色の砂~礫状を呈する。 ・ 灰白色粘土：累計厚3mm。 ・ 走向・傾斜はNS78°Wである。 ・ 上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は62°である。 67.28~67.75m ・ 変質している。 ・ 灰白色を呈し、粘土化している。 68.97~69.08m ・ 砂~細礫状を呈する。 74.19~74.34m ・ 傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・ 傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・ 傾斜35°~55°の、同方向の割れ目が多い。 83.32~84.05m ・ 硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・ 割れ目が多く、軟質化している。 86.14~88.26m ・ 硬質である。 ・ 主として、柱状~長柱状を呈する。 89.27~89.44m ・ 微細な割れ目が多い。										
							100	3	0	60.82~61.72m												
							100	3	0													
							100	6	0													
							100	4	0													
							100	3	0													
							100	3	0													
							100	3	0													
							100	2	0													
							100	3	0													
							100	9	0													
							100	5	0													
							100	5	0													
							100	8	0													
							100	7	0													
							100	6	0													
							100	8	0													
							100	6	0													
							80			+++++	花崗斑岩		淡橙	100	13	13						
														100	14	14						
100	13	24																				
100	15	26																				
100	13	13																				
100	12	34																				
100	8	0																				
100	9	0																				
100	13	23																				
100	23	62																				
			+++++	淡黄橙	100	13	24															
					100	13	24															
					100	8	20															
					100	8	20															

第7.4.4.173図 (3) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)



第7.4.4.173図 (4) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋付近) コア柱状図 (H27-B-4孔)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm)	記事
			++++	花崗斑岩	にぶい 黄橙 洗典橙	CH'	100	32	55	120.40~122.46m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。	
			++++				100	28	83	123.26~127.00m ・硬質であるが、割れ目が多く、主として短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。	
			++++				100	36	36		
			++++				100	8	0		
			++++				100	26	71		
			++++				100	20	47		
			++++				100	14	24		
			++++				100	12	12		
			++++				100	8	0		
			++++				100	32	43	128.90~129.15m ・割れ目治いに、一部礫状を呈する。	
			++++				100	9	0		
			++++				100	33	46	130.42~139.72m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。一部、長柱状を呈する。	
			++++				100	26	45		
			++++				100	26	57		
			++++				100	14	45		
			++++	100	22	38					
			++++	100	9	0					
			++++	100	24	54	138.01~138.16m ・微細な割れ目が多い。				
			++++	100	16	28	140.00~141.42m ・割れ目治いに、細礫状を呈する箇所が多い。				
			++++	100	9	0					
	-133.05, 140.00		++++								

H19-No. 2

標高	127.40m
掘削長	220.00m

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事																																																																																											
10	124.26	4.70	+++++	花崗斑岩	灰黄 にぶい黄	D'	100	0	0	0	0	0	0	0.00~4.70m ・花崗斑岩である。 ・0.12~4.70m ・強風化部である。 ・2.35~2.42m ・変質が強い。																																																																																											
															122.05	8.00	* * *	アブライト	灰黄	D'	100	0	0	0	0	0	4.70~8.00m ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。 ・強風化しており、割れ目に植物根を抜く。																																																																														
																												120.57	10.20	* * *	花崗斑岩	明赤灰	D'	100	0	0	0	0	8.00~10.20m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭である。 ・強風化しており、割れ目に酸化マンガンを含む。																																																																		
																																								118.70	13.00	* * *	アブライト	灰白	CL'	100	18	18	18	10.20~90.62m ・アブライトが主体である。 ・所々に花崗斑岩とベグマタイトを挟む。 ・上端境界は不明瞭である。																																																							
																																																			118.40	13.45	* * *	ベグマタイト	灰白	CL'	100	13	35	35	13.00~13.45m ・上端境界は不明瞭である。																																												
																																																														117.22	15.21	* * *	アブライト	灰白	CL'	100	12	12	12	15.21~15.35m ・ベグマタイトである。 ・アブライトとの境界は傾斜10°~45°である。																																	
																																																																									116.44	15.63	* * *	ベグマタイト	にぶい黄	D'	100	8	0	0	18.30~19.10m ・強風化部である。																						
																																																																																				114.44	19.10	* * *	アブライト	明褐灰	CL'	100	24	44	44	22.58~24.38m ・変質している。 ・粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は6°、下端境界の傾斜は5°である。											
																																																																																															112.44	22.65	* * *	アブライト	にぶい黄	D'	100	23	82	82	24.38~24.46m ・破砕部である。 ・砂質シルト状を呈する。 ・ボアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。
108.23	28.65	* * *	花崗斑岩	灰黄褐	CM'	100	58	76	76	29.62~30.00m ・花崗斑岩である。 ・上端境界、下端境界は漸移的である。																																																																																															
											107.13	30.30	* * *	アブライト	灰黄	CL'	100	30	63	63	30.00~31.10m ・トレライトを含む。 ・変質している。 ・灰白色粘土を網目状に挟む。 ・上端境界の傾斜は3°、下端境界の傾斜は27°である。																																																																																				
																						105.13	32.30	* * *	アブライト	にぶい黄	D'	100	17	30	30	31.10~31.44m ・変質している。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。																																																																									
																																	103.13	34.30	* * *	アブライト	明赤褐	CM'	100	19	40	40	31.44~44.90m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。 ・変質している。																																																														
																																												101.13	36.30	* * *	アブライト	にぶい黄	D'	100	41	95	95	36.30~36.46m ・変質している。 ・粘土化している。 ・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は77°である。																																																			
																																																							99.13	38.30	* * *	アブライト	明黄褐	CM'	100	25	69	69	39.83~39.88m ・変質している。																																								
																																																																		97.13	40.30	* * *	アブライト	にぶい黄	D'	100	29	82	82																														
																																																																													95.13	42.30	* * *	アブライト	明黄褐	CM'	100	52	98	98																			

第7.4.4.174図 (1) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2孔)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D (%)	記事
50			* * * * *	アブライト	明赤灰 にぶい 黄橙	D'	100	38	90				●44.90~45.75m	<ul style="list-style-type: none"> ・破砕部である。 ・暗褐～淡黄～灰白色のシルト状～粘土混じり強状を呈する。 ・褐色シルト；累計厚60mm ・走向・傾斜はN32°E26°Wである。 ・上盤境界の傾斜は32°、下盤境界の傾斜は40°である。 ・45.75~49.77m ・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。 ・49.77~50.42m ・変質している。 ・砂状化しており、網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は33°である。 ・50.42~54.44m ・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。 ・54.44~55.56m ・風化部、土砂状を呈する。 			
							100	30	91	CM'							
							100	29	95	CM'							
							100	29	64	CL'							
							100	100	100	D'							
							100	25	25	CM'							
							100	28	78	CL'							
							100	26	88	D'							
							100	19	79	CM'							
							100	38	68	D'							
							100	23	48	CL'							
							100	30	87	CM'							
60			* * * * *	アブライト	明赤灰 にぶい 黄橙	D'	100	20	33				●57.00~59.80m	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。 ・57.00~59.80m ・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。 ・60.49~65.15m ・弱変質をうけ、軟質化している。 ・61.25~61.30m ・角礫状化している。 ・62.46~63.04m ・変質帯にしている。 ・黄灰色に砂状化している。 ・下端境界の傾斜は30°である。 ・65.20~71.00m ・割れ目が少なく、柱状～長柱状を呈する。 			
							100	12	22	CL'							
							100	39	52	CM'							
							100	75	95	CL'							
							100	45	88	D'							
							100	72	72	CL'							
							100	13	23	CM'							
							100	18	53	CL'							
							100	24	45	D'							
							100	17	40	CL'							
							100	18	66	CM'							
							100	50	90	CL'							
100	54	89	D'														
100	45	100	CM'														
70			* * * * *	アブライト	明赤灰 にぶい 黄橙	D'	100	28	94				●71.14~78.32m	<ul style="list-style-type: none"> ・弱変質をうけ、軟質化している。 ・71.14~78.32m ・弱変質をうけ、軟質化している。 ・73.17~73.67m ・変質している。 ・土砂状～岩片状を呈する。 ・上端境界の傾斜は86°、下端境界の傾斜は54°である。 ・76.00~78.32m ・割れ目が多く、岩片状～短柱状を呈する。 			
							100	21	21	CL'							
							100	11	11	D'							
							100	11	11	CL'							
							100	19	73	CM'							
							100	32	68	CL'							
							100	0	0	D'							
							100	20	31	CL'							
							100	28	68	CM'							
							100	35	100	D'							

第7.4.4.174図 (2) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2孔)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
130	45.57 44.63	122.30 123.70	* * * * * * * * * *	アフライト 花崗斑岩	にぶい黄橙 灰白	GM' B'	100 100 100 100 100 100 100 100 100 100	43 35 64 40 31 18 26 33 28 23 33 19 36 73 55 66 43 45 41 44 26 36 80 13 37 34 21	96 91 99 81 83 51 88 76 55 62 85 55 45 73 86 87 90 91 80 70 83 84 42	R Q D	R Q D	最大コア長 (cm)	記事	
														122.30~123.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。 123.70~136.55m ・アフライトである。 ・上端境界は漸移的である。 125.00~125.47m ・変質を受け、岩質が脆くなっている。
														128.29~129.35m ・割れ目に沿って、褐色シルトを挟む。
														131.45~131.90m 134.30~134.50m ・頁晶が散在する。
														134.77~135.30m ・割れ目が多く、角礫状を呈する。 ・割れ目に沿って、砂~シルトを挟む。 136.55~141.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は20°である。 141.70~169.30m ・アフライトが主体である。 ・所々に厚さ60~130cmの花崗斑岩を挟む。 ・上端境界は漸移的である。 141.88~144.00m ・高角度の割れ目が多い。
														●146.29~146.32m ・破砕部である。 ・褐色のシルト混じり砂状を呈する。 ・シルト混じり砂：累計厚30m。 ・走向・傾斜はN7°E64°Wである。 ・上端境界の傾斜は31°、下端境界の傾斜は62°である。 146.32~146.45m ・変質帯である。 ・砂状~礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は62°、下端境界の傾斜は45°である。
														●147.04~147.06m ・破砕部である。 ・明灰色のシルト質砂状を呈する。 ・明灰色のシルト質砂：累計厚23m。 ・走向・傾斜はN31°W70°Wである。 ・上端境界の傾斜は23°、下端境界の傾斜は34°である。 147.06~147.20m ・変質している。 ・砂状~砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は34°である。 147.25~147.58m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。上端境界に幅2~4mmの灰白色縁辺シリシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は25°、下端境界の傾斜は38°である。
														●149.71~149.84m (D-I破砕帯) ・破砕部である。 ・右すれ正断層センスである。 ・灰白色~褐色粘土状を呈する。 ・灰白色~褐色粘土：累計厚80mm ・走向・傾斜はN2°W72°Wである。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は54°である。 149.84~150.34m ・変質している。 ・割れ目が密集する。砂状を呈する。 ・上端境界の傾斜は54°、下端境界の傾斜は41°である。 150.59~150.80m ・變質している。 ・礫混じり砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は69°、下端境界の傾斜は43°である。 151.31~151.50m ・変質している。 ・明褐~明黄灰色のシルト状を呈する。

第7.4.4.174図 (4) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2孔)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	Q (%)	D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
170	16.57, 165.63	15.86, 166.70	**	アフライト	にぶい 黄褐色	CM'	100	31	53			0.20	40	161.22~161.45m
							100	12	22			0.40	60	161.70~161.80m
170	14.12, 169.30		**	アフライト	にぶい 黄褐色	CL'	100	29	65			80	100	163.72~163.91m
							100	13	13			80	100	165.63~166.70m
170			**	花崗斑岩	明褐色	CM'	100	19	42			80	100	166.70~169.30m
							100	19	41			80	100	167.30~169.53m
170			**	アフライト	明褐色	CL'	100	26	46			80	100	169.59~170.18m
							100	22	72			80	100	170.18~174.47m
170			**	花崗斑岩	明褐色	CM'	100	42	91			80	100	177.49~178.40m
							100	34	89			80	100	
170			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	28	85			80	100	
							100	22	47			80	100	
180			**	花崗斑岩	にぶい 橙	CL'	100	31	44			80	100	
							100	28	65			80	100	
180			**	花崗斑岩	にぶい 橙	CM'	100	22	22			80	100	
							100	37	52			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	25	52			80	100	
							100	64	85			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	37	75			80	100	
							100	18	79			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CM'	100	17	63			80	100	
							100	23	83			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	18	45			80	100	
							100	40	40			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CH'	100	31	69			80	100	
							100	56	88			80	100	
180			**	花崗斑岩	にぶい 黄褐色	CM'	100	28	63			80	100	
							100	15	29			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	16	28			80	100	
							100	28	55			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	21	36			80	100	
							100	38	71			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CM'	100	95	95			80	100	
							100	46	77			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	42	88			80	100	
							100	41	53			80	100	
180			**	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	18	58			80	100	
							100	18	58			80	100	

第7.4.4.174図 (5) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2孔)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	コア長 (cm)	R	Q	D (%)	最大コア長 (cm)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	採 取 率 (%)	長 (cm)	事 記																																																																																			
210	-8.35	202.87	+	花崗斑岩	明褐色	CM'	100	19	53	0	20	40	60	80	100	100	202.81~202.85m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 202.81~202.85m ・ 破砕部である。 ・ 浅黄色の礫混じりシルト状~シルト混じり礫状を呈する。 ・ 浅黄色礫混じりシルト：累計厚25mm ・ 走向・傾斜はN32° E64° Wである。 ・ 上盤境界の傾斜は63°、下盤境界の傾斜は64°である。 																																																																																		
																			210	-11.49	207.57	+	アプライト	明褐色	D'	100	19	16	16	20	41	100	100	207.57~216.70m	<ul style="list-style-type: none"> ・ アプライトである。 ・ 207.57~216.70m ・ 花崗斑岩である。 																																																																	
																																				210	-17.60	216.70	+	花崗斑岩	にぶい褐色	CM'	100	19	73	18	18	18	100	100	207.94~208.69m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 207.94~208.69m ・ 破砕部である。 ・ 灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。 ・ 灰白色礫混じりシルト：累計厚90mm ・ 走向・傾斜はNS66° Wである。 ・ 上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。 																																																
																																																					210	-17.60	216.70	+	花崗斑岩	明褐色	CL'	100	17	27	31	42	100	100	212.00~212.07m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 212.00~212.07m ・ 破砕部である。 ・ 黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・ 黒色シルト質砂：累計厚40mm ・ 走向・傾斜はN6° W63° Wである。 																																
																																																																					210	-19.81	220.00	+	アプライト	にぶい黄褐色	CM'	100	21	67	21	67	100	100	215.42~215.46m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 215.42~215.46m ・ 破砕部である。 ・ 灰白色の礫混じりシルト状を呈する。 ・ 灰白色礫混じりシルト：累計厚35mm ・ 走向・傾斜はN9° W69° Wである。 ・ 下盤境界の傾斜は55°である。 ・ 逆断層の構造が見られる。条線方向は30度右である。 																
																																																																																					210	-19.81	220.00	+	アプライト	明褐色	CL'	100	17	27	28	65	100	100	216.15~216.24m	<ul style="list-style-type: none"> ・ 216.15~216.24m ・ 破砕部である。 ・ 褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。 ・ 走向・傾斜はN26° W61° Wである。 ・ 上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63度である。 ・ 下盤での条線方向は50度右である。 ・ 216.70~220.00m ・ アプライトである。 ・ 上盤境界は不明瞭である。

第7.4.4.174図 (6) D-1 破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H19-No. 2孔)

H19-No. 14

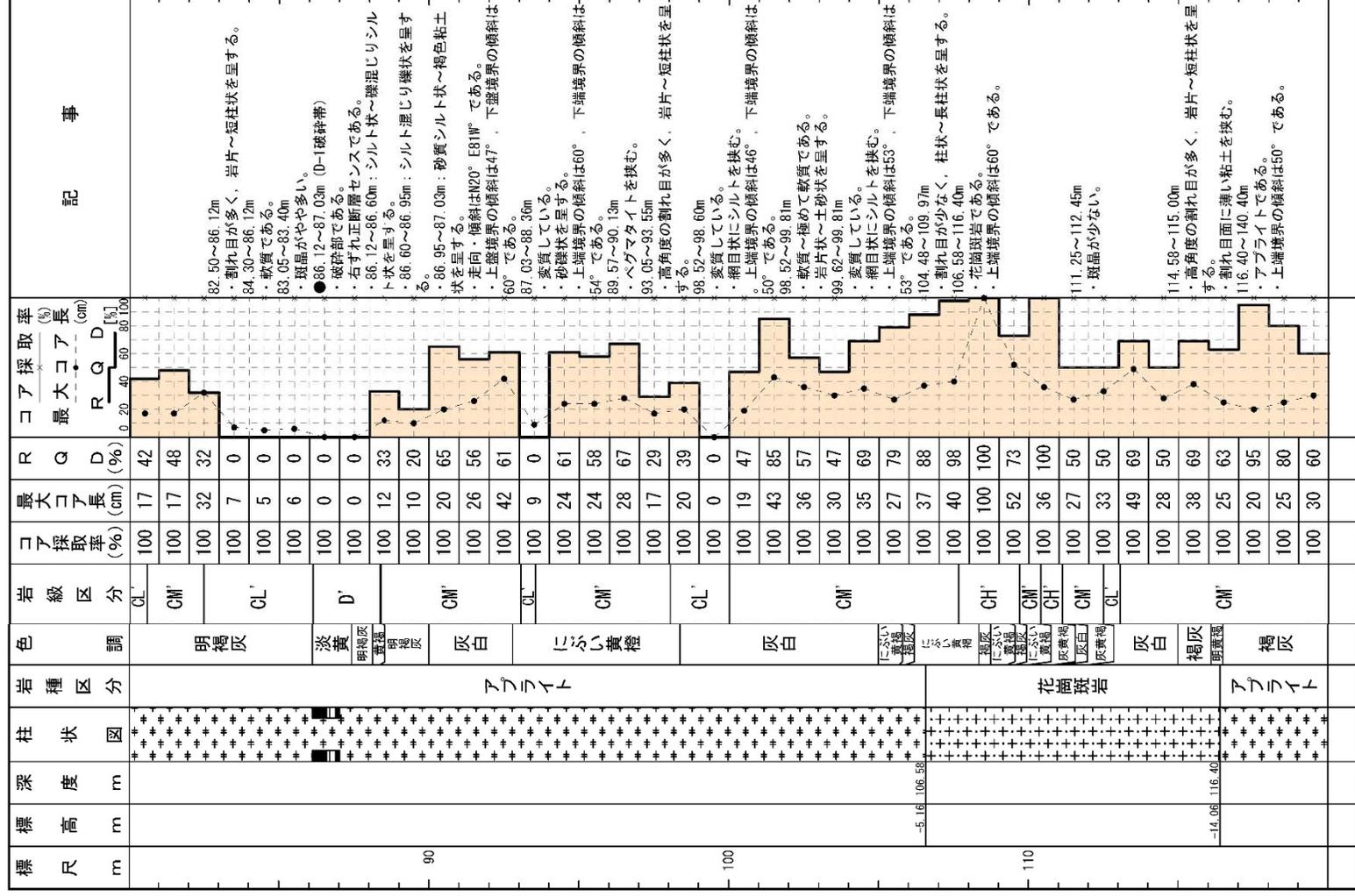
孔口標高 150.00m
掘削長 91.43m
I.P.

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R Q D (%)	記事
0	150.00	0.00	高有機質土	灰白	D	100	28	46		10.00~0.12m			・高有機質土である。 ・0.12~3.77m ・アフライトである。
3.77	88.01	3.77	アフライト	にぶい黄橙 区黄橙 にぶい黄橙	CM'	100	34	61					
4.82	87.06	4.82	花崗斑岩	灰白	CL'	100	28	28					
8.00				にぶい黄橙 褐灰	CM'	100	18	64		3.77~4.82m			・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は18°である。 ・4.82~22.15m ・アフライトである。
11.95				にぶい黄橙	CM'	100	28	85		8.00~8.08m			・明褐色流入粘土が見られる。 ・8.44~8.62m ・変質している。 ・シルト状~一部葉片状を呈する。 ・上端境界の傾斜は55°、下端境界の傾斜は43°である。 ・11.95~12.88m ・軟質~中硬質である。
14.35				褐灰	CL'	100	49	63		14.35~16.90m			・高角度の割れ目が多く、流入粘土を挟む。
18.42				灰白	CM'	100	36	94					
19.23					CL'	100	32	57		18.42~18.55m			・幅2~5mmの明褐色流入粘土が見られる。 ・19.23~19.37m ・変質している。 ・シルト混じり礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は45°である。 ・22.15~25.16m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。
22.15	71.36	22.15	花崗斑岩	褐灰 灰白	CM'	100	34	60		22.25m			
25.16	68.63	25.16			CL'	100	45	88		22.85m			
29.45				にぶい黄橙	CM'	100	53	92		23.14~23.20m			
33.65					CH'	100	39	82		23.88m			
34.50					CM'	100	40	51		23.90m			
38.80					B'	100	28	56		25.06~25.10m			・明褐色流入粘土が見られる。 ・アフライトである。 ・上端境界は漸移的である。 ・29.45~34.50m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭である。 ・30.80m ・幅5mmの流入粘土が見られる。
43.75	64.74	29.45	アフライト	にぶい黄橙	CM'	100	54	100		33.65~35.15m			・割れ目が少なく、長柱状を呈する。 ・アフライトである。 ・上端境界は不明瞭である。 ・38.80~40.57m ・軟質~中硬質である。 ・割れ目に沿って流入粘土を挟む。
47.75	60.16	34.50	花崗斑岩	青灰 にぶい黄橙 灰黄橙	B'	100	38	82		34.50~43.75m			
51.50					CM'	100	47	95					
55.50					CM'	100	32	67					
59.50					CM'	100	23	39					
63.50					CM'	100	25	54					
67.50					CL'	100	40	79					
71.50					CM'	100	20	50					

第7.4.4.175図(1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方)

コア柱状図 (H19-No. 14孔)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事																																																																																																										
50	51.78	43.75	* * * * *	アフライト	灰黄褐	CM'	100	22	56	56	56	56	22	56	●40.56~40.57m ・破砕部である。 ・幅12mmの黒褐色の礫質粘土状を呈する。 ・走向・傾斜はN11°E77°Wである。																																																																																																									
																50.10	45.60	* * * * *	アフライト	にふい黄橙	CM'	100	30	70	70	70	30	70	43.75~45.60m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は漸移的である。																																																																																											
																														40.90	55.75	* * * * *	アフライト	淡赤橙	CH'	100	26	43	43	26	43	45.60~55.75m ・アフライトである。 ・上端境界付近は破砕部である。																																																																														
																																											40.18	56.55	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	13	23	23	13	23	●45.63~45.70m ・破砕部である。 ・幅60~90mmの明黄色の礫連しりシルト状~明褐色のシルト混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN18°E83°Wである。 ・上端境界は傾斜30°、下盤境界は傾斜58°である。																																																																	
																																																								38.56	58.40	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	32	60	60	32	60	45.70~56.00m ・軟質である。																																																				
																																																																					37.28	59.80	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	56	72	72	56	72	48.50~50.50m ・高角度の割れ目が多く、岩片~柱状を呈する。																																							
																																																																																		36.80	60.50	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	88	100	88	100	88	51.26~51.30m ・変質している。 ・暗褐色の礫連しり砂質シルト状を呈する。																										
																																																																																															35.78	61.40	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	19	68	68	19	68	52.25~52.78m ・変質している。 ・暗灰色のシルト混じり礫状を呈する。													
																																																																																																												35.59	61.70	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	28	69	69	28	69	55.75~59.80m ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭。 ・アフライトを挟む。
27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	28	62	62	28	62	59.80~68.20m ・アフライトである。 ・上端境界は不明瞭。 ・花崗斑岩を挟む。																																																																																																												
													27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	39	92	92	39	92	61.55~65.00m ・斑晶がやや多い。 ・軟質である。																																																																																															
																										27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	17	30	30	17	30	62.70~66.18m ・軟質である。																																																																																		
																																							27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	63	90	90	63	90	62.92~62.97m ・変質している。																																																																					
																																																				27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	8	0	0	8	0	66.18~67.20m ・変質している。 ・砂礫状を呈する。 ・上端境界の傾斜は28°、下盤境界の傾斜は30°である。																																																								
																																																																	27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	20	60	60	20	60	67.78~68.11m ・破砕部である。 ・粘土状~礫状を呈する。																																											
																																																																														27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	28	74	74	28	74	68.20~74.47m ・軟質である。																														
																																																																																											27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	18	57	57	18	57	70.60~70.70m ・ベグマタイトを挟む。																	
																																																																																																								27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	39	79	79	39	79	70.85~106.58m ・アフライトである。				
																																																																																																																					27.22	70.85	* * * * *	アフライト
27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	36	74	74	36	74	74.77~80.00m ・割れ目が多い。																																																																																																												
													27.22	70.85	* * * * *	アフライト	明褐灰	CL'	100	18	71	71	18	71	割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。																																																																																															



第7.4.4.175図 (3) D-1破砕帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H10-No.14孔)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	事記
130			#	アフライト	灰青褐 褐灰 明黄褐	CM'	100	34	78					121.60~122.10m 122.60~123.10m 123.60~123.80m ・珪晶が多い。 ●123.32~123.34m ・破砕部である。 ・幅15mmの灰~黄灰色シルト質砂状を呈する。 ・走向・傾斜はN32° E79° Wである。 ・上盤境界の傾斜は50°、下盤境界の傾斜は55°である。 128.30~128.55m ・珪晶が多い。
							100	45	68					
140	-35.92	140.40	#	アフライト	にふい橙	CM'	100	52	68					132.46~133.78m ・割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。 ・割れ目に沿って褐~灰白色シルトを挟む。 133.36~133.41m ・珪質している。 ・黄灰色の砂質シルト状を呈する。 ・上盤境界の傾斜は32°、下盤境界の傾斜は39°である。 135.32~135.51m ・珪質している。 ・軟質化している。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は47°である。
							100	31	65					
-44.52	150.00		+	花崗斑岩	にふい橙	CM'	100	40	77					140.40~150.00m ・花崗斑岩である。 ・上盤境界の傾斜は30°~35°である。
							100	28	71					
							100	28	60					
							100	18	62					
							100	18	45					
							100	52	81					
							100	40	86					
							100	18	71					
							100	24	36					
							100	26	52					
							100	36	49					
							100	47	91					
							100	23	53					
							100	38	58					
							100	46	56					
							100	28	41					
							100	14	36					
							100	17	49					
							100	39	55					
							100	46	80					
							100	20	37					
							100	29	74					
							100	18	18					
							100	70	82					
							100	38	80					

第7.4.4.175図(4) D-1破砕帯 ボーリング調査結果(2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図(H19-No.14孔)

H20-2-1

孔口標高	T.P. 69.01m	掘削長	65.00m
------	-------------	-----	--------

標尺	標高	深度	柱状図	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記 事
10	65.00	0.00	+	花崗斑岩	淡橙	D'	100	0	0	0	0	0.00	0.07	・腐植土である。 ・0.07~8.06m ・アブライトが主体である。
	66.71	2.30	+	花崗斑岩	淡黄	CL'	100	17	32			2.30	2.30	・2.30~2.65m ・2.90~3.20m
	66.30	2.69	+	花崗斑岩	黄		100	12	22			3.98	3.98	・3.98~4.34m
	65.06	3.05	+	花崗斑岩	明褐	CM'	100	13	13			0.07	0.07	・アブライトとの境界は漸移的である。
	64.81	3.19	+	花崗斑岩	灰		100	17	49			0.07	0.07	・極めて軟質である。
	61.84	7.17	+	花崗斑岩	淡橙	D'	100	22	22			0.07	0.07	・傾斜25°及び60°程度の割れ目が見られる。
	60.36	8.64	+	花崗斑岩	橙		100	4	0			0.07	0.07	・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
	59.24	9.07	+	花崗斑岩	淡黄橙	CL'	100	12	22			2.01	2.01	・軟質である。
	58.85	10.06	+	花崗斑岩	黄橙		100	22	36			7.17	7.17	・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は17°である。
	58.07	10.94	+	花崗斑岩	灰白	CM'	100	36	46			7.71	7.71	・傾斜40°~75°程度、幅1mm以下の石英脈を多数採む。
57.88	11.17	+	花崗斑岩	灰白	100		11	22			8.06	8.06	・花崗斑岩である。 ・アブライトとの境界は漸移的である。	
20	57.88	11.17	+	花崗斑岩	橙	CM'	100	42	53			9.67	9.67	・黒雲母花崗岩を採む。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	灰白		100	31	68			10.94	10.94	・ベグマタイトである。 ・径5~50mm程度の石英、長石からなる。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	灰白	CH'	100	48	77			10.94	10.94	・中硬質である。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明赤褐		100	36	73			11.21	11.21	・径5~50mm程度の石英、長石からなる。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄褐	CL'	100	27	47			14.79	14.79	・花崗斑岩である。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄		100	23	56			14.79	14.79	・軟質である。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	淡黄橙	CM'	100	31	55			14.79	14.79	・傾斜70°程度の割れ目が見られる。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	黄		100	33	81			14.79	14.79	・割れ目に沿って褐色化し、マンガンや灰白色粘土を伴うことが多い。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明褐	CH'	100	38	95			18.26	18.26	・硬質である。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	褐灰		100	38	71			18.26	18.26	・傾斜20°及び70°程度の割れ目が見られる。
30	57.88	11.17	+	花崗斑岩	橙	CM'	100	36	77			24.61	24.61	・割れ目節理に沿って褐色化し、一部灰白色粘土を伴う。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明褐		100	27	70			24.61	24.61	・傾斜80°程度、幅1~2mm程度の石英脈を採む。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄	CH'	100	18	53			26.62	26.62	・傾斜76°程度、幅1~2mm程度の石英脈を採む。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄		100	16	42			29.55	29.55	・傾斜45°及び75°程度の割れ目が見られる。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄	CM'	100	22	33			29.55	29.55	・割れ目に沿って褐色化し、マンガンを伴うことが多い。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄		100	16	42			29.55	29.55	・中硬質である。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄	CH'	100	23	82			32.01	32.01	・傾斜66°程度、幅5~10mm程度の石英脈を採む。マンガンを伴う。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄		100	23	82			32.01	32.01	・傾斜67°程度、幅10mm程度のマンガンを採む。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄	CH'	100	37	80			32.22	32.22	・傾斜25°~33°程度、アブライトである。
	57.88	11.17	+	花崗斑岩	明黄		100	37	80			32.22	32.22	・上位の花崗斑岩との境界は漸移的である。

第7.4.4.176図 (1) D-1 破碎帯 ボーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H20-No. 2-1孔)

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩 級 区 分	コア 採 取 率 (%)	最大 コア 長 (cm)	R Q D (%)	コア採取率 (%)				記事		
										R	Q	D	最大コア長 (cm)			
40			+++++	花崗斑岩	明褐灰 にぶい 橙	CH'	100	46	69	0	20	40	60	80	100	39.55~41.72m ・傾斜20°及び80°程度の割れ目が見られる。
					明褐灰	CH'	100	25	88	0	10	10	43.16m ・傾斜45°程度、幅5~8mm程度の石英脈を挟む。 ・アプライトを挟む。 43.25~43.50m 44.20~45.50m 44.55~44.80m			
														明褐灰	CL'	
					明赤灰	D'	100	14	14	0	0	0	46.85~46.97m ・破砕部である。 ・明褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・灰白色粘土：累計厚0.6mm			
														明赤灰	D'	
				明赤灰	D'	100	7	0	0	0	0	48.26~48.99m ・破砕部である。 ・明褐色の礫質粘土状~礫混じり粘土状を呈する。 ・灰色~灰白色粘土：累計厚10mm ・走向・傾斜はN52° W71° Sである。 ・上盤境界の傾斜は69°、下盤境界の傾斜は45°である。				
													明赤灰	D'	100	12
				明赤灰	D'	100	7	0	0	0	0	51.10~57.42m ・軟質である。 51.73~52.12m 52.53~52.67m 53.67~53.72m 54.55~54.64m 55.85~55.90m 56.57~56.67m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上盤境界の傾斜は31°~77°である。				
													明赤灰	D'	100	15
				明赤灰	D'	100	13	13	0	0	0	64.78~65.00m ・変質している。 ・微細な割れ目が多く、一部に灰白色粘土、マンガンが網目状に分布する。 ・上盤境界の傾斜は45°、下盤境界の傾斜は不明である。				
													明赤灰	D'	100	8
明赤灰	D'	100	8	0	0	0	0	65.00m								

第7.4.4.176図 (2) D-I破砕帯 ポーリング調査結果 (2号炉原子炉建屋南方) コア柱状図 (H20-No.②-1孔)